テハ白領「コンゴー」トノ國境ニアル「タンガニカ」湖、又南方ニ於テハ南「ローデシヤ」及葡領東阿トノ國境ニアル「ニヤサ」湖附近ニ至リテ漸次低下シ、「タンガニカ」湖畔ニ於テハ約二、六〇〇呎、「ニヤサ」湖畔ニ於テハ三、九〇〇呎ノ地高トナル、尤モ北方ノ「ヴィクトリア」湖畔ニ於テハ「ケニヤ」トノ國境附近ニ海抜一九、七二〇呎ノ「キリマンヂャロ」山、及海抜一四、九六〇呎ノ「メル」山アリ、又西方ニ於テモ「ニヤサ」湖ニ沿ヒ海抜九、〇〇〇呎ノ「リヴィングストン」山アリ、是等諸山ヲ中心トシ海抜六、〇〇〇呎ノ高原ナキニアラサルモ、所謂本領内ノ高原地ト稱セラルル處ハ中央部全體ノ地方ニシテ海抜四、五〇〇呎ヲ上ル事ナシ、從テ地勢ハ自ラ分カレテ左ノ四帶トナル

(一)沿岸地帶　(二)中間地帶　(三)中央高原地帶　(四)山嶽地帶

(一)　沿　岸　地　帶

此ノ地帶ハ海岸及之ニ接續スル海抜三〇〇呎以内ノ坂地ニシテ、低地ハ幅一〇哩乃至四〇哩ニ及ヒ、夫ヨリ西ニ向ヒ緩漫ナル傾斜ヲ以テ隆起セリ

(二)　中　間　地　帶

此ノ地帶ハ沿岸地帶ト奥地高原トノ間ニアル海抜三〇〇乃至二、〇〇〇呎ノ地方ニシテ、傾斜極メテ緩漫且ツ中央ノ大高地ト共ニ且タル大平原ヲ爲シ土地ノ起伏極メテ尠シ

(三)　中央高原地帶

此ノ地帶ハ海抜二、〇〇〇呎乃至四、〇〇〇呎ノ地方ニシテ、奥地ノ「タンガニカ」湖畔迄連續スル大高原ナリトス

(四)　山　嶽　地　帶

此ノ地帶ハ東北部ノ「キリマンジャロ」及「メル」山附近ノ「ウサムバラ」及「モシ」高地、南部ノ「ウフヒバ」高地及西南ノ諸高地ニシテ海抜五、〇〇〇呎乃至一〇、〇〇〇ニ達シ、恰モ「ケニヤ」奥地ニ於ケル「キクユ」「ウアシンギシウ」等ノ大高原ニ比スベキ當領第一ノ肥沃地ト稱セラル

河川ハ右ノ地勢ニ制セラレ中央高原地ヲ出テ四方ニ流出シ、東流シテ印度洋ニ注クモノニハ「ウムバ」「パンガニ」「ルフィジ」「ロヴマ」等ノ諸河川アリ、西流シテ「タンガニカ」湖ニ流入スルモノニ「マラガラッシ」「ルグフ」等ノ諸川アリ、又北方ニ於テ「ヴィクトリア」湖ニ入ルモノニハ「カゲラ」河アリ、但シ何レモ舟運ノ便ニ乏シ

第三、氣　候

氣候ハ地勢殊ニ其ノ高度ニ依リテ大ナル相違アリ、今之ヲ左ノ四帶ニ分ッ

(一)沿岸地帶

本帶ハ全然熱帶的ニシテ雨季中及其ノ直前ハ濕氣多ク、暑氣最モ酷烈ナルノミナラス、晝夜ノ氣候ノ變化極メテ大ナリ

(二)中間地帶

沿岸地帶ニ比シ濕氣雨量共ニ稍〻尠ク、暑氣凌キ易シ、但シ晝夜ノ氣候ノ變化極メテ大ナリ

(三)中央高原地帶

此ノ地帶ハ雨量尠ク、空氣乾燥シ日中ハ暑氣可ナリ激シキモ前二帶ニ比スレハ遙ニ低ク、三千呎以上ノ處ニテハ氣候恰モ温帶ノ如ク生活極メテ容易ナリ、然レドモ晝夜ノ氣候ノ變化激甚ニシテ時トシテハ華氏三十六度ヲ越ユル事アリ

(四)山嶽地帶

此ノ地帶ハ氣候温帶的ニシテ夜間ハ寒冷ナリ、殊ニ土地ノ高度大ナル處ニ於テハ降霜アリ

雨季ハ東阿ノ他ノ地方ト同シク毎年二回アリテ、一月又ハ二月ニ始リ二三ケ月連續スル長雨ト、十月ヨリ十一月ニ亙ル短雨トアリ、然レドモ熱帶ノ割ニハ概シテ降雨尠ク旱魃ヲ見ル事稀ナリトセス

本地帶ハ當領ニ於テ最モ健康地ヲ以テ目セラルルモ土地高キニ過クル爲メ歐洲人ハ長期間引續キ居住スル時ハ神經衰弱症ヲ起スト云フ

(五)重ナル地方ノ氣溫及雨量表

「ダレサラム」ノ氣溫、濕度、雨量表（一九二五年、地高二〇呎）

月	最底平均	平均	最高平均	濕度平均	雨量	雨天ノ日
一月	二四・〇	二七・〇	三〇・〇	八九・五	八・五	一三
二月	二四・〇	二七・〇	三〇〇	九〇・五	四・六	一二
三月	二三・〇	二七・〇	三一・〇	八七・五	二・三	五
四月	二二・五	二六・五	三〇・五	九〇・〇	四・四	一〇
五月	二一・五	二六・〇	三〇・五	八七・五	二・一	九
六月	二〇・五	二五・〇	三〇・〇	八五・五	一・六	七
七月	一八・五	二三・〇	二七・五	八四・五	一・五	三
八月	一九・五	二四・五	二九・五	七九・〇	一	一

月						
九月	二〇・〇	二四・五	二八・五	八六・〇	一・五	五
十月	二一・五	二六・〇	三〇・〇	八六・五	二・一	四
十一月	二三・五	二七・〇	三〇・五	八九・五	五・九	一一
十二月	一四・五	二八・〇	三一・〇	八九・五	一二・六	一〇

「アルシヤ」ノ氣溫、雨量表（一九二五年、地高四、四一六呎）

月	最底平均	平均	最高平均	雨量	雨天ノ日
一月	一四・〇	二〇・五	二七・五	一一四・六	一五
二月	一三・〇	二一・五	三〇・〇	五五・四	七
三月	一五・〇	二一・五	二八・〇	一一〇・〇	一四
四月	一五・五	二二・〇	二八・〇	四三・九	一二
五月	一五・五	二一・五	二八・八	一八・〇	一六
六月	一四・〇	一九・五	二五・〇	一九・六	一二
七月	一三・〇	一八・五	二三・五	一九・九	七
八月	一二・五	一八・五	二五・〇	九・三	六
九月	一三・五	二〇・五	二八・〇	四・六	五
十月	一五・五	二一・五	二八・〇	一二三・三	一三
十一月	一五・五	二一・〇	二六・〇	四四九・〇	二一
十二月	一五・〇	二〇・五	二六・〇	一三七・九	一五

「キルワ」ノ氣溫及雨量表（一九二五年、海濱地）

月	最底平均	平均	最高平均	雨量	雨天ノ日
一月	二二・五	二六・〇	二九・五	一三九・九	一二
二月	二二・〇	二六・〇	二九・五	一七一・〇	一四
三月	二六・五	二九・五	三二・五	六一・〇	八
四月	二六・〇	二九・五	三二・五	七七・四	一一
五月	二一・五	二七・〇	三二・〇	三九・二	六
六月	二一・〇	二六・五	三二・〇	六・一	二
七月	一九・五	二五・〇	三一・〇	—	—
八月	一九・五	二五・〇	三一・〇	—	—
九月	二〇・五	二五・五	三〇・〇	一三・一	—
十月	二二・五	二六・五	三〇・〇	六二・〇	—
十一月	二三・五	二七・五	三一・五	六四・五	—
十二月	二二・五	二七・〇	三一・五	一〇五・四	—

「マンヨニ」（「ドドマ」州）ノ氣溫及雨量表（一九二五年、地高四一三五呎）

月	平均	最高平均	雨量	雨天ノ日
一月	一八・〇	二五・〇	二五四・七	二二
二月	一四・〇	二五・五	四九・二	六
	二一・五	二〇・〇	二五九	

「アマニ」(「タンガ」州)ノ氣溫及雨量（一九二五年、地高三〇〇四呎）

月	平均	最高平均	雨量	雨天ノ日
一月	一七・〇	二六・五	九二・五	一二
二月	一七・〇	二七・〇	二三一・七	一二
三月	一七・〇	二二・〇	九五・四	一四
四月	一七・〇	二七・〇	二一一・六	一六
五月	一七・〇	二五・〇	一三〇・四	一二
十二月	一六・〇	二三・五	一六〇・六	一二
一月	一七・〇	二六・五	九二・五	一二
二月	一七・〇	二七・〇	二三一・七	一二
三月	一七・〇	二二・〇	九五・四	一四
四月	一七・〇	二七・〇	二一一・六	一六
五月	一七・〇	二五・〇	一三〇・四	一二
六月	一六・〇	二三・五	一六〇・六	一二
七月	一五・五	二二・〇	一三六・五	一九
八月	一四・五	二二・〇	一三七・六	二二
九月	一四・五	二三・五	一三七・二	二二
十月	一六・五	二五・〇	四八五・二	二〇
十一月	一七・〇	二六・五	三四六・一	二三
十二月	一八・〇	二六・五	二一六・二	二一

第四、衞生

(一)一般狀況

「タンガニカ」カ赤道ニ近キニ拘ラス狹キ沿海地帶ノ外ハ總テ高原地ニシテ暑氣ノ酷烈ナラサル事ハ前ニ述ヘタル通リナルカ、健康上ヨリ云フ時ハ晝夜ノ氣候ノ差概シテ激甚ニシテ身體ニ支障ヲ與ヘ易キノミナラス、各種衞生上ノ危險ニ依リテ充タサルル事ハ種々ナル惡性ノ風土病ノ存在スル事ニ依リテ之ヲ知ル事ヲ得ヘシ、而シテ其ノ最モ不良地ト目セラルル所ハ「ヴィクトリア」湖ノ南岸ヨリ「タンガニカ」湖畔ニ至ル一帶ノ奥地ニシテ、「ムワンザ」州ヲ始トシ其ノ南方ノ「タボラ」、「キゴマ」、「ウフィパ」ノ諸州ニシテ、是等ノ地方ニ於テハ「マラリヤ」、睡眠病、黑水

病、「ペスト」、「ヨース」、黴毒、回歸熱等ノ諸病悉ク流行ス

(二) 政府ノ施設

當領政府カ衛生ノ爲ニ支出シタル經費ハ一九二五—二六年ニ於テハ一四七、七〇一磅、一九二六—二七年度ニ於テハ一九〇、六一六磅ニシテ、一九二六年末ニ於ケル醫員ノ數ハ中央衛生局員、研究所員昆蟲學者及齒科醫ヲ除キ、官吏ハ歐洲人四十六人、亞細亞人助手五十人並ニ開業醫十四人ナリトス

病院ノ數ハ歐洲人病院ハ「アルシャ」、「ダレサラム」、「モン」、「ムワンザ」、「タボラ」、「タンガ」ニ各一ケ所合計六ケ所、土人病院ハ土人ノ大集團地ニ十四ケ所合計二十四ケ所ニシテ、歐洲人病院ハ「ダレサラム」ニ於ケルモノハ其ノ組織稍ゝ完備セルモ他ハ應急的ノモノニ過キス、然レトモ土人病院ニ至リテハ孰モ克ク整頓シ、「ダレサラム」、「ムワンザ」、「タボラ」等ニ於ケルモノハ其ノ最タルモノナリ、蓋シ「ダレサラム」ノ歐洲人病院ハ獨逸時代ニ建設セラレタルモノニシテ建物其ノ他內部ノ設備ノ如キモ總テ永久的ニ計畫セラレ、「ケニヤ」、「ウガンダ」ニ於ケル英人經營ノ實用的簡素主義ニ基クモノト大ニ異ナルモノアリ、同地ニ於ケル土人病院モ亦規模極メテ雄大、設備ノ完全ナル事當領病院ノ代表的觀ヲ爲セリ

一九二二年ヨリ一九二六年迄五ケ年各病院ニ於ケル土人ノ入院及外來患者數ハ左ノ如シ

年	入院患者	外來患者	合計
一九二二年	一三、六五〇	一〇三、四〇九	一一七、〇五九
一九二三年	一六、四八二	一一〇、四四五	一二六、九二七
一九二四年	二一六、八六〇	一四六、〇一〇	一六七、六九六
一九二五年	二七、五二七	二四二、八一二	二七〇、三三九
一九二六年	二六、六四〇	三四二、六五三	三六九、二九三

即チ土人カ如何ニ年一年治療ノ有難味ヲ感シ、其ノ最惠ヲ受クル者ノ增加シツツアルヤヲ知ルニ足ルヘシ

(三) 重ナル疾病

(イ) 「マラリヤ」

「マラリヤ」ハ至ル處ニ流行スルモ、其ノ最モ多キ處ハ「ヴィクトリア」湖ノ南岸地方、即チ「ムワンザ」及「タボラ」地方ナルガ、海岸ノ「ダレサラム」モ亦獨逸時代ヨリ本病ノ流行地トシテ知ラルル處ナルカ、普通當領各病院及診療所ニ於テ取扱フ傳染病ノ中本病患者ハ其ノ約二割半ニ當ルト云フ

(ロ)睡眠病

本病ハ前ニ說明シタル如ク「チェー、チェー」蠅ニ依リテ媒介セラルル、モノニシテ、當領ノ西北部ニ當ル「ヴィクトリア」湖ノ南方ヨリ「タンガニカ」湖畔ニ至ル一帶ノ地、卽チ「ムワンザ」、「タボラ」州、「ウフィパ」州ニ流行シ近世紀ノ始メ「ウガンダ」ニ於テ猛烈ニ流行シタル際此ノ方面ニ於テモ猖獗ヲ極メ盛ニ人畜ヲ斃シ、或部落ノ如キハ之レカ爲メ或ハ死シ、或ハ他ニ避難シ、全滅ノ不幸ヲ見タリト云フ、吾等一行カ汽車ニテ「タボラ」ヨリ「キゴマ」ニ進行ノ際盛ニ「チェー・チェー」蠅ノ襲撃ヲ受ケタルカ就モ直チニ消毒ヲ施シタル爲メカ、何人モ傷染ノ被害ヲ受ケサリシハ幸ナリキ

最近政府ハ「タボラ」及「ウフィパ」地方ニ於ケル「チェー・チェー」蠅撲滅ノ根本法トシテ右ノ地方約壹萬平方哩中ノ雜木林及草叢ヲ燒拂フ事ヲ計畫シ、既ニ土人ヲ徵發シテ其ノ實行ニ着手シ、一九二六年中ニ六拾平方哩ヲ燒拂ヒ、一九二七年中他ノ區域ニ對シ同樣燒拂ヲ行フ筈ニテ土人ノ居住者壹萬五千人ヲ他ニ移轉セシムル等着々其ノ準備中ナリシカ右燒拂完了ト共ニ同地方一帶ノ地ハ睡眠病ニ對シ始メテ安全ノ地帶トナルヘシ

尙右ノ地方ノ外海岸方面ニテハ「キルワ」地方ニ多少ノ流行アルモ同地方ニ於テハ病毒緩慢ニシテ死亡率高カラストト云フ

(ロ)黴毒

本病ハ至ル處ノ土人ノ間ニ蔓延シ、恐ルヘキ慘害ヲ與ヘツツアルモ、土人ハ衞生法ヲ解セサル爲メ病毒ノ傳播ハ停止スル所ヲ知ラス但シ患者ノ數ハ明ナラサルモ一九二五年各病院及診療所ニテ取扱ヒタル患者ノ內約壹萬貳千人ハ該病毒保有者ニシテ總傳染病患者ノ一割弱ニ當レリト云フ

(ハ)「ヨーズ」

本病ハ「フランベジア」ト稱スル黴毒ニ酷似セル皮膚病ニシテ、他ノ阿弗利加地方同樣一般土人ノ間ニ蔓延セリ、一九二五年各病院及診療所ニ於テ取扱ヒタル本病患者ノ數ハ約七萬五千人ニシテ總傳染者ノ五割六分ニ當レリト云フ、右ニ對シ政府ハ極力其ノ防遏ニ努メ「サルバルサン」ノ注射ヲ施シツツアレハ必スヤ其ノ效果著シキモノアルヘシ、因ニ本病死亡率ハ首位ノ結核病ニ割七分ニ對シ壹割貳分見當ナリト云フ

(ニ)回歸熱

本病ハ可ナリ廣ク流行スルモ死亡率ハ餘リ高カラサルカ如シ

(ホ)「ペスト」

當領ニ於テハ本病ハ「ウガンダ」及「ケニヤ」ニ於ケル如ク流行セサルモ、是等ノ流行地ニ隣接スル爲メ多少ノ侵入ヲ免レス、一九二三年ヨリ一九二六年迄四ケ年間ノ本病患者トシテ報告セラレタル者ハ左ノ如シ

年	患者	死者
一九二三年	三九	二六
一九二四年	四二	三五
一九二五年	四四	二七
一九二六年	六	六

(ヘ)天然痘

嘗テ盛ニ流行シ、最近ニハ一九二五年中患者千四百人死者四百六十六人ヲ出シタルカ、土人ハ死者ヲ勝手ニ處分スルニ依リ實狀明カナラサルモ實際ノ數ハ是ヨリモ遙ニ大ナルヘシ、然レトモ種痘ノ强制克ク其ノ效ヲ奏シ忽然終熄シタリト云フ

(ト)呼吸器病

朝夕ノ氣溫ノ差著シキ爲メ呼吸器ノ傷害著シク、肺炎ノ患者尠カラス然カモ其ノ多クハ小供ナリシト云フ　本病關係ノ患者數ハ明カナラサルモ、一九二三年ヨリ一九二六年迄四ケ年間政府ニ知ラレタル「インフルエンザ」患者及死亡者數左ノ如シ

年	患者	死者
一九二三年	一、九三三	二九一
一九二四年	—	三八
一九二五年	六二二	六四
一九二六年	一、五五二	二〇六

(チ)腦脊髓膜炎

當領ニハ本病患者尠カラス、一九二三年ヨリ一九二六年迄政府ニ知ラレタル同患者及死亡者數ハ左ノ如シ

年	患者	死者
一九二三年	一〇一	八九
一九二四年	二	一
一九二五年	六	三
一九二六年	八	四

第五、人口及人種

一九二六年ノ調査ニ依レハ「タンガニカ」ノ人口及人種ハ左ノ如シ

土人	四、三一九、〇〇〇
歐洲人	二、四四七
印度人	九、四一一
「アラビヤ」人	四、〇四一
「ゴア」人其他	一、五三九
合計	四、三三六、四三八
一平方哩當リ平均人口	一一

(一) 土人

土人ハ大體ニ於テ「ケニヤ」ニ於ケルト同シク主トシテ「バンツー」族ニシテ其ノ內ニ於テ最モ顯著ナル者ハ「バンツー」ト「アラビヤ」人トノ混血兒タル海岸地方ノ「スワヒリ」人ヲ第一トシ、內地ニ於テハ「タボラ」「ムワンザ」地方ノ「スクマ」及「ニアムウエジ」族、「モシ」地方ノ「チヤガ」族、「ドドマ」地方ノ「ニアツル」及「コゴ」族、「ルングウエ」地方ノ「ニアクサ」族、「ダレサラム」地方ノ「ザラモ」族等其ノ數約三百餘萬人ニ達ス、又右ノ外ニ「ニロチック」種族即チ元北方ノ「ナイル」河畔ニ於テ「ハミチック」ト「ニーグロー」トノ混血ヨリ生シタル勇雄ナル「マサイ」族ヲ始メトシ、「バンツー」以外ノ諸種族百餘萬人アリ、今一九二一年ノ國勢調査ニ依リ其ノ人口數ヲ地方ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

地方名	人口
「ウフィパ」	四〇、〇〇〇
「ムワンザ」	三九、〇〇〇
「タボラ」	三七、〇〇〇
「ドドマ」	二九、〇〇〇
「イリンガ」	二九、〇〇〇
「キルワ」	二三、〇〇〇
「コンドア・イランギ」	二二、〇〇〇
「ソンゲア」	二一、〇〇〇
「ウジジ」	一九、〇〇〇
「リンジ」	一九、〇〇〇
「マケンゲ」	一五、〇〇〇
「アルサ」	一五、〇〇〇

「ゴア」人	一四、〇〇〇
「モロゴロ」	一三、〇〇〇
「ブンゲ」	一二、〇〇〇
「ウサンバラ」	五、〇〇〇
「モシ」	五、〇〇〇
「ダレサラム」	四、〇〇〇
其ノ他「タンガ」「パガモヨ」「メンガニ」「ルフィジ」	—
合計	—
	三七四、〇〇〇

（一九二五年ノ政府ノ調査ニ依レハ土人ノ人口ハ四、三一九、〇〇〇ニシテ一九二一年ノ調査ハ精確ニアラスト報セリ、但シ其ノ地方別人口ヲ明ニセス）

(二) 歐洲人

前表ニ於ケル歐洲人ノ人口ハ一九二六年ノ青書ニ依リタルモ其ノ數字ハ一九二一年ノ國勢調査ニ基クモノニシテ一九二七年末ノ實數ハ約四千餘人ニ達シ、其ノ多數ハ獨逸人ニシテ英國人トノ比例ハ二ト一ノ割合ナリト云フ、但シ英國人ノ內約八百五十人ハ官吏及其ノ家族他ハ主トシテ農業ニ從事シ商業之ニ次ク、然レトモ獨逸人ニ至リテハ大抵農業人ニ從事スル者ニシテ其ノ多數ハ最近ノ渡來ニ係レリ、蓋シ獨逸人ハ戰時以來敵人トシテ入國ヲ禁セラレタルモ一九二五年六月解禁セラレタルニ依リ、爾來渡來スル者多ク同年十二月末日迄ニ一八八人ノ入國者ヲ見ルニ至レリ

(三) 印度人

印度人ハ「ケニヤ」ニ於ケルト同シク土人相手ノ商業ハ勿論、上ハ大商社經營ヨリ下ハ貧弱ナル小賣商、吏員、店員、各種ノ手工、家庭勞働ニ至ル迄殆ト總テノ階級ノ商業及職業ヲ營ミ、都會ハ勿論僻遠ノ田舍ニ至ル迄牢乎トシテ拔クヘカラサル勢力ヲ有セリ、其ノ詳細ナル事情ハ「ケニヤ」ニ於ケルト同一ナルニ依リ略ス

前表ノ人口ハ一九二一年ノ國勢調査ニ依ルモノニシテ一九二七年末ノ實數ハ多分約貳萬人位ナリト云フ

(四) 「アラビヤ」人

主トシテ海岸地方ニ於テ商業ヲ營ムモ、奴隸廢止以來頓ニ其ノ勢力ヲ失墜シ、今ハ只僅ニ昔時ノ余喘ヲ殘スニ過キス

(五) 其他

右ノ外「ゴア」人及若干ノ異人種又ハ混合人種アリ、「ゴア」人最モ多ク孰レモ小商人及家庭使

用人等ナリ

日本人ハ「ダレサラム」ニ日本棉花株式會社出張員一名ノミ

第六、主要都市

(一)「ダレサラム」

印度洋上ニ於ケル當領第一ノ要港ニシテ首府モ亦此所ニ在リ、地位ハ南緯六度五十分東經三九度二〇分ノ處ニ在リテ「ザンジバル」ヨリ四八哩、「モムバサ」ヨリ一〇三哩、「ダーバン」ヨリ一七七八哩ヲ距レリ但シ當國中央鐵道ニ依リテ七七三哩ノ奥地ニ於ケル「タンガニカ」湖畔ノ「キゴマ」ト通シ、當領ノ呑吐港タルト同時ニ白領「コンゴー」ノ出入口タリ人口五三、〇〇〇、現在ノ市街ハ嘗テ獨逸時代ニ建設セラレタルモノニテ市街ノ區劃ノ如キハ秩序甚タ整然獨逸人ノ用意ノ周到ナルヲ思ハシム、然レトモ港ノ設備ハ未タ充分備ハラス、當港ニ日本棉花株式會社ノ出張所アリ綿布輸入及棉花輸出ニ從事ス

(二)「タンガ」

「タンガ」ハ南緯五度六分東經三九度七分ノ處ニ在リテ印度洋ニ面シ「ペンバ」島ト相對シ、南

ノ方ニ於テハ「ダレサラム」ヨリ一三六哩、北ノ方ニ於テハ「モムバサ」ヨリ七七哩、「ザンジバル」ヨリ七三哩ノ距離ニ在リ、此ノ地ハ「ダレサラム」ニ次ク要港ニシテ「タンガ」鐵道ニ依リテ「モシ」地方ニ通シ、同地ニ於テ「ウガンダ」鐵道ノ「ヴィイ」支線ニ接續ス

當港ハ「タンガ」灣内ニ在リテ其ノ前面ニ「タンガ」島ヲ控ヘ風波ノ難ナク且ツ出入水路及港内水面ノ廣濶ナル事ニ於テ遙ニ「ダレサラム」ニ優ルノミナラス、其ノ背後ニハ「アルシャ」、「モシ」等ノ肥沃地ヲ控ヘ、「サイザル」珈琲及「コプラ」ノ輸出港トシテ最モ重要ナル地位ヲ有シ、當國貿易ノ約一割八分ヲ支配セリ、市内ニ「タンガ」州廳、郊外ニ有名ナル「アマニ」研究所アリ、人口一一、〇〇〇人商業ハ「ダレサラム」ニ於ケルト同シク印度人ニ依リテ支配セラル

(三)「リンヂ」

葡領東阿ノ國境ヨリ北ノ方八〇哩ノ地ニ在リテ「ルクレヂ」河口ニ位シ、印度洋上ニ於ケル一要港ニシテ輕便鐵道ニ依リテ「マサシ」ニ通ス

(四)「タボラ」

「ダレサラム」ノ西北方五三〇哩ノ内地ニ在リテ海拔三、六八〇ノ地高ヲ有シ、當國中央鐵道ノ要驛ニシテ、西ノ方ハ本線ニ依リテ「タンガニカ」湖畔ノ「キゴマ」ヲ經テ白領「コンコー」ニ

通シ、北ノ方ハ「シンヤンガ」支線ニ依リテ「ヴィクトリア」湖畔ノ「ムワンザ」ニ至リ「ヴィクトリア」湖上ノ汽船ニ依リテ「ケニヤ」及「ヴガンダ」ニ通ス、但シ南ノ方ハ未タ鐵路ノ便ナキモ隊商路ニ依リテ「ニヤサ」湖地方ニ達スルヲ得ヘク、所謂四通八達ノ要路ニ當リ、昔ノ奴隷狩ノ中心地ナリ

(五)「ド　ド　マ」

當地ハ中央高原ニ於テ「タボラ」ニ次ク大都會ニシテ州廳ノ在ル所ナリ

(六「モ　シ」

「キリマンジャロ」山麓ノ高原ニ在リ海拔二、六五七、珈琲ノ名產地ニシテ、「タンガ」鐵道ト「ウガンダ」鐵道ノ「ヴォイ」支線トノ接續地ナリ、氣候溫和國內第一ノ健康地ヲ以テ目セラル

(7)「ムワンザ」

「ヴィクトリア」湖ノ南岸ニ在リ皮革棉花其ノ他ノ農產物ノ集散地ニシテ「ヴィクトリア」湖上汽船ノ發着地ナリ

(8)「プ　ゞ　バ」

「ヴィクトリア」湖ノ西岸ニ於テ「ムワンザ」ト相對スル貿易港ノ一ニシテ「ヴィクトリア」湖上汽船ノ寄港地ナリ

(9)「キ　ゴ　マ」

中央鐵道ノ終驛地ニシテ「タンガニカ」湖東岸ノ要港ナリ、湖上汽船ニ依リテ每週一回白領「コンゴー」ノ「アルバートヴキール」ニ通ス

(10)「ウ　ジ　シ」

「キゴマ」ノ南方五哩ニ在ル一寒村ナルモ一八七一年有名ナル探險家「リヴィングストーン」ト「スタンレー」トノ會見シタル處ニシテ其ノ舊跡ニ記念碑アリ

第七、政　治

(一)　沿　革

東阿ニ於ケル古キ昔ノ歷史ハ之ヲ別トシ近年ノ出來事トシテハ其ノ端ヲ奴隷問題ニ發シ英佛獨三國ノ探險家ノ活動ニ依リ其ノ暗黑地カ歐洲人ノ注意ヲ喚起スルニ至リシ事ハ東阿歷史概說ノ項ニ於テ述ヘタル所ナルカ、「タボラ」ヲ中心トスル「タンガニカ」ノ中央路ハ其ノ當時ノ「アラビヤ」人ノ「カラバン」通路ニ當リタル爲メ奥地ニ侵入スル歐洲人ノ探險家モ亦多ク道ヲ此ノ方

面ニ取リタルモノナル所、一八八四年獨逸人「ドクトル・カール・ペーテル」ナル者當地ニ來リ十二人ノ土人酋長ト條約ヲ締結シテ其ノ主權ヲ獲得シ、翌年獨逸政府ノ承認ヲ受ケ之ニ依リテ同地方ヲ獨逸ノ勢力範圍内ノモノト爲シタルカ、「ザンジバル」王カ東阿ノ廣大ナル地積ニ對シ其ノ領土權限ヲ主張セルニ對シ獨逸ハ更ニ一八八六年英佛兩國トノ協約ニ依リ「ザンジバル」、「ペムバ」、「マフィア」諸島竝ニ大陸側ニ於テ「ロヴマ」河及「タナ」河間ニ於ケル幅十哩ノ海岸地ヲ同王ノ領土ト認メ、其ノ背後ニ對スル同王ノ領土權ヲ非認セリ、然ルニ大陸側ニ於ケル英獨兩國ノ勢力範圍ハ極メテ錯綜シ其ノ境界明瞭ナラス、相互ノ關係漸ク複雜ナラントスルニ至リタルヲ以テ、一八九〇年英獨協約ヲ以テ當時有名ナル「ヘリゴランド」問題ト共ニ東阿勢力範圍ノ問題ヲ協定シ、英國ヨリ獨逸ニ向ッテ「ヘリゴランド」ヲ讓渡シ同時ニ東阿ニ於テハ「ロヴマ」河ヲ境トシ其ノ北方即チ「ケニヤ」ヲ英國、南方即チ「タンガニカ」ヲ獨逸ノ自由地域ト定メタリ、此ニ於テ獨逸ハ曩ニ「ザンジバル」王ノ領土ト定メタル海岸地ノ内「タンガニカ」ノ部分ヲ二十萬磅ヲ以テ買收シ、併セテ之ヲ獨逸ノ領地ト爲シタルカ右ノ地方ハ歐洲大戰ノ結果國際聯盟ヨリノ委任統治地トシテ英國ノ支配ニ歸セリ、但シ同聯盟ハ右ノ委任條件トシテ土人ノ利益ヲ保護スル事、土人ニ對シ公共ノ爲ニ必要ナル場合ノ外勞働ヲ强制スヘカラサル事、及國際聯盟ニ屬スル各國民ニ對シ入國、居住、旅行、商業、企業其ノ他ニ對シ完全ナル機會均等ノ權利ヲ認ムヘキコトヲ指定セリ

(二) 現在ノ制度

行政ハ總督ノ權限ニ屬シ總督ハ英國殖民大臣ニ直屬シ其ノ指揮及監督ヲ受ク

首府ヲ「ダレサラム」ニ置ク

總督ノ下ニ其ノ補佐機關トシテ參事會ヲ置キ總務、司法、財務、衞生、教育、土人部各長官ヲ以テ之ヲ組織ス

當領ニ於テハ從來議會ノ制度ナカリシモ一九二六年ニ至リ始メテ其ノ制度ヲ設ケ總督ヲ議長トシ議員ノ數ヲ二十三名以内トス但シ其ノ内十三名ハ參事會議員及鐵道、稅關、土地、農務、土木、郵務各長官、「ダレサラム」地方長官ノ官職ヲ有スル者トシ、他ハ非官職者中ヨリ總督ノ指名ヲ以テ之ニ任ス、即チ立法部ハ全部總督ノ支配ノ下ニ置カルルモノニシテ、參事會ト共ニ總督ノ單ナル補佐機關タルニ過キス、但シ右ニ依レハ非官職議員ハ十名以内ノ規定ニシテ現在ハ其ノ内七名ノミ指名セラレ他ハ之ヲ空位トセリ

本領土ハ之ヲ左ノ十一州 Province 二十二地方 District ニ區分セリ

州名	地方名	面積(平方哩)	州廳所在地
「ムワンザ」	「ムワンザ」、「マスワ」、「ムソマ」	二七、九四〇	「ムワンザ」
「ブコバ」	「ブコバ」、「ビハラムロ」	一一、〇〇〇	「ブコバ」
「タボラ」	「タボラ」、「コハマ」、「ヌセガ」、「シヤンガ」	三六、七七四	「タボラ」
「キゴマ」	「キゴマ」、「カスロ」、「ウフイバ」	五九、八一六	「キゴマ」
「イリンガ」	「イリンガ」、「ヌウヨムベ」、「ルンゲ」、「ムベヤ」	三七、五二七	「イリンガ」
「マヘンゲ」	「マヘンゲ」、「ソンゲア」	三九、四〇一	「マヘンゲ」
「リンゲ」	「リンゲ」、「ミキンダニ」、「キルワ」	三七、三五五	「リンゲ」
「イースターン」	「ダレサラム」、「ルフィウ」、「バカモヨ」、「モロゴロ」、「キロサ」	二六、三二〇	「ダレサラム」
「セントラル」	「ドドマ」、「シンギダ」、「コンドアイランギ」、「マンヨニ」	三八、〇七八	「ドドマ」
「タンガ」	「タンガ」、「ウサムバラ」、「パンガニ」	一三、三一九	「タンガ」
「ノーザーン」	「アルサ」、「マサイ」、「ムブル」、「モシ」	三六、〇一八	「アルシヤ」

右ノ地方區ハ大體ニ於テ土人ノ部落ヲ基礎トシ適宜境界ヲ定メタルモノトス

右ノ各州及地方ニハ夫々英國人ノ州長官並ニ地方長官ヲ置クモ「ブコバ」、「ムワンザ」、「タボラ」ニハ世襲的酋長ヲ有スルニ依リ其ノ自治ヲ許シ、其ノ他ノ地方ニ於テモ成ルヘク土人ノ自治ヲ認ムル方針ヲ採レリ

只海岸地方ニハ「アキダ」ト稱スル「アラビヤ」人其ノ他外來人ヲ首長トスル地方アリ、是等ノ地方ニ於テハ漸次土人ノ酋長ヲシテ此ノ種ノ外來者ニ代ハラシムル方針ナリト云フ

「タンガニカ」ハ其ノ委任統治地タル特殊ノ政治的地位ヲ有スルモ交通並ニ經濟上「ケニヤ」及「ウガンダ」ト漸次親密ナル關係ヲ生シ既ニ關稅及貨幣ハ右ノ兩國ト共通ノ制度ヲ採用シ居リ、最近ニハ三國ヲ打ッテ一丸トナシ東阿聯盟ヲ組織セントスル議アリ、既ニ英本國政府ノ問題トナリ特別調査委員ノ手ニテ目下其ノ調査中ナリ、本件ニ關シテハ「ケニヤ」ノ部ニ於テ詳細說明シ置キタレハ參照アリタシ

第八、財政

一九二六―二七年度ニ於ケル歲出及歲入決算ハ左ノ如シ

歲入	
輸入稅	五六二、六二三磅
諸稅免許及手數料	九四四、五二一
郵便電信料	五七、三七二
官有財產收入	六二、二一三
雜收入	六〇、二六一

土地拂下代	一四五
鐵道收入	四七七、四〇四
港灣收入	三三、七四二
雜收入	六五、一七八
合計	二、二〇二、九〇八
歲出	
總督及總督府費	二六、六〇九
州廳費	二八二、二〇八
警察及監獄費	一二八、四四四
衛生費	一八三、八一一
教育費	四三、八八六
軍事費	四五、九二三
郵電費	一三六、〇七六
農林費	七〇、八一七
牧畜費	五一、四六五
土木費	四三、八八六
同臨時費	一二七、四八〇
	一五二、六七〇

鐵道費	四八六、七五三
其他諸費	三二三、七九六
合計	二、〇六九、八三八
剩餘金	一三三、〇七〇
前年度剩餘金	六二九、五七九
剩餘金合計	七六二、六四九

政府カ一九二三―二四年ヨリ一九二六―二七年迄四年間土人ノ福利增進ノ爲費シタル經費ハ左ノ如シ

年	醫療	教育	農業	牧畜
一九二三―二四年	九一、三四〇	一一、〇二四	二一、八六九	三〇、四三四
一九二四―二五年	一〇六、一二六	一五、七二四	二七、一〇七	三三、三二六
一九二五―二六年	一四七、七〇三	二八、四九一	三〇、二七三	三九、〇五五
一九二六―二七年	一九〇、六一六	五八、八九七	四二、三三九	四三、八八六

第九、司法

司法ハ之ヲ土人裁判ト非土人裁判トノ二種ニ分タル

(一) 土人裁判

土人ハ其ノ習慣傳來ノ思想及生活ノ狀態等總テ歐洲人ト異ナルニ依リ、彼等ニ適當ナル特種ノ司法制度ヲ維持スル事トナシ、土人專屬ノ裁判所ヲ設ケ土人ノ部落長ヲ裁判官トシ同部落ノ習慣ニ依リ裁判セシムル事トナス、但シ其ノ組織ハ左ノ如シ

(甲) 一級裁判所

本裁判所ハ左ノ事件ヲ管轄ス

(イ) 民事

1、六百志以下ノ事件

2、結婚、離婚其他ノ人事

3、土人遺產取締法中ニ規定セラレサル事件

(ロ) 刑事

六ケ月以上ノ禁錮、二百志以上ノ罰金八個以上ノ笞刑ニ處スル事ヲ得ス

罰金不納ノ場合ニ換刑トシテ禁錮ニ處スル場合ニハ原刑ト併セテ六ケ月以上ノ禁錮ト爲ス事ヲ得ス

(ハ) 控訴事件

本裁判所ハ第二級裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ニ付管轄權ヲ有ス

(乙) 二級裁判所

本裁判所ハ左ノ事件ヲ管轄ス

(イ) 民事

1、二百志以下ノ事件

2、結婚、離婚其他ノ人事

3、土人遺產取締法中ニ規定セラレサル事件

(ロ) 刑事

一ケ月以上ノ禁錮、五拾志ノ罰金、六個以上ノ笞刑ニ處スル事ヲ得ス

(丙) 土人裁判所ノ管轄事件ハ當事者相方カ土人ナル事ヲ要ス

禁錮及笞刑ハ監督法廷ノ承認ヲ要ス、但シ監督法廷ハ其ノ地ノ地方長官トス

高等法院ニ上告スル事ヲ許サルモ上告ニハ監督法廷ノ承認ヲ要ス、但シ政府部內ニテハ土人ノ裁判ニ對スル上告事件ハ司法事項ト云フヨリモ寧ロ行政事項ト見做スヘキモノナリトノ理由ニテ之ヲ行政官ノ支配ノ下ニ置カントスル議アリト云フ

(二) 非土人裁判

土人ニアラサル者ニ對シテハ地方裁判所及高等法院ヲ置キ、地方裁判所ハ民事及刑事ヲ管轄シ、刑事ハ二年以下ノ禁錮ニ該當スル事件ノミニ付管轄權ヲ有スルモ、總督ハ右以外ノ事件ニ就テモ必要ト認ムル時ハ臨機管轄權ヲ賦與スル事ヲ得、但シ死刑ニ就テハ高等法院ノ判決並ニ總督ノ承認ヲ要ス

高等法院ハ地方裁判所ノ權限外ノ民事刑事及地方裁判所ノ判決ニ關スル控訴ニ關シ管轄權ヲ有ス

第一〇、敎　育

當領ニ於ケル敎育ハ「ケニヤ」ニ於ケルト同シク土人、歐洲人、印度人ノ三種ニ區別セラレ土人ニ對スル敎育ハ政府及宗敎家ニ依リテ行ハル

(一)　土人ノ敎育

政府ハ一九二一―二二年以後敎育費トシテ左ノ通リ支出セリ

一九二一―二二年	八、〇五八磅
一九二二―二三年	九、三五九
一九二三―二四年	一三、一五六
一九二四―二五年	一五、七二四
一九二五―二六年	二八、四九一
一九二六―二七年	五八、八九七
一九二七―二八年	六六、六七七

當領内ニ於ケル政府經營ノ學校ハ總計七八校、補助學校ハ三校ニシテ、他ニ宗敎家ニ依リテ經營セラルルモノ多數アリ、其ノ重ナルモノハ「スコットランド」傳道協會ニ屬スルモノ八七、同合同自由敎會ニ屬スルモノ一六〇、其ノ他ノ宗派ニ屬スル若干ニシテ、其ノ多クハ小學校程度ノモノナルモ其ノ内ニハ中等學校モナキニアラス、尤モ右ノ内ニハ屋外學校モ多數アリ又中ニハ農業、牧畜、作事又ハ簡易ナル醫術敎育ヲ施スモノアリ「タボラ」ニ於テハ政府ニ於テ土人ノ酋長ノ子弟ノ爲メニ特種學校ヲ設ケ他日酋長タルヘキ者ニ必要ナル訓練ヲ與ヘツツアリ、(本件ニ就テハ土人問題ノ部參照アリタシ)、一九二五年ニ於ケル土人ノ就學年齡ノ兒童ノ數ハ約八十萬人、其ノ内通學兒童ノ數ハ約一割二分ニシテ其ノ内譯ハ左ノ如シ

官立學校	四四、三六八
宗敎學校	九三、〇〇〇
合計	九七、四三六

尚政府カ敎務部以外ニ於テ土人ニ職業敎育ヲ施シツツアル事ハ茲ニ特記スル事ヲ要ス、卽チ郵電部ニ於テ電信及電話技手ヲ又「タボラ」鐵道工場ニ於テ機械技手ヲ養成シ之ヲ其ノ吏員ニ採用シ極メテ好良ナル成績ヲ擧ケツツアリト云フ

(二) 歐洲人ノ敎育

歐洲人ノ兒童ノ數ハ一九二五年ノ調査ニ依レハ僅ニ一二〇人ニシテ、主トシテ「ダレサラム」、北部州及「タンガ」州ニ在リト雖トモ、他ノ各地ニ散在スル者モ亦尠カラス、然カモ其ノ多クハ官吏ノ子ニシテ移動性多キニ依リ政府カ是等ノ兒童ニ對シテ適當ナル敎育設備ヲ爲ス事ハ其ノ最モ困難トスル所ナリ、目下ノ處歐洲人ノ學校トシテハ「アルシヤ」地方ニ於テ和蘭人ニ依リテ經營セラルル小學校アリ政府ヨリ補助金ヲ與ヘ奬勵シツツアル外何レノ地ニモ歐洲人ニ必要ナル敎育設備ナシ、尤モ「ケニヤ」國「ナイロビ」ニ完全ナル歐洲人ノ小學校アルニ依リ當領ニ於ケル歐洲人ノ子女ハ就學時期ニ至レハ同校ノ寄宿舍ニ委托シ又ハ本國ニ送還シツツアリト云フ

(三) 印度人ノ敎育

當領内ニハ多數ノ印度人アリト雖モ其ノ敎育ニ關シテハ見ルニ足ルヘキ設備ナシ、但シ最近ニ至リ政府ハ補助主義ニ依リ此ノ事業ヲ遂行スル事ヲ計畫シ、印度人居住者ト政府トニ於テ經費ノ半額ヲ負擔スル方法ニテ先ツ「ダレサラム」ニ六千磅ノ校舍ヲ建築セントシ、印度人ニ其ノ半學ノ負擔ヲ引受ケシムヘク交涉中ナルカ、續イテ他ノ二ケ處ニ對シテモ同一方法ニ於テ其ノ計畫ヲ進メ中ナリトノ事ナリ

第一一、土地制度

現行土地法ハ一九二三年ノ制定ニ係ルモノニシテ要領ハ左ノ如シ

1 土地ハ總テ公有トナシ、之ヲ總督ノ支配ノ下ニ置キ直接又ハ間接本領内ノ土人ノ使用又ハ其ノ共同ノ利益ノ爲ニ之ヲ支配セシム

2 土地ノ占有又ハ使用權ハ總督ノ同意ヲ經ルニアラサレハ效力ナシ、但シ總督カ土地ノ處分ヲ爲ス場合ニハ其ノ地方ニ於ケル土人ノ法律及習慣ヲ重ンスルヲ要ス

3 借地權即チ本法ニ所謂土地ノ占有權ハ九十九ケ年限リトシ、其ノ面積ハ殖民大臣ノ許可ヲ得タル場合ノ外ハ五十英加ヲ越ユルコトヲ得ス、又其ノ借地料ハ三十三年ニ改變ス、但シ土人ニ對シテハ借地料ヲ徵收セス

惟フニ英國政府ハ土地ノ處分ニ關シテハ「タンガニカ」委任統治ノ條件トシテ土人ノ法律及習慣ヲ重シ、其ノ權利及利益ヲ保護スヘキ事ヲ命セラルルモノニシテ、右ノ土地中ニハ既ニ第二項ノ如ク其ノ旨ヲ規定シ居リ遺憾ナキカ如クナルモ、右ノ規定ハ總督ノ考次第ニテ如何樣ニモ解釋セラレ得ルノミナラス、總督カ土地ノ法律又ハ習慣ヲ誤リ、土人ノ利益ニ反ス

ル取扱ヲ爲シタル場合ニ土人ノ損害ヲ救濟スル方法無ク、土人ハ極メテ不安ノ狀態ニ置カルルモノト云フノ外ナシ、現ニ當領内ノ高地ハ土地肥沃ニシテ旦ツ歐洲人ノ生活ニ適スルニヨリ土人ニ取リテハ掠奪ノ危險尠シトセス、此ノ點ニ於テ獨逸時代ノ法律ハ土人ノ開墾地ノ四倍ノ土地ヲ土人ノ爲メニ留保ストノ規定アリタレバ土地ハ其ノ規定ノ範圍内ニ於テ其ノ安全ヲ保證セラレタルモノト謂フコトヲ得ヘシ

第一二、土人問題

(一) 土人ノ保護及取締

英國政府カ「タンガニカ」委任統治ノ條件トシテ土人ノ利益ヲ保護スルコト及土人ニ對シ公共ノ爲メニ必要ナル場合ノ外ハ勞働ヲ强制スヘカラサル事ト成リ居ル事ハ前ニ說明シタル通リナルカ、當領ニテハ曩ニ雇主及土人使用人規則 Master and Native Servants Ordinance ヲ制定シ一九二四年一月ヨリ之ヲ施行セリ、蓋シ其ノ目的ハ一方ニ於テ土人ニ對スル雇主ノ專橫ヲ防制シ、雇主ヲシテ土人ノ使用人ノ爲メニ衞生上竝ニ人道上必要ナル待遇ヲ與フルコトニ注意セシムルト共ニ、雇主ニ對スル土人ノ怠慢竝ニ其ノ迷惑トナルカ如キ行爲ヲ防遏セントスルモノニシテ其ノ要

領ハ左ノ如シ

一、一ケ月以上ノ雇傭契約ハ之ヲ文書ニ認メサレハ土人使用人ニ對シテ效力ナシ

一、契約書ニハ地方官ノ承認ヲ要ス

一、契約書ニハ爲スヘキ仕事ノ性質、場所、賃銀ノ高及仕拂ノ時期ニ就テ記載スルヲ要ス

一、雇傭期限ハ二ケ年ヲ越ユルコトヲ得ス

一、土人使用人ノ住居スル地方以外ノ場所ニ於テ勞働スル契約ハ文書ヲ以テスルニアラサレハ效力ナシ、但シ家庭勞働者及水夫ニ對シテハ此ノ限ニアラス

一、土人使用人カ近傍ニ於テ居住シ又ハ自ラ炊事ヲ爲ス便利ヲ有スルニアラサレハ雇主ハ該土人ニ對シ適當ナル住居及食事ヲ支給セサルヘカラス

一、雇主ハ土人使用人ノ保健ノ爲メニスル地方官又ハ衞生吏ノ合理的命令ニ服從スヘシ

一、雇主ハ必要ノ場合ニハ土人使用人ニ對シ毛布ノ支給ヲ怠ルヘカラス

一、雇主ハ土人使用人ノ疾病ノ場合ニ醫療ヲ與ヘサルヘカラス

一、雇主ハ他ヨリ雇來リタル土人ヲ解雇スル場合ニ歸還ノ費用ヲ負擔セサルヘカラス

一、雇主ハ土人使用人ヲ契約以外ノ地ニ於テ使用シ、又ハ契約以外ノ事ニ使用スヘカラス

一、土人使用人カ仕事中死傷シタル時ハ雇主ノ怠慢又ハ不注意ニ原因スル限リ其ノ賠償トシテ本人ノ二ケ年以内ノ給料ヲ支給スル事ヲ要ス

一、勞働者募集人ハ地方官ノ許可ヲ要ス、但其ノ募集ハ同地方官ノ管轄地内ニ於テスルヲ要ス、但シ同募集人カ助手ヲ使用スル場合モ同亦シ

一、土人使用人カ合法ナル理由ナクシテ契約通リニ仕事ニ取掛ラス、缺勤シ、酒ニ醉フテ仕事ヲ怠リ、不當ナル事ヲ爲シ、無斷ニテ馬又ハ車ヲ使用シ、主人又ハ監督者ニ向ッテ無禮ノ言ヲ吐キ、若クハ其ノ命令ニ從ハサル時ハ一ケ月ノ賃銀ヨリ多カラサル罰金ニ處シ、若シ罰金ヲ納ムルコト能ハサルトキハ一ケ月以內ノ禁錮ニ處ス

一、故意ニ仕事ヲ怠リテ雇主ニ損害ヲ與ヘ、醉ッテ保管ノ物品ヲ毀損シ、送達スヘキ物品ノ送達ヲ爲サス、保管セル動物カ喪失シ又ハ死亡シタル時之ヲ主人又ハ監督者ニ報告セス、又ハ故意ニ仕事ヲ放棄シ立去クタル時ハ百志以內ノ罰金又ハ六ケ月以內ノ禁錮ニ處ス

一、若シ右ノ土人使用人カ十六歲以下ノ者ニシテ懲戒ノ必要アリト認メラルル時ハ十二ケ月以下ノ笞刑ニ處スルコトヲ得之ヲ要スルニ本規則ハ使用人ノ逃亡又ハ怠慢ヲ以テ一ノ犯罪ト看做シ、之ヲ罰金又ハ禁錮ノ刑ニ處シ、甚タシキハ未成年ノ土人カ主人ノ許ヨリ逃亡シ、又ハ仕事ヲ怠ル時ハ之ヲ笞刑ニ處スル事ト爲スモノニシテ文明式刑法ノ精神ニ適フモノト云フヘカラス、但シ右ノ審問及處罰ハ云フ迄モナク裁判所ノ權限ニ屬スルモノナル處、耕主ノ或者ハ之ヲ以テ滿足セス土人ノ不法行爲ニ對シテハ耕主自ラ之レカ裁判及處罰ノ任ニ當ルニアラサレハ土人ニ對スル取締ノ實效ヲ奏シ難シトナシ、其ノ權限ヲ與ヘラレンコトヲ主張シ、政府部內ニ於テモ或者ハ五志以內ノ罰金刑ニ處スル事ハ之ヲ耕主ノ自由ト爲スヘシト主張スルモノアルモ總督ハ之ニ同意ヲ與ヘス、只土人ノ衞生上ノ不都合ニ對シテハ之ヲ別トシ、五志以下ノ罰金ニ限リ耕主ニ其ノ權限ヲ認メ居レリト云フ、蓋シ法理論トシテハ不徹底ノ誹ヲ免レス

尙當領ニハ「ケニヤ」ニ於ケルト同樣少兒ノ勞働者尠カラス、然カモ之ヲ取締ルヘキ法律ノ規定ナキニ依リ一九二〇年中行政命令ニテ之ヲ禁止セントシタル事アルモ耕主等之ニ從ハス爾來其ノ儘ト成リ居レリ

(二) 土人ト勞働

勞働局ノ報告ニ依レハ一九二六年中歐洲人其ノ他ノ「ブランテイション」ニ於テ傭ハレタル土人ノ數ハ約二七六、〇〇〇人ナルカ、其ノ多數ハ居住地又ハ其ノ附近ノ勞働ニ從事スル者ニシテ、募集人ノ手ニ依リ遠隔ノ地方ヨリ連レ來ラレタル者ハ其ノ一小部ニ止マリ、勞働者ノ供給ハ割合ニ豐ナリト云フ、尤モ歐洲人中ニハ往々土人ノ怠惰ナル事ヲ口ニシ、勞働者ノ欠乏ヲ訴フル者ナキニアラサルモ、芳シク彼等ヲ愛撫シ、相當ノ待遇ヲ與フル樣注意スル時ハ必スシモ勞働者ノ雇入ニ困難ヲ感スル事ナシト云フ、但シ或方面ニ於テノ勞働ハ鄕里ヘノ送金ニ不便ナル爲メ土人中ノ如キ不便ナカラシムル樣ナシツツアリト云フ

但シ土人ノ勞銀ハ地方ニ依リテ非常ナル差違アリテ、一ケ月ニ付少キハ六志ヨリ多キハ三〇志

ニ至ルモ、勞働ノ最モ需要多キ地方ニ於テハ普通一ケ月食事及小屋付ニテ一五志乃至二〇志ナリトス

玆ニ土人ノ勞働ト最モ密接ノ關係ヲ有スル事ハ運搬ニ要スル人足ノ問題ナリトス、蓋シ當國ニ於ケル運搬ハ從來總テ土人ノ頭ニ依リテ行ハレタルモノニシテ、此ノ爲メニ土人ヲ要スル事極メテ多カリシモ、鐵道ノ開通セル地方ハ勿論自働車ノ使用セラルル處ニ於テハ運搬夫ノ需要ヲ減シ、其ノ爲メ大ニ他ノ方面ノ需要ヲ緩和セリ、然レトモ今日ト雖モ現ニ鐵道ヲ有シ自働車道ヲ有スル處ハ僅ニ一部ノ地方ニ止リ、少シク內地ニ入ル時ハ旅行者ノ手荷物又ハ貨物ノ運搬ハ昔ノ通リ矢張リ土人ノ頭ニ依リテ運搬セラルルノ外ナク、是レカ爲メ人足ヲ用スル事ハ實ニ莫大ナルモノニシテ、例ヘハ勞働局ノ報告ニ依レハ一九二四年「キロサ」停車場ニ於テ政府用品ノ內地ノ運搬ノミノ爲メニ延人員四十萬人ヲ要シタルカ、他ノ停車場ニ於テモ之ニ類似スル事尠カラス、又「リネガ」ト稱スル地方ニテハ毎年兵士除隊ノ際八百人ヲ二ケ月間使用スルニ等シキ運搬人足ヲ要スト何ニ多クノ勞力カ運搬ノ爲メニ使用セラレツツアルヤヲ考フルノ事ナルカ、交通不便ノ爲メ如何ニ是等ノ勞力カ物資ノ生產ノ爲メニ利用シ得ヘキヤヲ知ルニ足ルヘシ

(三) 强制勞働

「タンガニカ」ニ於テハ委任統治ノ條件トシテ土人ニ對シ勞働ヲ强制スル事ヲ得サル事ト成リ居ルモ、其ノ例外トシテ公共ノ必要アル場合ニハ、土人ヲ徵發シ之ニ相當ノ賃銀ヲ支給シテ勞働ヲ强制スルコトヲ得ヘシ、依テ政府ハ一九二六年制定ノ土人部落行政法 The Native Authority Ordinance ニ於テ村落ニ於ケル土人ノ官廳カ土人ノ勞働者ヲ懲罰シ得ヘキ場合ヲ定メ、(イ)土人ニ對シ一ケ年ニ六十日以上勞働ヲ强制スヘカラス、(ロ)一ケ年ノ內既ニ三ケ月間勞働シタル者ニ對シテモ亦同シトノ旨ヲ規定セリ、尤モ右ノ法律ニハ公共ノ必要トハ如何ナル性質ノ勞働ナルカニ付何等定義ヲ與ヘサルモ、同法ハ(イ)繰棉工場ニ於ケル勞働、私人ノ爲メノ運搬、酋長其ノ他土人官憲ノ農園ノ耕作、家屋ノ建築ノ爲メニハ勞働ヲ强制スヘカラストシ、(ロ)自由勞働者ヲ得ル事不可能ナル場合ニハ、政府ノ吏員カ職務執行ノ爲ニ要スル家屋、例ヘハ檢疫所、森林監視所ノ如キモノヲ建築シ、公用旅行者ノ荷物ヲ運搬シ、公文ヲ送附シ、學校ヲ建築シ、保健ノ目的ニテ「チエー・チエー」蠅ヲ燒拂ヒ、犯人及證人ヲ護送スル爲メニハ土人ニ對シ勞働ヲ强制シ得ヘシトセリ

但シ右ニ關シ相當ノ勞銀ヲ仕拂フヘキモノナル事ハ勿論ナルモ、此ノ場合ニ政府ノ支拂フ勞銀

ハ中央勞銀評定局ノ定ムル所ニ從フモノニシテ其ノ金額ハ市場ノ賃銀ニ比シ低廉ナルニ依リ、土人ハ普通政府ノ勞働ニ從事スル事ヲ喜ハスト云フ、因ニ「ケニヤ」及「ウガンダ」ニ於テハ道路ノ建築及修繕ノ爲メ土人ニ對シ無償ニテ勞働ヲ强制スル事ヲ得ルモ、「タンガニカ」ニ於テハ前記統治委員條件ノ解釋上之ヲ合法ト見做サス、併カシ實際ニハ「タンガニカ」ニ於テモ各酋長等ハ「ケニヤ」及「ウガンダ」ニ於ケルト同樣部下ノ土人ニ對シ無償ニテ此ノ種ノ勞働ヲ强制シツツアリト云フ

(四) 土人ノ財團制度

當領ニ於ケル土人行政中最モ特異トスル所ハ土人ノ爲メ共有財產制度ヲ設ケ之レカ保管ノ方法トシテ一ノ財團ヲ組織セル事ナリトス、蓋シ當領ニ於テハ他ノ阿弗利加地方ニ於ケルカ如ク、今尙多クノ部落ニ世襲ノ酋長ヲ有シ居レル處、彼等ハ從來部下ノ土人ヨリ收獲物ヲ徵收シ、又彼等ニ勞役ヲ命シ、且ツ獨逸時代ニハ右ノ外ニ政府ノ賦課金タル人頭稅竝ニ小屋稅ノ徵收ヲ命シ其ノ報酬トシテ集金ノ百分ノ一乃至三ヲ與フル事トナシタルカ、英國ノ治下ニ於ケモ一九二五年四月迄ハ右ノ制度ヲ繼承シ來リタルモ、酋長カ部下ヨリ收獲物ヲ徵收スル事ハ、交通不便ニシテ且ツ市場ノ局限セラレタル昔ノ時代ニハ其ノ弊害大ナラサリシモ、今日ノ如ク交通ノ便ヲ增シ、且ツ物品ノ販路擴大セラレタル時代ニ於テハ、貨物ノ賣捌容易ト成リタル爲メ、酋長ノ右ノ徵收ハ漸次商業化セラレ、酋長ハ之ヲ以テ財產製造ノ手段ニ利用セントスルニ至リ、其ノ弊害尠カラサル

ニ依リ、政府ハ一九二五年一應酋長及其ノ他ノ土地ノ有力者ト協議ノ上、斷然右ノ制度ヲ廢止シ、土人ノ部落ニ一ノ財團ヲ設ケ、從來ノ政府ノ人頭稅及小屋稅ヲ六志ヨリ十志ニ增加シ、其ノ一部分ヲ右ノ財團ノ收入トナシ、其ノ代リニ酋長及其ノ部下ノ副長等ニ對シテ其ノ生活ヲ安定スルニ足ルヘキ給料ヲ定メ、部落ノ公共經費ト共ニ之ヲ右ノ財團ヨリ仕拂ハシムル事トセリ

然ルニ「タンガニカ」ニ於テハ土人ノ小部落非常ニ多ク、是等ハ到底獨立ノ財團ヲ維持シ農具其ノ他必要ナル品物ノ共同購買若クハ其ノ他ノ顧利ノ增進ノ爲メニ必要ナル共同動作ヲ爲スニ充分ナル實力ヲ有セサルヲ以テ政府ノ指導ノ下ニ漸次是等部落ノ合併ヲ爲サシメツツアリ、但シ土人ノ希望ニ反シ之ヲ强制スル事ハ却テ有害ナル結果ヲ來ス恐レアルニ依リ、政府ハ特ニ此ノ點ニ關シ注意ヲ拂ヒツツアリト云フ、斯クシテ政府ハ一方ニ於テ酋長ノ政治ニ伴フ從來ノ弊害ヲ一掃シ、同時ニ酋長ニ對シテ生活ノ安全ヲ得セシムルト共ニ部落ヲシテ其ノ財團ヲ中心トシ鞏固ナル自治ノ基礎ヲ築カシメントスルモノニシテ、其ノ措置眞ニ賢明ナリト謂フヘシ、今參考ノ爲最近小部落ノ合併ニ依リテ生シタル「ムワンザ」州「ミシヤンガ」地方ニ於ケル「ワスクマ」聯合部

落ノ歳費豫算ヲ左ニ示スヘシ

酋長八名ノ給料	一七、二二〇志
聯邦部落長手當	六〇〇
書記十二名給料	二、二五〇
評議員三名給料	三、七二〇
仕丁給料（四五人ハ年一二〇志四人ハ年九六志）	二、八九二
地方長老（三七人ハ二四〇志其他六人分）	五、七〇〇
村長（二九人各一二〇志）	一、七四〇
運搬費及旅費（此内ニハ七〇〇志ノ自働車及自轉車費ヲ含ム）	九、四六〇
酋長家屋建設及維持費	一一、二〇〇
賞與贈物餐宴費	二、三〇〇
合計	五七、〇八二
剰餘金	一八、二一四

(五) 酋長學校

「タンガニカ」ニハ「タボラ」ニ於テ酋長ノ子弟ノ爲ニ特種ノ學校ヲ設ケ將來酋長トナルヘキ者ニ對シ必要ナル教育竝ニ訓練ヲ與ヘツツアリ、是レ恰モ土人ノ華族學校トモ云フヘキモノニシテ阿弗利加ノ他ノ部分ニ於テ其ノ例ヲ見サル所ナリ

本校ニ入學ノ資格ヲ有スル者ハ酋長ノ子弟ニ限ルモノニシテ、其ノ目的ハ單ニ智識ヲ啓發スルノミナラス、公共的義務又ハ社會ニ對スル奉仕ト云フカ如キ部落ニ對スル政治的義務ノ觀念ヲ涵養セントスルモノニシテ、入學年齡ヲ八歳又ハ九歳、終業年限ヲ六ケ年トシ始メノ三ケ年ハ「スワヒリ」語ニシテ普通ノ教育竝ニ農業及衞生ノ智識ヲ與ヘ、次ノ三ケ學ハ牧牛、「バタ」製造、養鷄、蜜蜂飼養、木工、衞生、灌漑肥料、唱歌（特ニ土人ノ唱歌）、人間ノ心得、行儀（特ニ男女間ノ行儀）及右ノ副業トシテ或程度ノ英語ヲ教授スル事ト爲シ居レリ

現今生徒ノ數ハ三百人ニシテ、之ヲ若干ノ組ニ分チテ起居ヲ共ニセシメ有力ナル酋長ノ子ヲ組長ニ選擧セシム、又學校内ニ模擬法廷、模擬會議ヲ設ケ他日法官トナリ又酋長トナルヘキ訓練ヲ與フ

又學校内ニ購買店ヲ設ケ其ノ收益ヲ以テ優等生ノ見學資金ニ充ツ

之ヲ要スルニ斯クノ如キ教育ハ全然新シキ試ミニシテ其ノ結果ハ後日ニ待ツノ外ナキモ其ノ精神トスル所ハ大ニ歎美スルニ足ルヘク、「タンガニカ」政府ノ爲ス所大ニ賞讃スルニ價セリ

第二三、農　業

(一)　一般狀況

農業ハ牧畜ト共ニ「タンガニカ」產業ノ大本ヲ爲スモノニシテ、農作ノ豐凶如何ハ直ニ當國經濟上ノ景氣ニ大關係ヲ及ホスモノナル處、歐洲大戰中此ノ地方ハ英獨兩軍角逐ノ巷トナリタル爲メ一時其ノ慘害ヲ蒙リタルモ、戰後英國ノ經營ニ依リ漸次恢復シ着々發展ノ緒ニ着ケリ、然レトモ土人ノ農業ハ主トシテ自給自足ヲ目的トスルモノニシテ企業的ニ經營スルモノハ極メテ尠シ、只近年政府ノ指導竝ニ奬勵ニ依リ漸次耕作ヲ勵ム風ヲ生セサルニアラサルモ、輸出品トシテノ農產物ハ多ク歐洲人又ハ若干ノ印度人等ノ生產スル所ニシテ其ノ種類極メテ尠シ、殊ニ土人ノ耕作法ハ最モ原始的ニシテ彼等ノ所謂農具ナルモノハ僅ニ小形ノ鍬位ノモノニ過キス、只近年政府ノ指導ニ依リ多少簡單ナル歐洲人ノ農具ヲ使用スル事ヲ覺エ、又中ニハ歐洲人等ノ耕作スル「サイザル」珈琲及棉等ヲ栽培スル者アルニ至リタルモ、其ノ生產ハ僅少ノ額ニ過キス、尤モ若干ノ農產物ハ因習的ニ土人ノミニ依リテ生產セラレ、夫カ印度人ノ商人ニ依リテ買集メラレ海外ニ輸出セラルルコトナキニアラス、以下主要品ニ付其ノ概要ヲ說明スヘシ

(二)　棉花ノ栽培買付及有望ナル企業地

(イ)　栽培面積及產額

當國ニ於ケル棉花ノ產地ハ諸方ニ分散シ一九二六年ニ於ケル耕作面積ハ約十二萬英加ニシテ其ノ產額約二萬五千俵此ノ金額約四十二萬七千磅ニ達シタリ、而シテ其ノ三分ノ二ハ「ヴィクトリア」湖畔ノ「ムワンザ」地方及東部ノ「モロゴロ」地方ニ屬シ、他ハ「キルワ」、「リンヂ」、「マヘンゲ」、「ルフヒヂ」、「ブコバ」、「タンガ」、「モシ」其ノ他ノ地方ニ分カルルモノナルカ、一九二七年ハ天候不良ト前年ノ不況ノ影響ヲ受ケ產額約十四萬七千俵ニ激減シタルモ一九二八年ノ收獲ハ優ニ二萬五千俵ニ達スヘシト稱セラル

(ロ)　栽　培　者

栽培ノ狀況等ハ「ウガンダ」ニテハ全部土人ナルニ、「タンガニカ」ニテハ土人ノ外ニ印度人、獨逸人及希臘人等ノ外國人モ亦多少ノ栽培ヲ爲スノミナラス、獨逸人ノ如キハ大ニ棉花栽培ノ有望ナルニ着目シ續々之カ企業ヲ目論見ツツアリ、日本棉花株式會社ノ如キモ最近「モロゴロ」州「ミケシ」地方ニ於テ二千英加ノ土地ヲ買入レ之カ栽培ヲ試ミントシ目下其ノ準備中ナリ

(ハ) 播種開花收穫

當國ニ於ケル播種開花及收穫ノ時期ハ氣候及降雨ノ關係上地方ニ依リテ同シカラス、大體ハ東部ノ「モロゴロ」地方ヨリ始メテ北部ノ「ムワンザ」地方ニ及ヒ、最後ニ東北部ノ「タンガ」及「モシ」地方ニ及フモノニシテ其ノ時期ハ大凡左ノ如シ

	東部地方	北部地方	東北部地方
播種	二月ヨリ三月	三月ヨリ四月	五月ヨリ七月
開花	四月ヨリ五月	五月ヨリ六月	七月ヨリ八月
收穫	六月ヨリ七月	七月ヨリ八月	九月ヨリ十一月

(ニ) 棉繰方法

棉繰ヲ經營スル者ハ「ウガンダ」ト同シク多クハ印度人及英國人ニシテ、日本人トシテハ日本棉花株式會社カ「モロゴロ」州「ミケン」地方ニ於テ一ケ所ノ工場ヲ所有スルノミ、繰上ノ方法ハ是又「ウガンダ」ニ於ケルト同シク「ソージン」又ハ「ローラージン」ニ據ルモノニシテ、一九二七年ニ於ケル工場許可數合計一一六ケ所、機械ノ數ハ「ソージン」三八個、「ローラージン」三二〇個、合計三五八個ナリ今其ノ地方別內譯ヲ示セハ左ノ如シ

別名	地方名	工場數	「ソージン」數	「ローラージン」數
「ダレサラム」	「ペ　グ」	一	二	一二
	「ダレサラム」	二	一	一五
「モロゴロ」	「モロゴロ」	一	一	一二
	「ミケンシ」	二	三	一二
	「ヌゲレンゲ」	三	一	七
	「ムラザ」	四	一	一八
	「ブスミ」	五	一	八
「キロサ」	「キロサ」	一	一	一四
	「ルデリ」	二	一	二〇
	「ムカタ」	三	一	一二
	「ムソウエロ」	四	一	六
	「ツリアニ」	五	一	一
「ルフィジ」	「キリマニ」	一	一	二
	「ロゲロゲ」	二	一	二
	「ペトヤ」	三	一	六
「パガモヨ」	「パガモヨ」	一	一	五
「リンゲ」	「リンゲ」	三	一	二八

「キルワ」	一	一	七	
「タンガ」	一	一	一〇	
「ウサンバラ」	一	二	二	
「モシ」	一	二	二	
「ヒ」				
「ウサゴロ」	一	四	一五	
「ルホムボ」	二	四		
「ムワンザ」	一	一	一四	
「ムルンゴル」	二	一	一〇	
「イハレ」	三	一	六	
「ニアムピチ」	四	二	六	
「ニアンゲ」	五	二	五	
「ベムバニ」	六	一	一〇	
「ルネレ」	七	五	一	
「マラベカ」	八	五	一	
「ブクム」	九	一	一二	
「ナ」				
「マムンブ」	一〇	一	一二	
「ハンデニ」	一	一	一	
「ムブル」	一	一	五	
「メブル」	一一六	三八	三二〇	
合計				

(ホ) 買入方法

土人ヨリ實棉買入ノ方法ハ「ウガンダ」ト大差ナク、買入時期ノ開始ハ政府ニ於テ之ヲ定メ、買入ノ場所ハ繰棉工場又ハ私設買店ニ於テス、又「プランター」ヨリノ買入ハ全然自由賣買ノ方法ニ依ルモ彼等ハ通常適採前競賣ニ附シ、契約ノ際代金ノ二割五分ヲ前取リスル習慣ナリト云フ、但シ繰棉ノ買付ハ最寄停車場渡ノ條件トス

(ヘ) 其ノ他ノ事情

其ノ他ノ事情ハ「ウガンダ」ニ於ケル棉花事情ノ部ニ於テ說明セルモノト大同小異ニ付參照アリタシ

(ト) 有望ナル企業地

前ニ述ヘタル通リ今回日本棉花會社ニテ棉花栽培ヲ計畫セル「モロゴロ」地方ハ恰モ中央鐵道ノ通過セル處ニシテ「ダレサラム」港トノ交通極メテ便利ナルノミナラス、土地廣大且ツ土壤肥沃ニシテ極メテ棉花ノ栽培ニ適シ、衞生狀態可良且勞働者潤澤ナリトノ事ナレハ我將來ノ企業地

トシテ最モ好適ノ處ナルヘシ、況ヤ「タンガニカ」ハ委任統治地トシテ外國人ニ對スル待遇ノ均等ヲ保證スル處ナレハ排斥ノ危險最モ尠ク、且ツ「タンガニカ」ノ開發ハ「ケニヤ」ニ比シテ遙ニ遲レ歐洲人ノ移住者未タ多カラス、又獨逸人人口ハ英國人ニ比シ二ト一トノ割合ニシテ日本人ニハ好都合ナルニ依リ、我企業家ノ爲メニハ今日ヲ以テ絶好ノ機會ナリトスヘシ

(三) 有望ナル「サイザル」麻耕作

本品ハ當國農產物ノ大宗ニシテ輸出ニ於テ第一位ヲ占ム、蓋シ當國產ハ品質良好其ノ長サ及强サニ於テ世界第一ノ稱アリ

主產地ハ「タンガ」及「ウサンバラ」地方ニシテ「リンヂー」、「ダレサラム」、「モロゴロ」、「バシガニ」地方等之ニ次キ、孰レモ海岸地又ハ海岸ニ近キ處ニシテ、棉花ノ生產地ナルニ依リ棉ト交互耕作ヲ爲ス利益アリ、聞ク所ニ依レハ本品ハ六年乃至八年位ノ壽命ヲ有シ、海岸地方ニ於テハ約三ケ年ニシテ其ノ葉ヲ採取シ得ルモ、高原地方ニ於テハ三年半乃至四年ヲ要シ、第一回ノ時ニハ一本ヨリ六十葉位、第二回ヨリハ枯死スル迄毎年二十乃至三十葉位採取スル事ヲ得ヘク、一英加ヨリ一千百二十封度位ノ收穫アリト云フ、但シ收穫度數ハ年二回乃至四回トス

耕作者ハ歐洲人及印度人ニシテ、孰モ工場ヲ設備シ、葉ヲ採取シタル後之ヲ纖維採搾器ニ掛ケ其ノ重要纖維ヲ抽出スルモノニシテ、歩止リハ普通3%乃至3½%ナリト云フ

一九二六年ニ於ケル耕作面積ハ十五萬九千英加生產輸出額二萬五千噸此ノ價九十一萬一千磅ナリ

本耕作モ亦棉花ト共ニ本邦人ニ有望ノ事業ト認ム

(四) 其他ノ主要產物

(イ) 珈琲

珈琲モ亦主要產物ノ一ニシテ主產地ハ「ヴィクトリア」湖「ブコバ」地方及東北地方ノ「モシ」、「アルシャ」、「ウサンバラ」ノ高原地ナリ

「ブコバ」ハ產額大ナルモ多ク土人ノ栽培ニ係リ品質良好ナラス、「モシ」、「アルシャ」地方ハ主トシテ歐洲人ノ經營ニ係リ、所謂「アラビヤ」珈琲トシテ品質東阿第一ト稱セラレ、價格「ケニヤ」珈琲ノ上位ニ在リ

一九二六年ニ於ケル耕作面積ハ一〇七、〇六五英加輸出額一三〇、七九三、此ノ價四九五、一九九磅ニ達シタリ、但シ品種ハ「アラビヤ」及「ロブスタ」種ニシテ收穫ハ通常七月頃ナリトス

(ロ)落花生

落花生ハ輸出品中ノ第四位ヲ占メ、主トシテ中央部ノ「タボラ」、「ドドマ」等ノ地方ニ産シ、「ムワンザ」方面ノ奥地ノ産モ亦尠カラス、全部土人ノ生産ニ係リ耕作面積明カナラサルモ、一九二六年ニハ輸出額二五四、九〇三磅ニ達シタリ、收穫ハ通常五月頃ヨリナリトス

(ハ)「シム・シム」胡麻

本品ハ「リンデ」ヲ始トシ其ノ他「ムワンザ」、「キルワ」及「モロゴロ」等ノ土人ニ依リテ生産セラルルモノニシテ耕作面積明カナラサルモ、一九二六年ノ輸出高六八、五八五磅ニ達シタリ、收穫ハ通常七月ヨリナリトス

(ニ)其ノ他

右ノ外黍(收穫七月ヨリ)、玉蜀黍、(收穫四月ヨリ五月迄)米(收穫五月ヨリ)等ノ産出アリ孰モ土人ニ依リテ栽培セラル

第一四、牧畜

牧畜ハ土人ノ主産業ニシテ一九二六年ノ統計ニ依レハ其ノ飼養數ハ左ノ如シ

牛			四、四七九、二一〇
羊及山羊			四、四六二、〇九三
驢馬			三六、四六五
豚			八、〇三九
騾馬			一五三
馬			六九

右ノ内牛羊山羊ハ至ル處ニ於テ盛ニ飼養セラルルモ特ニ牛ハ「アルシヤ」、「ドドマ」、「コンドア」、「イランギ」、「タボラ」、「ムワンザ」、「モシ」、「ランゲ」地方ヲ、又羊及山羊ハ「アルサ」、「ドドマ」、「コンドア・イランギ」、「タボラ」、「ムワンザ」、「モシ」ヲ最トス

最近數年間ノ牛皮及羊山羊毛皮ノ輸出高ハ左ノ如シ

	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年
金額(磅)	二七四、五一一	一一七、五五四	一八五、八四三	二四〇、一六五	一六四、四三五
數量	六九、一二〇	四一、三七〇	五〇、九四八	五三、二二五	四一、九〇七

尚輸出ニ關シテハ外國貿易ノ部參照アリタシ

第一五、林　業

當領ノ大森林ト稱スヘキモノハ大凡左ノ如シ（單位英加）

留保森林	二、三八八、〇〇〇	（三七三一平方哩）
他日留保林トナルヘキ見込ノモノ	二五四、〇〇〇	（三九七平方哩）
私有林	三五、〇〇〇	（五五平方哩）
合計	二、六七七、〇〇〇	（四一八三平方哩）

右ノ内三分ノ一ハ伐切ニ適シ、六分ノ一ハ他日交通ノ便開ケタル場合ニ伐切シ得ヘキモノニシテ、僅ニ全森林面積ノ一分二厘五毛ニ過キス、但シ主要森林ハ當領ノ北部及西南ノ一小部、「エヤル」湖ノ南端ヨリ「ヴィクトリア」湖ノ南ニ到ル線ノ西側及「キロサ」及「キルワ」港ヲ連接セシ線ノ西側一帶ノ地方ニ在リ、而シテ伐切シ得ヘキ森林八九二、〇〇〇英加ヨリ得ヘキ木材ハ一英加五〇〇立法呎ト見積リ其ノ百分ノ一ヲ伐切スルトセハ年產四、四六〇、〇〇〇立法呎ヲ得ル事トナルヘシ但シ木ノ種類ハ左ノ如シ

硬　木

Wyule, Mninga, Mahogany, Mbanga, Camphor, Mkafi, Mfiranji,

軟　木

Ceder, Yellow wood.

右ノ外「タンガ」、「ダレサラム」、「バガモヨ」、「マフィア」島等ノ海岸地方ニハ「ココナッツ」樹盛ニ栽培セラレ、「コプラ」ノ輸出尠カラス

右ノ外目下土人ノ居住スル地方ニシテ或ハ樹木少ク或ハ樹木ナキ爲メ土人ノ建築及薪炭等ノ爲メ困難ヲ感スル場合尠カラス、依テ政府ハ是等ノ地方ノ土人ニ苗木ヲ供給シ鋭意植林ヲ爲サシメツツアリト云フ

第一六、鑛　業

當領ノ地下ノ富源ハ未知數ナルモ目下ノ產出狀況ハ左ノ如シ

(一)　金

「ムワンザ」、「コンドアイランギ」、「ルングウエ」等ノ地方ニ少量ノ產出アリ但シ多クハ砂金ニシテ其ノ採取ハ孰レモ極メテ原始的方法ニ依レリ、然カモ大規模ノ方法ヲ用ユル事ハ經費ヲ償ハサル恐アルニ依リ何人モ其ノ計畫ヲ躊躇セリト云フ

(二) 金剛石

「ムワンザ」地方ニ發見セラル英國人ノ會社ニテ可成リ大規模ノ採掘ヲ爲シツツアリ、將來有望ト稱セラル、又此ノ外ニ「シンヤガ」地方ニ於テモ金剛石ノ存在ヲ發見シタリトノ說アルモ未タ企業ノ域ニ達セサルカ如シ

(三) 錫

「ブコバ」ニ於テ發見セラレ目下小規模ノ採掘ヲ爲シツツアリ

(四) 石炭

「ウフィパ」地方ニ存在スルモ未タ採掘セラレス

(五) 雲母

「モロゴロ」、「ウフィパ」、「ドドマ」、「ムベヤ」等ノ諸地方ニ存在スルモ未タ商業價値ヲ認ムルニ至ラス

(六) 銅

「イリンガ」州「ヌジョムベ」地方ニ發見セラレタルモ港迄ノ距離遠ク運搬困難ナルニ依リ果シテ商業上ノ價値アルヤ否明カナラス

(七) 鹽

「ウヴインザ」地方ニ極メテ豐富ナル岩鹽層アリ、元獨逸人會社ノ所有ニ屬シタル所戰時英國政府ニ於テ占領シ爾來當領鐵道局ニ於テ經營シ來リタルモ一九二六年官民合資ノ會社ノ經營ニ移セリ、但シ其ノ營業ノ目的ハ主トシテ國內ノ需要ニ充テントスルニ在リ

第一七、製造業

多少小工場ナキニアラサルモ概モ地方限ノ需要ヲ充タサントスルニ止リ、未タ獨立的企業ノ域ニ達セス、只例外トシテ曩ニ「ムワンザ」州ニ於テ某「シンジケート」ノ手ニ於テ肉鑵詰會社設立セラレタルカ、政府ハ此ノ事業ノ有望ナルニ着目シ或條件ノ下ニ其ノ組織ヲ改造シ之ニ「ムワンザ」及「タボラ」地方ニ於ケル製肉業ノ獨占權ヲ與ヘントスル計畫アリト云フ尙最近「タンガ」ニ於テ神戶ノ瀧川儀作氏ノ手ニ於テ燐製造業ヲ開始シタルノ報アリ、成功ヲ望ム

第一八、交　通

(一)　鐵　道

鐵道ハ總テ官有ニシテ其ノ線路ハ左ノ如シ

(イ)　中央鐵道　七七三哩

「ダレサラム」ヨリ「キゴマ」ニ至ル軌間一「メートル」ノ鐵道ニシテ、元獨逸政府ニ依リテ建設セラレタルモノナルヲ以テ、英國戰勝ノ結果占領シタル所ナリ

運轉ハ毎週旅客郵便列車一回、貨客混合列車一回、貨物列車二回、各「ダレサラム」、「キゴマ」兩端驛ヨリ發車スル外「ダレサラム」、「タボラ」間ニハ別ニ一週二回貨物列車ヲ兩驛ヨリ發車ス

所要時間ハ「ダレサラム」、「キゴマ」間上下郵便旅客列車ハ各五十時間、混合列車ハ下リ五十五時間、上リ五十九時間ニシテ乘車賃ハ一等二二四志一〇仙、二等一二四志五〇仙、三等二二志九〇仙ナリ

(ロ)　「タボラ」、「シンヤンガ」支線

中央鐵道「タボラ」驛ヨリ「シンヤンガ」ニ至ルモノニシテ他日「ムワンザ」ニ延長セラルヘキモノナリ

二四〇哩

(ハ)　「タンガ」鐵　道

「タンガ」ヨリ「モシ」ニ至ルモノニシテ中央鐵道ト同シテ軌間一「メートル」ノ官有鐵道ニシテ、「ヴガンダ」鐵道ノ「ヴォイ」支線ト「モシ」ニ於テ連接ス

運轉ハ旅客郵便列車毎週一回兩端驛ヨリ發車スル外、「タンガ」及「コログウエ」間毎週六回、「コログウエ」及「ブイコ」間毎週一回混合列車ヲ運轉ス、「タンガ」及「モシ」間郵便列車十七時間ヲ要ス

八五哩

(ニ)　「リンヂ」輕便鐵道

「リンヂ」ヨリ「マサシ」ニ至ル六〇「センチメートル」ノ輕便鐵道ニシテ元獨逸人ノ經營ニ屬シタルモ戰爭ノ結果英國ノ所有トナル

計畫中

(ホ)　「アルシャ」支線

「タンカ」鐵道ノ終點驛「モシ」ヨリ「アルシャ」地方ニ延長セントスルモノニシテ目下計畫中ナリ

(ヘ)「キロサ・ツクユ」支線

中央鐵道ノ「キロサ」驛ヨリ西南ノ方「ニヤザ」湖ニ近キ「ツクユ」ニ支線ヲ敷設セントシ目下計畫中ナリ

(ト) 運賃及運輸規則

貨物ハ其ノ性質ニ依リ一級ヨリ十級ニ分チ其ノ賃率ハ一〇〇〇「キログラム」ニ付一「キロメートル」ヲ單位トシ等級ノ下ルニ從ヒ且ツ運送距離一〇〇「キロメートル」毎ニ遞減ス、例ヘハ運送距離一「キロメートル」ヨリ一〇〇「キロメートル」迄ハ一「キログラム」ニ付運賃一級品八六仙、四級品三四仙ナルモ一〇一「キロメートル」乃至二〇〇「キロメートル」ニ付運賃一級品八〇仙、四級品三二、七仙トス、但シ運送中ノ危險ハ荷主ノ負擔トシ鐵道負擔ノ場合ニハ運賃一割增トス

(ハ) 運送手續ハ荷主ヨリ出貨驛ニ送狀ヲ提出シ、荷物ト引換ニ鐵道領收證ヲ受取リ之ヲ荷受主ニ送附スレハ荷受主ハ之ヲ入貨驛ニ提示シ荷物ノ引渡ヲ受クルモノトシテ入荷驛ハ荷受主ニ對シテ一々着荷案內ヲ爲ササルモノトス

計畫中

(二) 道路

道路ハ三級ニ分カタレ、Aハ六二哩、Bハ五、〇九五、Cハ四、九〇八哩ニ達シ、A及Bハ雨期以外ハ自動車ヲ通スルモ、Cハ僅ニ自轉車ヲ通スルニ過キス

(三) 水路

(イ)「ヴィクトリア」湖

「ケニヤ」、「ウガンダ」ノ部ニ於テ述ヘタル通リ「ウガンダ」鐵道經營ノ湖上汽船ハ當領內「ブコバ」、「ムワンザ」、「ムソマ」三港ニ北廻、南廻兩線各二週間ニ一回ツツ寄港シ「ケニヤ」、「ウガンダ」ノ湖岸地方ト連絡ス

(ロ)「タンガニカ」湖

政府所有汽船「ムワンザ」ハ二週間ニ一回ツツ「キゴマ」ヲ發シ、「キブウェジ」、「カレマ」、「ウチンタ」、「キランド」、「カラ」、「カサンガ」、「カランボ」、「キッタ」、「カラ」、「キランド」、「カレマ」、「キブウェジ」ノ諸港ヲ經一週間ニテ寄港ス、但シ本船ハ一等三名、甲板數名、戴貨三〇噸ノ小型船ナリ

右ノ外白耳義船「バーロン」、「ダニス」及「タク・ヅ・ブラバン」ノ二艘アリ、各一等六名、戴貨

五〇〇噸ノ容積ヲ有ス同船ハ「アルバーヴ（ママ）ール」及「キゴマ」往復線ト及「アルバートウ（ママ）ール」ヲ起點トスル北廻及南廻ノ三線ヲ運航ス

(ハ)「ニヤサ」湖

汽船「ゲンドレン」ニテ「ニヤサランド」トノ間ヲ運航ス

(四) 海　運

一九二五年及一九二六年中出入シタル外國船舶ハ左ノ如シ

「ダレサラム」出入船舶

一九二五年

國籍	曳數	入港貨物	出港貨物
英國	一五七噸	四五、三一九噸	二二、八七〇噸
「ザンジバル」	五七	五二三	一四七
佛蘭西	三六	四二七	二七
和蘭	三五	一七、九九五	二二、二八〇
獨逸	一八	四、〇四七	五、四八七
諸威	一	六四	—
伊太利	一四	九四四	八四八

一九二六年

國籍	曳數	入港貨物	出港貨物
英國	一八六噸	五〇、三七八噸	二三、三五三噸
「ザンジバル」	五六	五一六	二〇三
佛蘭西	三二	三六一	七
和蘭	三八	二二、七三四	二三、四四一
獨逸	二五	一三、七八四	八、五三五
諸威	一	一七九	—
伊太利	八	四二九	六四

「タンガ」出入船舶

一九二五年

國籍	曳數	入港貨物	出港貨物
英國	一七四噸	六、五七二噸	一二、五九八噸
和蘭	三四	三、六八六	一三、四六九
獨逸	一七	一、〇五〇	四、三三七
丁抹	—	—	—
合計	二二五	一一、三〇八	三〇、四〇四
日本	—	—	—
合計	三一八	六九、三一九	五一、六五九

一九二六年

國籍	曳數	入港貨物	出港貨物
英國	一九五噸	九、二三二噸	九、九二九噸
和蘭	三七	四、二七五	一五、六三二
獨逸	二五	三、五六九	八、二二〇
丁抹	一	三〇四	—
合計	二五八	一七、三八〇	三三、七八一
日本	二	二、四五〇	—
合計	一二	八五五	五三一
	三六〇	九一、六八六	五六、一三四

「リンヂ」出入船舶

一九二五年

國籍	曳數	入港貨物	出港貨物
英國	三〇噸	二、一一一噸	三、四三五噸
和蘭	一七	四三〇	六、九三六
獨逸	—	—	—
合計	四七	二、五四一	一〇、三七一

一九二六年

曳數	入港貨物	出港貨物
二九噸	一、七六九噸	二、五五五噸
一七	三二八	四、五二五
二	三二	—
四八	二、二二九	七、〇八〇

第一九、金　融

(一)通　貨

「ケニヤ」及「ウガンダ」同樣英貨ト同一標準ノ東阿貨幣ヲ使用ス、其ノ種類左ノ如シ

銀　貨　一志、五〇仙
銅　貨　一〇仙、五仙、一仙
紙　幣　一〇〇〇志、二〇〇志、一〇〇志、一〇志、五志

一九二五年末ノ貨幣流通高ハ一五、二四五、五六五志ナリ

(二)銀　行

銀行ハ左ノ四行アリ

The Standard Bank of South Africa, Ltd.（國庫金取扱）
資本金　二、一二九、一六五磅
本店倫敦
支店「ダレサラム」、「タンガ」、「タギラ」、「ムワンザ」、「ブコバ」、「リンザ」

The National Bank of India, Ltd.
資本金　二、〇〇〇、〇〇〇磅
本店倫敦
支店「ダレサラム」、「タンガ」

Barclay's Bank (The National Bank of South Africa 合併)
資本金　四、九七五、五〇〇磅
本店倫敦
支店「ダレサラム」、「タンガ」

The Banque du Congo Belge.
資本金　六、〇〇〇、〇〇〇法
本店「ブラッセル」
支店「ダレサラム」、「キゴマ」

一九二六年末ヨリ郵便貯金ノ制度設ケラル

第二〇、關稅制度

「ケニヤ」、「ウガンタ」ノ關稅ト同一ノ稅率ヲ採用シ、且一九二三年一月以來三國相互ニ內國產貨物ノ無稅輸入ヲ許シ、更ニ一九二七年八月一日ヨリ此ノ主義ヲ輸入品ノ再輸出ニ及ホシ、三國間ニ自由貿易主義ヲ實行スルコトトナレリ、委細ハ「ケニヤ」ノ關稅制度ノ部參照アリタシ

第二一、移民規則

移民法ハ一九二四年ノ制定ニ係リ各國人ニ對シ均等ノ取扱ヲ爲シ左記移民ノ入國ヲ禁ス

無資力者、白痴、傳染病者、重罪ノ刑ニ處セラレタル者醜業婦及其ノ關係者、好マシカラサル人物ト認メラレタル者、嘗テ當領ヨリ追放セラレタル者、入國ヲ禁セラレタル者ノ子女ニシテ年齡十六歲未滿ノ者

入國ノ際ニ於ケル移民官憲ノ取扱ハ「ケニヤ」ニ於ケルト略々相同シテ所持金最低甲板客一〇磅其ノ他四〇磅ナリ

當國ハ委任統治地タル關係上日本人トシテ差別取扱ヲ受クル危險最モ少シ

第二二、度量衡

獨逸時代ニ施行セル「メートル」法ハ今尙一般ニ使用セラレ居リ政府ハ之ヲ英國式度量衡ニ改メン事ヲ考量セル由ナルモ未タ實行ニ至ラス

尙土人ノ間ニハ左ノ如キ度量衡ヲ用ヒ居レリ

尺

「シピリ」　約五吋　（拇指ト小指ヲ張リタル長サ）
「ムコノ」　十八吋　（指尖ヨリ肘迄ノ長サ）
「ワリ」　一碼

容積

「キパパ」　約一「パイント」又ハ一封度半
「ピシ」　四「キパパ」
「フラシラ」　六「ピシ」
「ウズラ」　一〇「フラシラ」

重

「ラチリ」　約一封度
「ワキア」　一「オンス」

第二三、港灣事情

「ダレサラム」港ノ事情左ノ如シ

(一)　港ノ狀態及設備

當港ヨリ其ノ入口ニ「ノースリーフ」及「サウスリーフ」ト呼フ淺瀨アリ、然カモ水路ノ幅狹

ク漸ク二百碼ニ滿タサルノミナラス深ク入ルニ從ヒ灣曲シツツ一層狹隘トナリ、其ノ間僅ニ一二〇碼ニ過キス、干潮ノ時水深二一呎ニシテ船舶ノ出入容易ニアラス、且ツ港内餘リ廣カラサルニ依リ一時ニ多數ノ巨船ヲ容ルルニ足ラス是レ當港ノ缺點トスル所ナリ

港内西側ニ長サ七四八呎ノ岸壁アリ之ヨリ七個ノ棧橋ヲ架設ス、然レトモ孰モ艀用ニシテ船舶ハ沖繫トス、但シ棧橋ニハ「クレーン」五噸二臺、三噸一臺、一噸一臺ヲ備ヘ、岸壁ニハ倉庫及鐵道アリ是等ハ總テ政府ノ所有ニ屬ス

(二) 荷役

荷役時間ハ午前七時ヨリ午後一時迄午後二時ヨリ五時迄九時間トス、人夫ハ「スワヒリ」土人、「フォーマン」ハ歐洲人ニシテ一日ノ取扱高一艙平均一〇〇噸見當ナリ

(イ) 揚荷費

但シ歐洲ヨリノ輸入品ハ運賃中ニ揚荷費ヲ含ムモ日本ヨリノ輸入品ハ然ラサルニ依リ揚荷費ハ荷受人ノ負擔トナル習慣ナリ

普通品	三噸以下	BL噸一臺ニ付 二志
重量品	三—五噸	同 四志
	五—一〇噸	同 五志
	一〇噸以上	同 六志

(ロ) 積荷費

但シ出荷人ノ負擔トス

普通貨物		同 二志

(ハ) 荷繰

同一艙ニテ		同 一志半
一艙ヨリ他艙ヘ		同 三志

(ニ)「オヴァータイム」

晝間一時間ニ付土人	六〇仙	「ヘッド マン」	二志
休日及夜間	二志	同	一五志
		「フォーマン」	三志
		同	三〇志

(三) 艀賃

(1) 揚荷(「ワーフェージ」ヲ含ム)

但シ歐洲ヨリノ輸入品ハ運賃込ミ、日本ヨリノ輸入品ハ荷受主ノ負擔トナル習慣ナリ

普通品	二噸以下	BL噸一噸ニ付 一二志半
	二—五噸	同 一六志
重量品	五—一〇噸	同 二一志
	一〇以上噸	同 二五志

(2) 積荷(「ワーフェージ」ヲ含ム)

但シ出荷人ノ負擔トス

普通品　三級ニ分カタレ　一噸ニ付　五―六志中

(四)港費

(イ)水先案内

強制ニシテ料金左ノ如シ

登簿純噸	一噸ニ付	出入港各	一〇〇志
同	同	同	一五〇志
同	同	増金	五〇志

但シ休日

(ロ)港税

登簿純噸	一噸ニ付	一〇仙

(ハ)燈臺税

登簿純噸	一噸ニ付	一〇仙

但シ領内ニ於テ一回仕拂ヒハ三ケ月間有效トス

第二四、外國貿易

當國稅關ノ報告ニ依レハ一九二三年以後ノ當國輸出入額ハ左ノ如シ（單位磅）

年	輸入	輸出	合計
一九二三年	二、二八九、九八二	二、三四〇、四七二	四、六三〇、四五四
一九二四年	二、六二四、九九七	三、五一五、〇二五	六、一四〇、〇二二
一九二五年	三、七〇一、〇一四	四、〇二三、九九五	七、七二五、〇〇九
一九二六年	四、一三三、〇五四	四、一四九、四九〇	八、二八二、五四四

即チ「タンガニカ」ノ外國貿易カ如何ニ長足ノ進歩ヲ爲シツツアルヤヲ知ルニ足ルヘシ今輸入及輸出ニ付左ニ其ノ概要ヲ說明スヘシ

(一)輸入

一九二三年ヨリ一九二六年ニ至ル四ケ年間ノ輸入貿易ハ左ノ如シ（單位磅）

年	商業輸入	政府輸入	地金銀及正貨	通過輸入	合計
一九二三年	一、四七五、〇九六	三二三、九四二	四二二、一一三	六八、八三一	二、二八九、九八二
一九二四年	一、九〇一、五六三	一六一、〇八三	三〇三、二九四	二五九、〇五七	二、六二四、九九七
一九二五年	二、四四二、九三七	四二〇、九八〇	三四二、四九四	四九四、六〇三	三、七〇一、〇一四
一九二六年	二、五九三、七〇六	五五八、七一六	四四五、五〇二	五三五、一三〇	四、一三三、〇五四

即チ各項目ヲ通シ當國輸入貿易進歩ノ狀ヲ察スルニ足ルヘシ、但シ通過輸入ハ主トシテ「ダレサラム」ニ陸揚ケセラレ中央鐵道ニ依リ白領「コンゴー」ニ輸入セラルルモノトス

右ノ内商業輸入品及政府輸入品ヲ其ノ性質ニ依リテ大別スレハ左ノ如シ（單位磅）

種別／年別	一九二四年	一九二五年	一九二六年
食物飲料煙草	二七六、三九五	三九八、四〇四	四八三、三四五
原料品及半製品	一八、六二四	三四、〇八五	四六、四一三
精製品	一、七三〇、七四八	二、三八四、七一二	二、五七二、三〇七
其ノ他雜品	三六、八七九	四六、七一六	五〇、三五七
貨物合計	二、〇六二、六四六	二、八六三、九一七	三、一五二、四二二
正金	三〇三、二九四	三四二、四九四	四四五、五〇二
總計	二、三六五、九四〇	三、二〇六、四一一	三、五九七、九二四

更ニ商業輸入及政府輸入額ヲ其ノ輸出國ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ但シ英屬領ノ約半數ハ印度ニシテ「ケニヤ」及「ウガンダ」之ニ次ク

年		一九二五年		一九二六年		一九二七年自一月至六月	
		金額	百分率	金額	百分率	金額	百分率
英本國		一、二三、七六三磅	三九・一	一、二六九、二〇〇磅	四〇・三	六三九、二九二磅	三六・六
英屬領地		七四二、二〇四	二五・九	六八九、四八〇	二一・九	二四一、〇四四	一三・八
米國		一一二、六三七	三・八	一八四、〇〇四	五・八	一四四、九七六	八・三
佛蘭西		二七、八〇	〇・九	三三、七三三	一・一	一七四、六六	一
獨逸		二九五、四四五	九・四	一七八、一六三	一〇・二		
和蘭		三〇〇、〇二八	一〇・五	二七七、二九五	八・八	一五〇、二一六	八・六
日本		三〇五、二一四	九・〇	二七七、六〇一	八・八	一八、七七五	六・八
其ノ他ノ諸國		一一五、二八一	七・一	三二八、八三三	七・二	二五六、七六五	一四・七
合計		二、八六三、九一七	四・〇	一七四、四四三	五・五		
				三、一五二、四二二	一〇〇・〇	一七四六、九九六	一〇〇・〇

右ニ依レハ日本ヨリノ輸入額ハ一九二五年及一九二六年ノ兩年共全輸入額ノ百分ノ七餘ニシテ輸入國ノ第五位ヲ占メタルモ、一九二七年ノ上半年ニ至リ、米國進出ノ爲日本ハ之ト代リテ第六位トナレリ、但シ英屬領ヨリノ輸入品中ニハ若干ノ日本商品ヲ含ム

右ノ内一九二六年ノ輸入額ヲ輸入港別ニ示セハ左ノ如シ（單位磅）

輸入港品	金額	百分率
「ダレサラム」	一、八四二、一八九	五八・四
「タンガ」	六〇〇、〇二四	一九・〇
「ムワンザ」	二三〇、四九八	七・三
「プコバ」	一九二、九七一	六・一
「リンジ」	七六、七三三	二・四
「モシ」	八二、五五六	二・六
「バガニ」	二〇、五一七	〇・七

「キルソ」		一七、九六一	〇・六
「ムソマ」		二七、七四四	〇・九
「バカモヨ」		一四、七八四	〇・五
「マフヒア」		一〇、〇九六	〇・三
「キゴマ」		八、一九五	〇・三
其他		二八、一五四	〇・九
合計		三、一五二、四二二	一〇〇・〇

即チ「タンガニカ」ノ輸入ハ其ノ約五割八分ハ「ダレサラム」ヲ、又約一割九分ハ「タンガ」ヲ通過シ、一割八分半ハ「ムワンザ」、「ブゴバ」、「リンヂ」、「モシ」ノ間ニ分配セラルルモノニシテ、他ハ孰レモ云フニ足ラス

今重要輸入品ニ付一九二五年及一九二六年ニ於ケル輸入狀況ヲ示セハ左ノ如シ

品名	単位	一九二五年 数量	一九二五年 価格(磅)	一九二六年 数量	一九二六年 価格(磅)
鹽魚乾魚	Cwt	一二、〇九八	一〇、三六六	八、三八〇	七、三〇七
魚罐詰同	同	三二三	二、四二四	五三三	三、五九一
砂糖同	同	二九、七六一	三八、九一八	四二、〇五五	五一、一二〇
茶同	同	一、六四一	一八、八八八	一、五六二	一八、〇一二
陶磁器		—	一二、〇三五	—	一二、八八五
硝子壜個		三四〇、二〇六	一、四七二	二五二、八七七	一、四八六
硝子器具同		—	二、三一七	—	二、四七九
電燈用硝子同		五〇、四五三	一、二七七	七一、二七四	一、四二九
其他ノ硝子同		—	三、〇六八	—	二、六〇三
「セメント」噸		八、八一四	三三、七九七	九、五三六	四三、七〇一
亞鉛引平波板同		一、七六七	三八、六四二	一、九四八	四二、三五八
「エナメル」セザル容器同		二四	一、四九三	四七	二、八七四
「エナメル」容器同		一〇二	九、二六五	一八七	一二、八八一
釘鉄地子同		三六四	一〇、九四二	四三五	一三、五七三
「アルミニューム」容器同		二二	五、〇五七	三九	六、六五八
眞鍮製品同		一七	三、六三四	一三	三、六一七
眞鍮針金同		二七	三、一三三	二九	三、〇九三
鋼製品同		八	九六四	七	一、〇〇三
鋼線同		一三八	一五、三九七	一二八	一一、八四一
双物個		—	三、八二一	—	四、二六五
醫療器械同		—	四、四八六	—	七、二九一
鐵製器具	Cwt	二、五九九	一二、一五三	二、一三五	一四、一七一

綿布類五種	噸	二八、七七二、八九七	九五四、七四八	二八、二八四、三八六	五一七、五七六
綿毛布	枚	六一三、三二〇	七五、四三三	四九六、〇七九	五二、五四八
其他ノ綿製品	同	—	—	—	—
綿糸	封度	二二〇、二五二	一四、五八七	一一二、五二六	一三、六七九
絹織物	噸	一九、四三八	一、五六一	四二、〇〇六	二、七一四
絹製品	同	—	八、六七四	—	七、八二一
麻袋	打	一〇二、八〇〇	六五、〇四六	一〇三、〇四六	五七、〇八二
衣類		—	一六、二一六	—	一九、五二〇
靴	打	三、六八一	一〇、四七五	四、三二四	一三、五七六
小間物類		—	七、三一一	—	五、六九二
帽子	打	二二、五三九	一八、一八三	二二、九〇八	一六、三〇七
莫大小下着	同	二五、八三一	一七、三五一	三六、七四八	二一、三八八
莫大小靴下	同	五、五五〇	二、八三四	六、八四七	二、八九二
其他ノ莫大小	同	一、二二七	二、二二六	四八七	九二一
化學製品		—	九、五四四	—	八、〇〇四
藥品		—	一四、五九八	—	二〇、八一六
石鹸	Cwt	七、二五七	一七、三一〇	八、三七〇	一八、五三八
文房具		—	一九、三〇九	—	二一、六二一

自轉車	個	一六、〇五一	二、〇一七	一三、八三三	一六、〇五四
自働車	同	一三九	二〇八	三七、七一三	二五、八三〇
貨物自働車	同	二三〇	二九六	六三、〇七九	四六、五〇六
「モーターサイクル」	同	二四四	一一、七二五	一一、七二五	一二、〇五八
自働車部分品	同	—	二三九	—	一三、七九七
「トラクター」	同	三〇	八〇	一三、四四三	四、八一五
龍		—	—	二三五	二三五
「ピーグ」	封度	一八九、五六一	一八、六八五	一三、六七四	一六六、一八一
刷子	Cwt	四二一	四七九	四、二二六	四、〇九六
寶石類及鑛金製品		—	—	二、七三四	二、四七一
洋燈及提打	個	八一、九一八	一〇、三一五	一一、四一九	九六、六四三
燒寸	「グロッス」箱數	六八、五〇三	八三、七七五	一〇、七五〇	九、四四六
樂器		—	—	七、三二七	四、二三八
玩具運動具		三、八六六	—	四、三八九	三、八六六
傘	打	一、三五〇	二、九八五	四、三九五	二、六六〇

右ノ內本邦ト最モ關係アル重要品ノ輸入狀況ハ左ノ如シ（單位磅）

(イ) 陶磁器

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	五、一二六	五、二五五

獨逸			三、六八五
和蘭			一、三八五
日本			三七九
其他			一、四六〇
合計			一二、〇三五

本品ハ他ノ東阿ニ於ケルト同シク極メテ有望ナルモ當地ニハ未タ日本人ノ輸入商ナク全部印度商人ニ依リテ取扱ハル

(ロ)硝子壜

仕出國			一九二五年
英國			二八六
獨逸			九八一
日本			八四
其他			一二
合計			一、四七二

當地ニハ陶磁器ト同樣ニ日本品ノ取扱商ナク印度商人ニ依リ取扱ハル

(ハ)他ノ硝子器

仕出國			一九二五年
英國			六八四

獨逸			八九六
英領印度			三〇七
和蘭			一六一
日本			七八
其他			一九一
合計			二、三一七

本品ハ主トシテ臺所用器ニシテ今後有望ノ由ナルカ輸入ハ印度人ノ思惑仕入ニ依ル

(ニ)「セメント」

仕出國			一九二五年
英國			二七、五九一
獨逸			五、四一一
白耳義			三七八
伊太利			—
其他			四一七
合計			三三、七九七

本品ハ東阿至ル處ニ於テ相當ノ需要アリ本邦當業者ノ割込不可能ニアラス當業者ノ研究ヲ望ム

獨逸			三、六七四
和蘭			二、三〇九
日本			八四七
其他			八〇〇
合計			一二、八八五

仕出國			一九二六年
英國			四六三
獨逸			九〇四
日本			四八
其他			七一
合計			一、四八六

仕出國			一九二六年
英國			七一一

獨逸			八三四
英領印度			三一三
和蘭			九二
日本			一一五
其他			四一四
合計			二、四七九

仕出國			一九二六年
英國			二六、四七七
獨逸			一四、六七〇
白耳義			一、五二三
伊太利			六八一
其他			三五〇
合計			四三、七〇一

(ホ) 亞鉛引鐵板

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	三八、三五一	四一、八一五
其ノ他	二九一	五四三
合計	三八、六四二	四二、三五八

右ハ建築材料ニシテ東阿全體ニ需要多シ當業者ノ試賣ヲ望ム

(ヘ) 「エナメル」容器

仕出國	一九二五年	一九二六年
米國	一、五五一	一、五四八
獨逸	四、七二三	四、二八六
和蘭	八〇五	一、七五六
日本	七〇六	一、五二五
其他	一、四八〇	三、七六六
合計	九、二六五	一二、八八一

本品ハ近來土人ノ間ニ重寶セラレ漸次需要ヲ增加ス、日本品ハ他ノ雜貨ト同樣印度商人ノ思惑輸入ニ依ル

(ト) 釘「スクリュー」等

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	六、二三三	九、三六四
獨逸	三、三四四	二、六六二
日本	五五	五九
其他	一、三一〇	一、四八八
合計	一〇、九四二	一三、五七三

本品モ亦土人ノ間ニ賣行宜シ輸入ハ印度人ノ取扱ニ依ル

(チ) 「レイル」枕木鐵

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	一四六、六四九	一三六、七四一
獨逸	七、七二三	一〇、九四七
白耳義	二、二五六	三九二
其他	四二	一、三八八
合計	一五六、六七〇	一四九、四六八

(リ) 「アルミニューム」容器

仕出國	一九二五年	一九二六年
英領印度	三、一五九	二、五七五

獨逸	一、六五六	三、一五九	
日本	—	一一八	
其他	二四二	八〇六	
合計	五、〇五七	六、六五八	

本品ハ土人ノ家庭用トシテ賣行宜シ、是亦印度人ノ思惑輸入スル所ナリ

(ヌ)「ショベル、スペード」

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	七、七〇六	三、〇二五
獨逸	一三、一一一	六、九七一
其他	一、四〇三	九九
合計	三二、二二〇	一〇、〇九五

右ハ主トシテ土人ノ需要品ナリ本邦ヨリハ未タ輸入ナシ我商人ノ割込ヲ望ム

(ル)電氣器具

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	二、四三〇	一〇、九三八
獨逸	五二二	六九〇
日本	五	二

其他	三二六	一、〇三二	
合計	三、二八三	一二、六六〇	

歐洲人ノ需要スル所ナルカ日本ノ輸入ハ「サンプル」送リト認ム當業者ノ努力ヲ望ム

(ヲ)綿布類

一九二五年一月ヨリ一九二七年六月ニ至ル右六種綿布ノ輸入額ハ左ノ如シ

品名	一九二五年 數量(碼)	一九二五年 金額(磅)	一九二六年 數量(碼)	一九二六年 價格(磅)	一九二七年自一月至六月 數量(碼)	一九二七年自一月至六月 金額(磅)
生木綿	一三、八三七、三〇八	三七五、八〇一	一三、九一五、九七九	三三二、八七九	八、一八九、六八五	—
晒木綿	二、四九九、二八七	八〇、八〇〇	一、七九七、〇八四	五〇、四〇二	一、四五九、五〇二	—
捺染綿	二、九五九、一一三	一二〇、六四	三、六二七、五四八	一三〇、一三四	一、九五三、二二八	—
反染綿	六、六一一、三四四	二四六、八〇七	五、八六六、〇二一	一八六、一三三	三、六〇六、一五六	—
糸染綿	二、八五五、八四五	一三一、二七六	三、〇七七、七五四	一一八、〇二八	二、五七八、五八四	—
綿毛布	六一三、三二〇 枚	七五、四三三	四九六、四一九 枚	五二、五四八	三四七、一一四 枚	—
合計	二八、七二二、八九七 碼 六一三、三二〇 枚	一、〇三〇、一八一	二八、二八四、三八六 碼 四九六、四一九 枚	五七〇、一二四	一七、七八七、一五五 碼 三四七、一一四 枚	—

今前記六種ノ綿布類ノ輸入概要ヲ左ニ說明スヘシ

1 生 木 綿

生木綿ノ總輸入額ハ之ヲ俵數ニ換算スル時ハ一俵九百碼トシテ一九二五年ニハ約一萬四百俵此ノ價三十七萬六千磅、一九二六年ニハ一萬四百九百俵此ノ價三十三萬三千磅ニ當リ、輸入綿布中ニ於テ最モ重要ナル位置ヲ占ム、今之ヲ仕出國ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ（單位磅）

年	日本	印度	英本國	米國	獨逸	和蘭	其他	合計
一九二五年	一七七	一四三	六	一九	三	一二	一六	三七六
一九二六年	一八八	一一三	三	五	五	四	八	一〇 三三三

但シ一九二七年一月ヨリ六月ニ至ル主要國ノ輸入額ハ日本五六三〇俵印度二六二〇俵米國三四〇俵合計八五九〇俵ナリトス

生木綿ノ內最モ多ク輸入セラルルモノハ粗布及「チャダール」（縞取粗布）ニシテ綾木綿モ亦多少輸入セラル

粗布ハ其ノ約八割卽チ一ケ年ニ約一萬俵位日本ヨリ輸入セラレ其ノ內八千五百俵ハ直接日本ヨリ又一千五百俵位ハ孟買又ハ亞丁經由ニテ輸入セラル、但シ日本品ハ殆ト總テ十封度物ニシテ最モ賣行良キモノハ龍C（東洋紡績）、獵帽C.C.C（大日本紡績）、六象C.C.C（同上）、騎兵77（內外棉花）、羽根「ボート」（泉州織物）、五雀（大日本紡績）等ナリ、又米國品ハ五封乃至六封半、印度品モ亦六封ノ輕目物ニ限ラレ、一ケ年ノ輸入高孰モ粗布輸入總額ノ八分乃至一割見當ニ達スト云フ

但シ印度品ハ米國品ニ比シ光澤惡シク品質劣レリ

當國ニハ上海ノ內外棉花會社製品水月モ亦多少輸入セラル

當國ニ於テハ粗布ハ殆ト總テ「カレンター」ヲ要スル事ト成リ居レリ、尙需要ハ年中可成活發ナルモ、農產物ノ出廻ハ四月ヨリ十月ニ多キヲ以テ同季節ヲ以テ賣行ノ最モ繁忙ナル時トナス

「チャダール」ノ一ケ年ノ輸入額ハ約二千五百俵位ニシテ其ノ九割餘ハ印度ヨリ輸入セラル

「シューカス」ハ「シューカ・ウラヤ」又ハ「キコイ」ト稱セラレ主トシテ英國及和蘭ヨリ輸入セラルルモ僅少ノ量ニ過キス

綾木綿ハ嘗テ英國及印度ヨリ輸入セラレタルモ最近ハ日本製鷲鳥印之ニ代ハル、用途ハ主トシテ天幕及帆ノ材料ト爲スモノナルモ時ニ土人ノ衣服ト成ル事ナキニアラス

2 晒 木 綿

一九二六年ニ於ケル本品ノ輸入額ハ約百八十萬碼此ノ價約五萬磅ニシテ輸入綿布總額ノ六・二%ニ當レリ今其ノ輸入金額ヲ仕出國ニ分チ表示スレハ左ノ如シ（單位千磅）

年	英本國	印度	和蘭	日本	其他ノ諸國	合計
一九二五年	五〇	七	二〇	〇、二二	三、七八	八一
一九二六年	二八	一	一九	〇、四六	一、五四	五〇

但シ一九二七年一月ヨリ六月ニ至ル主要國ノ輸入額ハ英國八十四萬二千磅、和蘭四十三萬九千磅、印度四萬八千磅、日本八萬磅合計百四十六萬磅ニ達シ、前年ノ同期ニ比シ約六十四萬磅ヲ增加シ、日本ハ一九二五年ノ七、八〇九磅、一九二六年ノ一八、八八八磅ニ對シ一躍其ノ面目ヲ一新シ聊カ人意ヲ强フスルニ足ル

用途ハ主トシテ土人男女ノ「カンジュ」、「シューカス」、「シャツ」、帽子、窓掛、寢臺用「シーツ」等ノ材料ト成ル

3 捺染綿布

一九二六年ニ於ケル本品ノ輸入額ハ約三百六十三萬磅此ノ價約十三萬磅ニシテ輸入綿布總額ノ一四・四ニ當レリ其ノ輸入額ヲ仕出國ニ分チテ表示スレハ左ノ如シ（單位千磅）

年	英本國	和蘭	日本	獨逸	他ノ諸國	合計
一九二五年	六九	四五	〇、〇二	一	五、九四	一二〇
一九二六年	七五	五〇	〇、一六	三	一、九三	一三〇

但シ一九二七年一月ヨリ六月ニ至ル主要國ノ輸入額ハ英本國百十七磅、和蘭七十一萬磅、印度五千磅合計百八十八萬五千磅ニシテ日本カ未タ其ノ利益ニ均霑スル能ハサルハ吾人ノ甚タ遺憾トスル所ナリ、種類ハ「カンガ」及「チンツ」ノ二種ヲ主トシ、「カンガ」ハ土人ノ女ノ腰卷トシテ最モ廣ク用ヒラルル長方形ノ布片ニシテ、主トシテ英國ヨリ輸入セラレ蘭品之ニ次ク、流行ハ激甚ナリ、又「チンツ」ハ「カンガ」ノ上等品トシテ用ヒラル、本品ハ主トシテ英國及和蘭ヨリ輸入セラル「ザンジバル」ニ於テ決定セラルル事多ク鳥、樹葉、花等ヲ染出セルモノニシテ流行ノ變遷可ナリ人ノ家庭ニ於テ窓掛又ハ其ノ他ノ裝飾品トシテ用ヒラル

4 反染木綿

一九二六年ニ於ケル本品ノ輸入額ハ約五百八拾七萬磅此ノ價約拾九萬磅ニシテ、輸入綿布總額ノ二二・八%ニ當リ、生木綿ニ次ク重要品ナリ、今之ヲ其ノ仕出國ニ分チテ表示スレハ左ノ如シ（單位千磅）

年	英本國	印度	獨逸	和蘭	日本	他ノ諸國	合計
一九二五年	一一一	六〇	七	六一	二・一二	五・八八	二四七
一九二六年	七三	六二	二	四六	一・四四	一・五六	一八六

但シ一九二七年一月ヨリ六月ニ至ル主要國ノ輸入額ハ英國約百拾七碼、和蘭約壹百萬碼、印度、百貳拾八萬碼、日本四萬七千碼其ノ他ノ諸國拾壹萬三千碼合計約參百六拾壹萬碼ナリトス

種類ハ「カニキ」、「カキ」、「クレープ」、紅木綿、「ホドルン」等ニシテ、「カニキ」ハ土人婦人ノ着衣ニ用ヒラレ、英國品ヲ主トシ普通「カンガ」ト同型ナリ、其ノ內「カニキ・キヲ」ト稱スル種類ハ光澤強キ黑布ニシテ主ニ「マンチェスター」ヨリ少々和蘭ヨリ輸入セラ、又「カニキ」ノ一種ニ「カニキ・ウフェト」ト稱スルモノアリ、最近英蘭兩國ヨリノ輸入ニ係リ、普通品ヨリモ重ク且ツ高價ナルモ持久力大ナル爲好評ヲ評シツツアリト云フ

「カキ」ハ英蘭兩國ヨリ輸入セラレ土人用制服「シャツ」人力車腰掛ノ覆等ニ用ヒラル

「クレープ」ハ全部日本ヨリ輸入セラル、歐洲婦人小兒ノ服地、上級土人婦女ノ「カンジュ」ノ材料ニ使用セラル

紅木綿ハ元印度ヨリ輸入セラレタルモノナルカ日本ノ模造品ニ依リ取ツテ代ハラレツツアリ

「ホドルン」ノ需要亦大ナリ右ノ各品ト共ニ染色簡單ニシテ流行ノ變遷ナキニ依リ歐洲品ト對抗スル敢テ難事ニアラサルヘシ、吾當業者ノ研究ヲ望ム

5 糸染綿布

一九二六年ニ於ケル本品ノ輸入額ハ約參百八萬碼此ノ價拾壹萬八千磅ニシテ、輸入綿布總額ノ一四・四%ニ當レリ、今之ヲ其ノ仕出國ニ分チテ表示スレハ左ノ如シ（單位千磅）

年	英本國	印度	獨逸	和蘭	日本	其他	合計
一九二五年	三三	二五	一五	四六	七	五	一三一
一九二六年	三〇	二二	一〇	四三	一〇	三	一二八

但シ一九二七年一月ヨリ六月ニ至ル主要國ノ輸入額ハ英本國約參拾六萬碼印度七拾七萬碼和蘭八拾五萬碼日本參拾八萬碼白耳義八萬碼獨逸拾萬碼ニシテ日本ハ一躍英國ヲ凌駕シ輸入國ノ第三位ヲ占ム

種類ハ縞「リレ」、「マスカット・クロース」、「クンゲル」、「キコイ」等ニシテ委細ハ前述ノ通リ

6 綿毛布

一九二六年ニ於ケル本品ノ輸入ハ約五拾萬枚此ノ價約五萬參千磅ニシテ和蘭其ノ過半ヲ占メ獨逸及印度ニ次ク、日本ハ一九二五年ニ千枚貳百五拾五磅ヲ輸入シタルモ、品質ニ於テモ又價格ニ於テモ遠ク他ニ及フ能ハサル爲メ爾來取引皆無ト成レリ、尙前年中獨逸品非常ニ輸入セラレタルモ和蘭品再ヒ進出優勢ヲ維持セリ、其ノ狀況左ノ如シ（單位千磅）

年	英本國	印度	獨逸	和蘭	日本	其他	合計
一九二五年	七	一〇	三	二七	〇・二六	二七・七四	七五
一九二六年	二	七	六	三七	—	一	五三

一九二七年一月ヨリ六月迄ノ輸入總額ハ參拾四萬七千枚ニシテ前年ノ同期ニ比シ拾壹貳千枚ヲ増セリ、但シ其ノ內譯ハ英本國壹萬五千枚、印度四萬九千枚、和蘭貳拾六萬參千枚、獨逸拾四萬八千枚、白耳義拾八萬五千枚ニシテ日本ハ遺憾ナカラ皆無ナリ

(ワ) 他ノ綿製品

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	一二、九八八	一七、六三〇
英領印度	二、三五八	三、七九〇
獨逸	一、八一〇	二、五三四
日本	六六七	九三四
佛蘭西	一六二	五〇七
其ノ他	一、〇七五	一、〇三五
合計	一九、〇六〇	二六、四三〇

(カ) 絹布

仕出國	一九二五年	一九二六年
「ケニヤ」「ウガンダ」	八〇六	二、〇八八
伊太利	—	一九六
日本	一三二	一〇二
其ノ他	六二三	三二八
合計	一、五六一	二、七一四

本品ノ「ケニヤ」「ウガンダ」ヨリノ輸入ハ再輸出ナリ此ノ內ニハ日本品少カラサルヘシ

其ノ他ノ絹製品

仕出國	一九二五年	一九二六年
日本	一、四三八	一、六九四
英領印度	六二八	五五六
英國	六三二	九八九
其ノ他	五、九七六	四、五八〇
合計	八、六七四	七、八二一

印度ヨリノ輸入中ニハ日本品ヲ含ムモノト察セラル

(ヨ) 「ジュート」袋

仕出國	一九二五年	一九二六年
英領印度	六二、四五九	五六、〇八四

其ノ他			九九八
合計	二、五九〇		五七、〇八二
(タ)衣類			
仕出國		一九二六年	
英國	一二、二八四	一三、二〇五	
佛蘭西	八四九	一、三五二	
獨逸	六七九	一、六六五	
日本	四一四	五一〇	
其ノ他	一、九九〇	二、七八八	
合計	一六、二一六	一九、五二〇	
(レ)莫大小肌着			
仕出國		一九二六年	
英國	一、三七一	一、一三七	
英領印度	二、一八八	一、〇九〇	
獨逸	二、三六七	一、一五二	
日本	一一、一八三	一七、八八五	
其ノ他	二四二	一二四	
合計	一七、三五一	二一、三八八	

高原地ハ暑氣酷烈ナラス、殊ニ夜間ハ寒冷ナレハ土人莫大小ノ肌觸リ好キヲ愛シ何地ニ於テモ賣行良シ、本表中ノ英國ヨリノ輸入品中ニハ日本品尠カラス

(ソ)莫大小靴下			
仕出國		一九二五年	一九二六年
英國	一、三六九	一、一六六	
日本	六四〇	七〇四	
其ノ他	八二五	一、〇二二	
合計	二、八三四	二、八九二	
(ツ)文房具			
仕出國		一九二五年	一九二六年
英國	一三、四〇六	一四、三〇四	
獨逸	三、四七九	四、三五六	
阿南	七九〇	一、二七八	
日本	八七	一五六	
其ノ他	一、五四七	一、五二七	
合計	一九、三〇九	二一、六二一	

(ネ) 自轉車

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	一二、一四二	一一、八〇二
獨逸	三、一九七	一、七一九
其ノ他	七一二	三一二
合計	一六、〇五一	一三、八三三

土人ハ非常ニ自轉車ヲ好愛ス本邦商人ノ賣込ヲ望ム

(ナ) 「ビーヅ」

仕出國	一九二五年	一九二六年
佛蘭西	一、一三六	一、〇八五
獨逸	八、〇六三	四、九三四
伊太利	五、一一六	四、八七四
日本	二二二	三八四
其ノ他	四、一四八	二、三九七
合計	一八、六八五	一三、六七四

本品ハ土人ノ女ノ裝飾ニ使用セラルルモノニシテ前途有望ナリ

(ラ) 寶石及其模造品

(ム) 洋燈

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	三四八	七七九
獨逸	一、〇三九	五一九
日本	二七三	五七七
其ノ他	八一一	八五九
合計	二、四七一	二、七三四

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	一、四一五	一、一八八
米國	二、二六六	二、六一七
獨逸	四、八三六	六、九〇〇
日本	二	三
其ノ他	一、七九六	七一一
合計	一〇、三一五	一一、四一九

土人ハ日沒後洋燈ヲ携ヘサレハ外出ヲ許サレス、是レ本品ノ賣行ノ盛ナル所以ナリトス、本邦ヨリノ輸入ハ見本商賣ト認メラルル處、本品ノ輸入ハ東阿全體ニ於テ可ナリノ金額ニ達スルニ依リ必ス成功ヲ祈ル

(ウ) 燐寸

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	一、五八七	二七
獨逸	六九五	二、五五三
日本	八二三	七六六
其ノ他	六、三四一	七、四〇四
合計	九、四四六	一〇、七五〇

(エ) 傘

仕出國	一九二五年	一九二六年
英國	三三九	四三三
英領印度	一、六三〇	二、七四七
佛蘭西	一一九	四三三
獨逸	一四九	四二五
和蘭	二七七	三四〇
日本	八一	一七
其ノ他	四〇四	—
合計	二、九九九	四、三九五

(二) 輸出

一九二五年及一九二六年ニ於ケル輸出高ハ左ノ如シ（單位磅）

年別及種類	國產品普通商品	輸出地金銀	再輸出品 普通商品	再輸出品 地金銀	通過貨物	合計
一九二五年	二八五、一〇九	四二、五〇六	一〇六、五六四	一五五、一一七	八六〇、九九九	四、〇二三、九九五
一九二六年	二、九四、六八八	三一、二九〇	一〇三、三一四	一三二、二八三	八八七、九一五	四、一四九、四九〇
一九二七年自一月至六月	一、二七〇、九三四	—	八二、三〇三	—	—	一、三五三、二三七

右ノ內通過貨物ハ主トシテ白耳義領「コンゴー」ヨリノ輸出ニ係リ「キゴマ」中央鐵道ニ依リ「ダレサラム」ニ送ラレ同港ヨリ輸出セラルルモノニシテ銅、皮革、象牙、豆類ヲ重ナルモノトス

右ノ內國產輸出品ヲ種類別ニシテ示セハ左ノ如シ（單位磅）

米國	一二二、七一二	九八、九三五
佛蘭西	一五八、四四五	一四八、六〇二
獨逸	二五四、〇二四	二三二、四四〇
白耳義	二五二、四一三	四三九、七七七
和蘭	三七、一二五	一二三、六一七
伊太利	三八、七九四	二九、五四八
日本	—	九、五四八

白屬領地	一九、一三一	一六、九〇六
其ノ他	七、六一一	一〇、一五〇
合計	九〇一、三一五	一、一〇九、五二三

卽英屬領地主位ヲ占ムルモ、其ノ約三分ノ二ハ「ケニヤ」及「ウガンダ」ニ赴キ、其ノ他ハ「ザンジバル」、英領印度、南阿聯邦等ニ赴クモノトス、但シ其ノ內ニハ「ヴィクトリア」湖ヨリノ生産品カ交通ノ關係上一旦「ケニヤ」及「ウガンダ」ニ入リ「モムバザ」ヲ經テ英國其ノ他ノ外國ニ再輸出セラルルモノ尠カラス

重要輸出品ノ輸出狀況ハ左ノ如シ

(イ)「サイザル」麻

本品ノ一九二五年及一九二六年ニ於ケル仕向國別輸出額ハ左ノ如シ

仕向國ノ年別	一九二五年 數量(噸)	一九二五年 金額(磅)	一九二六年 數量(噸)	一九二六年 金額(磅)	一九二七年自一月至六月 數量(噸)
英本國	五、二三八	一九三、二〇七	五、一六四	一七二、三〇〇	二、三六八
白耳義	五、七九八	二二四、一三〇	一〇、七〇七	四〇〇、七九一	六、二七三
獨逸	三、六〇二	一三四、四四二	三、五六二	一二六、三七一	四、二九二
和蘭	五八	一、八八七	二、三七五	九〇、九一九	—

米國	一、九九〇	七七、七八四	一、三五九	五三、〇六〇	—
其ノ他	一、五九〇	五六、九〇一	一、八五五	六七、八五二	—
合計	一八、二七六	六八八、二七一	二五、〇二二	九二一、二九三	一四、八五一

本品ハ農業ノ部ニ於テ說明シタル通リ主トシテ東北部ノ「タンガ」、「ウサンバラ」、「リンヂ」、「モロゴロ」、「パンガニ」等ノ海岸地方ニ於テ產スルモノニシテ、過半ハ「タンガ」港ヨリ輸出セラレ、「ダレサラム」之ニ次ク一九二五年及一九二六年迄ノ輸出額ヲ輸出港ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

輸出港及年別	一九二五年 數量(噸)	一九二五年 價格(磅)	一九二六年 數量(噸)	一九二六年 價格(磅)
「タンガ」	一一、五七六	四五三、六九三	一六、〇一五	五八九、七九四
「ダレサラム」	三、六六二	一三五、一三〇	五、八二二	二一四、六四七
「リンヂ」	一、九三〇	六二、九二六	一、一六九	三八、五〇六
「パンガニ」	五八九	二〇、五六九	二九一六	九、五九七
其ノ他	五一九	一六、一三三	一、一〇〇	三八、七四九
合計	一八、二七六	六八八、四五一	二五、〇二二	九一一、二九三

(ロ)棉花

仕向國及年別	一九二五年 數量(「センタール」)	一九二五年 價格(磅)	一九二六年 數量(「センタール」)	一九二六年 價格(磅)
英本國	六〇、六二三	三二九、九六六	三四、四一九	一二九、四六九

「ケニヤ」及「ウガンダ」				三一、七九九	一九八、六九九
英領印度				七、五五〇	
日本				—	
其ノ他				八七六	八二、八八九
合計				一〇〇、八四八	九、四六三
				四六、一二七	六、九一七
				一〇九、四五〇	四二七、四三七

即チ輸出額ノ過半ハ英本國ニ赴クモノニシテ「ケニヤ」及「ウガンダ」ニ入ルモノハ交通ノ關係上一旦「ケニヤ」及「ウガンダ」ニ入リ更ニ「モンバサ」ヨリ再輸出セラルルモノトス、今之ヲ輸出港別ニシテ表示スレハ左ノ如シ

輸出港及年別	一九二五年		一九二六年	
	數量(「センタール」)	價格(磅)	數量(「センタール」)	價格(磅)
「ダレサラム」	五六、三六一	三〇九、七四〇	五二、五八四	一八三、三四七
「ムワンザ」	二九、七五四	一四九、八四九	四二、九七六	一八三、〇〇九
「リンディ」	六、六八一	三六、四四三	六、三九二	二二、九一七
「タンガ」	六、一五一	三五、三五五	四、一九四	二二、九五四
其ノ他	一、九〇一	九、〇九四	三、三〇四	一六、二一〇
合計	一〇〇、八四八	五四〇、四八一	一〇九、四五〇	四二七、四三七

右ノ內「ムワンザ」ヨリノ輸出セラルルモノハ「ヴィクトリア」湖畔ニ於テ又「ダレサラム」ヨリ輸出セラルルモノハ主トシテ「ムワンザ」方面ニ於テ生産セラルルモノトス

(ハ)落花生

仕向國/年別	一九二五年		一九二六年	
	數量(噸)	價格(磅)	數量(噸)	價格(磅)
「ケニヤ」、「ウガンダ」	四、六二〇	八四、七一六	一〇、二四三	一五〇、七八八
佛蘭西	二、〇九〇	四三、九四七	二、〇九九	三七、七一六
獨逸	一、二二三	二六、四四二	一、〇九九	二〇、六八九
其ノ他	一、一二三	二三、五八〇	二、四二六	四五、七一〇
合計	九、〇五六	一七八、六八五	一五、八六七	二五四、九〇三

右ノ輸出額ハ主トシテ「ヴィクトリア」湖畔地方ニ於テ生産スルモノニシテ之ヲ主要港ニ依ツテ區別スレハ左ノ如シ

輸出港/年別	一九二五年		一九二六年	
	數量(噸)	價格(磅)	數量(噸)	價格(磅)
「ムワンザ」	四、〇九二	七五、二四五	八、五二九	一二六、九三七
「ダレサラム」	三、五六〇	七六、八二九	五、三二一	九八、七一五
「ムソマ」	四六六	八、二九三	一、五九一	二一、八〇五
「リンディ」	七七〇	一五、〇八六	二七九	四、八九六

其ノ他		一六七									
合計		九、〇五五									
(ニ)珈琲											
仕向國／年別	一九二五年			一九二六年			一九二七年自一月至六月				
	數量	價格(磅)		數量	價格(磅)		數量				
英本國	一〇、三三一	四四、七四二		五、七一八	二七、五八二		三、九四一				
「ケニヤ」及「ウガンダ」	一〇九、四一三	四三四、三三一		一二二、八一七	四五六、八四六		—				
獨逸	一九三	八八二		一、四二五	七、一二三		—				
其ノ他	二五四	一、一一七		八三三	三、六四八		三六、〇三二				
合計	一二〇、一九一	四八一、〇七二		一三〇、七九三	四九五、一九九		四九五、一九九				
更ニ之ヲ輸出港ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ											
輸出港／年別	一九二五年			一九二六年							
	數量(噸)	價格(磅)		數量(噸)	價格(磅)						
「ダレサラム」	二〇	三〇		五二	三〇一						
「アデュバ」	八三、〇二三	一二〇		九二、九九四	三二四、〇九四						
「タンガ」	一〇、七九九	三二〇、七四六		七、九三一	三八、〇四七						
「モンバサ」	二六、三四二	四六、七八二		二九、七八五	一三二、六九六						
其ノ他	七	一一三、四〇五		一九	六一						
合計	一二〇、一九一	四八一、〇七二		一三〇、七九三	四九五、一九九						
蓋シ本品ノ產地ハ東北部ニ在ルモノニシテ交通ノ關係上「タンガ」ニ出スモノノ外ハ殆ト總テ「ケニヤ」ニ入リ「モンバサ」ヨリ輸出セラルルモノトス											

(ホ)皮革

仕向國／年別	一九二五年		一九二六年		一九二七年自一月至六月
	數量(噸)	價格(磅)	數量(噸)	價格(磅)	數量(噸)
英本國	九、九五二	四四、五二四	六、六五三	二四、〇五三	—
「ケニヤ」「ウガンダ」	二六、一五三	一〇六、六六九	一九、八八〇	七二、〇八二	—
佛蘭西	四、九六五	二三、三二五	四、三六五	一八、八九六	—
白耳義	一、八二八	九、二六二	五三四	二、三二四	—
伊大利	三、三九六	一五、八四三	一、五〇八	五、七五二	—
其ノ他	一、三三五	六、〇五三	三、二九五	一四、三六二	—
合計	四七、七二九	二〇五、六七六	三六、二三五	一三七、三六九	—

一九二六年ニ於テ輸出ノ減シタルハ價格下落ノ爲メ土人ノ市場ニ賣出スモノノ減退シタルニ依ル更ニ輸出港ニ依リテ之ヲ區別スレハ左ノ如シ

輸出港／年別	一九二五年		一九二六年	
	數量	價格(磅)	數量	價格(磅)
「ダレサラム」	二二、〇一二	一〇八、一〇八	一六、九五一	七二、〇三八

「ムワヲザ」	一六、四七八	四六、〇五六		
「モシ」	六、四七八	二〇、五四三		
「タンガ」	四、〇一七	一二、〇五一		
其ノ他	四、二四〇	一三、七八三		
合計	五三、二二五	一六四、四七一		

(ヘ) コプラ

仕向國/年別	一九二五年		一九二六年	
	數量(噸)	價格(磅)	數量(噸)	價格(磅)
「ザンヴバル」	四、七三三	九五、六九六	四、四八一	八七、七七三
佛領西「ケニヤ」、「ウガンダ」	二、七二三	六一、五二六	二、三九一	五三、五九九
其ノ他	一六七	三、五七七	三五七	八、三一〇
合計	七、六二三	一六〇、八〇〇	七、三四八	一五二、二二八

本品ノ輸出ノ減少ハ石鹸製造原料トシテ國内ニ於テ使用セラルル物ノ增加シタルニ依ル、但シ輸出港ハ「タンガ」ヲ第一、「マフヒア」ヲ第二、「ダレサラム」ヲ第三、「バカモヨ」ヲ第四トス

右ノ外一九二六年ニ於ケル重ナル商品ノ輸出ハ左ノ如シ

品名	數量	價格(磅)
綿花	五三噸	二六、五九二
「マホガニー」	七七、四五六本	五、二四六
「胡麻」	三、五六三噸	六八、五八五
「密蠟」	六、一四七 cwt	四八、一七九
羊、山羊毛皮	五、六七二 cwt	二六、九六六
象牙	七五七 cwt	六六、一七〇
犀角	一三 cwt	一、二四九
「マングローブ」柱木	七七、四五六	五、二四六
樫皮樹皮	一二四、一一八 cwt	二四、三六一
生薑	一、二三五 cwt	七、六〇七
藍「センタール」	六五、二九五 cwt	五七、五六四
米	五八、一二六 cwt	二四、〇九四

(三) 日本トノ貿易

(イ) 輸入貿易

貿易統計表ニ示サレタル輸入日本商品ヲ一九二五、一九二六兩年度ニ亙リ比較對照スレハ左ノ如シ(單位磅)

品名	一九二五年	一九二六年
鍛類	一	一
食料品	四	一一
陶磁器	三七九	八四七
「ホーロー」引用者注：日本イ入貨	三	二二
硝子器	八四	四八
硝子器	七八	一一五
硝子壜	二三	四四
硝子板	一	三八
其ノ他硝子器	六四	一二七
銀製容器	五四	一八
「エナメル」容器	七〇六	一、五二五
釘	五五	五九
其ノ他鐵製品	一	七
「アルミニウム」容器	六	一一八
真鍮製品	一	一二五
真鍮計金	二	一五
銅製品	一	一

品名	一九二五年	一九二六年
鍛製小千品	一一一	二一一
其ノ他金屬製品	二二	四
大工道具	一一	三
時計	一	一
双眼物	五〇	六〇
醫療器械	一〇	一
一般金屬器具	二六	九七
小刀	一六	九
剃刀	一	六
電氣器具	五	二
衝器	一	三
家具	七四	二九
其ノ他木製品	一三	二七
粗布	一七六、七一七	一八七、五九〇
西木綿	二一八	四六〇
更紗木綿	二四	一五八
染木綿	二、一二一	一、四三八
色木綿	七、〇一二	九、六一六

絨「プランケット」　二五五
其ノ他絨製品　六六七
絹絲　一六
毛糸「カーペット」　一
毛織物　一九
其ノ他毛織製品　三
絹織物　一三一
絹糸　一
其ノ他絹製品　一、四三八
「ガンバス」地　一
「マツプ」及「マツテイングル」　七
麻織物　一
其ノ他織物　四一四
着衣類　六
靴　一八三
小間物類　二一
帽子　六四〇
其大小下着　一一、一八三

三六二

其大小靴下　七〇四
其ノ他其大小製品　三五
化學製品　一
藥品　三二
石鹸　一〇
硝子　一
其ノ他卒製品　六五
紙　二六
「カード」　二
文房具　一五六
其ノ他紙製品　八七
自動車部分品　一
「ゴム」製品　五
鞄　一
珠数　六二
玉　三八四
靴墨　二二
書籍　一九
印刷　一六
子　二〇

三六三

「プユーズ」	一	一八	
貴石類及鑛金製品	二七三	五七七	
「ランプ」	一九四	一九〇	
「マッチ」	八二三	七六六	
樂器	二	一	
化粧料	二	一一	
「ロケット」	八	一九	
玩具	一二八	六一	
「カサ」	六一	一七	
其ノ他雜貨	五六七	一、四〇六	
合計	二〇五、二五三	二二九、〇二九	

右表ニ依テ之ヲ觀ルニ前年ニ氏シ輸入減退セルハ硝子壜、家具類、染木綿、「ブランケット」、絹織物、石鹼、「ランプ」、「マッチ」、玩具類、合計二十四種ナルニ對シ輸入增加セルモノハ陶磁器、「エナメル」器、粗布、晒木綿、更紗木綿、色木綿、絹製品、「マッツ」及「マッティング」、莫大小類等四十五種ニ登リ結局輸入合計額ニ於テ二三、七七六磅ヲ示シ同年度「ケニヤ」及「ウガンダ」ニ於ケル邦品輸入ノ反動的減少ニ對シ意ヲ强ウスルヲ思ハシム

當領輸入品仕出國中前年度ニハ本邦六、四%ニテ 英本國、印度、獨逸及和蘭ニ次キ第五位ナリシカ當年度ニハ七、二%ニ進ミ英本國、印度、獨逸、和蘭ニ次テ依然第五位ヲ占ム

(ロ) 輸出貿易

前年度ニハ貿易統計面本邦向輸出トシテ揭ケラレタルモノ皆無ナリシカ當年度ニハ初メテ左記二品ノ揭出ヲ見ルニ至レリ之レ卽チ大阪商船阿弗利加航路開通ノ結果本邦向直積輸出ノ便ヲ生シタルニ依ルナルヘシ

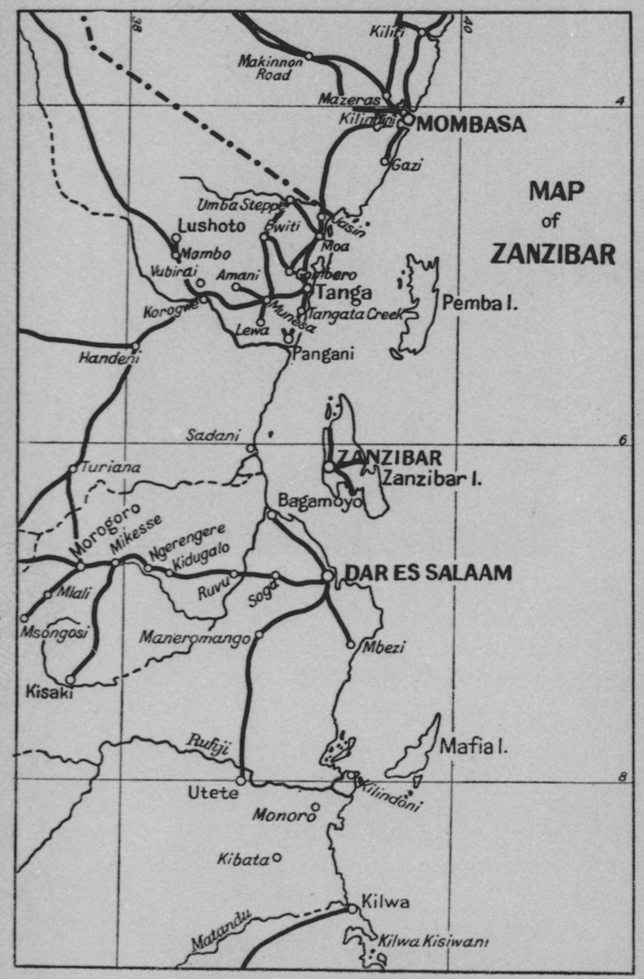
棉花	四、四八六「センタール」	九、四六三磅
棉實	二一噸	八五磅

(四) 「ダレサラム」白領「コンゴー」對日本貿易

最後ニ一言注意ヲ要スル事ハ「ダレサラム」カ「コンゴー」奥地ヘノ通路ニ當リ日本對「コンゴー」貿易カ主トシテ此ノ通路ニ依ラサルヘカラサル事ナリトス、蓋シ東海岸ヨリ白領「コンゴー」ヘノ通路ハ三線アリ、第一ハ葡領東阿ノ「ベイラ」ヨリ「ローデシア」鐵道ニ依リ「エリザベスヴィル」ニ至ルモノ、第二ハ「ケニヤ」ノ「モムバサ」ヨリ「ウガンダ」鐵道ニ依リテ「ウガンダ」ニ入リ夫ヨリ其ノ接壤地タル「コンゴー」ノ東北部及「キロ」金鑛地方ニ至ルモノ、第三ハ「ダレサラム」ヨリ東阿中央鐵道ニ依リ「タンガニカ」湖ノ東岸「キゴマ」ニ至リ、夫ヨリ湖

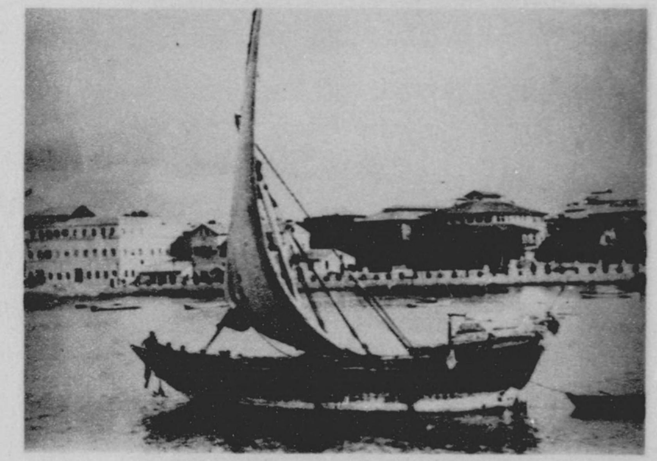
上汽船ニ依リ白領「コンゴー」ノ「アルバートヴィル」ニ達スルモノニシテ本邦品ニ取リ最モ重要ナルモノハ第二ノ「ダレサラム」ヨリノ通路ナリトス是レ日本對「コンゴー」貿易ノ爲メニ日本對「ダレサラム」貿易ノ重要ナル所以ニシテ日本カ「コンゴー」ニ對シテ我商路ヲ進展セントセハ是非共「ダレサラム」ニ堅實ナル基礎ヲ定メ同地ヲ根據トシ更ニ進ンテ「タンガニカ」湖畔ノ「キゴマ」又ハ對岸ノ「アルバートヴィル」ヲ中繼地トシ以テ阿弗利加奥地ノ中心ヲ支配スルノ策ニ出テサルヘカラス因ニ「キゴマ」ニ於テモ「アルバートヴィル」ニ於テモ商業ハ總テ印度人ニ依リテ行ハレ商業語トシテハ英語ヲ用ユ

「ザンジバル」保護領事情


38
40
4
6
8
Kilifi
Makinnon Road
Mazeras
Kilindini
MOMBASA
Gazi
MAP
of
ZANZIBAR
Umba Steppe
Kwale
Kwiti
Lushoto
Mambo
Vuhiri
Amani
Moa
Tanga
Pemba I.
Korogwe
Mkumbara
Tangata Creek
Lewa
Pangani
Handeni
Sadani
Turiana
ZANZIBAR
Zanzibar I.
Bagamoyo
Morogoro
Mikesse
Ngerengere
Kidugalo
DAR ES SALAAM
Mlali
Ruvu
Soga
Msongosi
Maneromango
Mbezi
Kisaki
Rufiji
Mafia I.
Utete
Kilindoni
Monoro
Kibata
Kilwa
Matandu
Kilwa Kisiwani

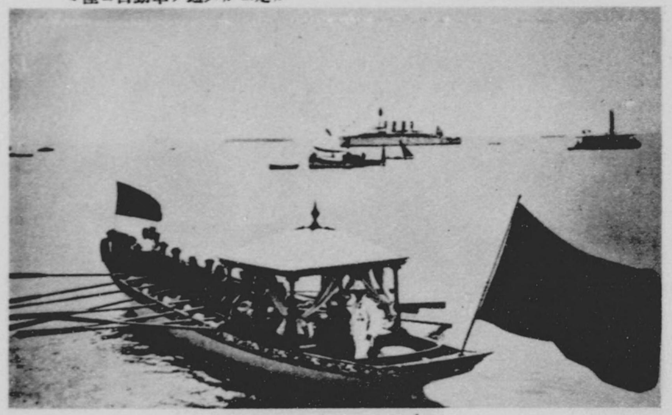
ザンジバル」王「**セイイド、カリフア、ビン、ハラブ**」殿下

名ハ王國ト云ヒ又國王ト稱スルモ政權一度去ッテ遂ニ歸ラズ
英國ノ監視ノ下ニ生ヲ貪ルノミ



「**ザンジバル**」港ト諸官衙
中央ニ稅關及其倉庫、右端ニ總督府、左端ニ各部ノ廳舍、港内ニハ
「**ドー**」ト稱スル「**アラビヤ**」船ノ雄姿ヲ見ル

「ザンジバル」ノ市街



「ザンジバル」ノ市街
家ハ孰モ古代ノ「アラビヤ」式煉瓦屋、道路狭隘且ツ不規則其ニ要路ノミ僅ニ自動車ヲ通ズルニ足ル

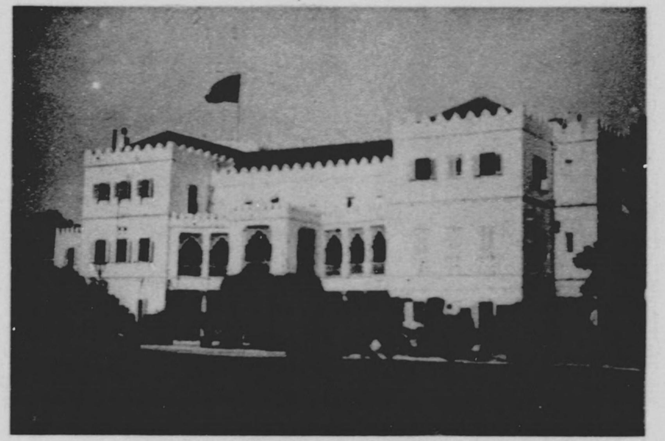
「ザンジバル」王ノ御用艇
赤色ノ國旗ヲ翻ヘシ左右ニ八挺ノ櫂中央ニ天蓋ヲ備ヘ威風堂々然カモ其間詩雅趣亦ナキニアラズ

街　　人　　土

椰子ノ蔭ニ立チ並ブ土人ノ人小ノ屋背景ト併セテ一種ノ趣ヲ呈ス

有名ナル丁字園

丁字園ハ「ザンジバル」及「ペムバ」兩島ヲ覆ヒ香氣馥郁トシテ眞ニ樂園ノ趣ヲ爲ス



「ザンジバル」ノ英國總督府
宏壯雄大以テ土人ヲ畏服スルニ足ル　館ノ後ハ海ニ濱シ眺望絶佳廣大ナル地積ヲ占メ堂々タル觀ヲ呈ス

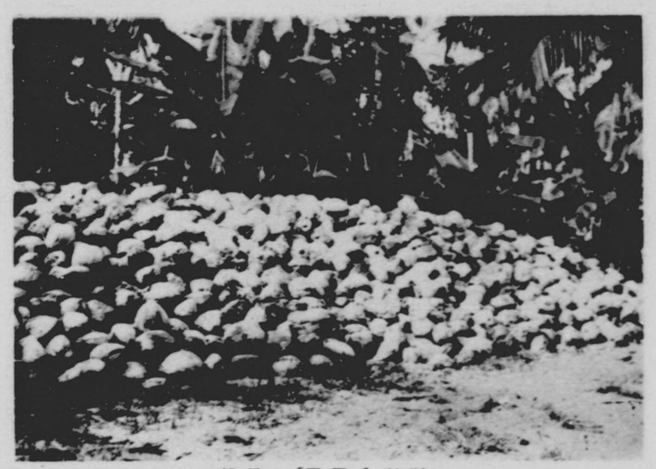
國王ノ離宮
海岸ヨリ之ヲ望メバ欝叢タル椰子ノ蔭ヨリ白堊ノ壁赤色ノ國旗ヲ穩見シ風光ノ美畫モ亦及バス

「ザンジバル」港ト王宮

前面ニ王宮ト赤色ノ國旗ヲ見遠ク隔テヽ椰子ノ森ヲ見ル　港内廣ク水深ク大船巨舶ノ碇泊ニ便ナリ

葡萄牙時代ノ遺蹟

葡萄牙人去ツテ今ヤ雙影ヲ止メズ　僅ニ殘壘ト口碑トニ依リテ往古ノ盛時ヲ偲ブニ過ギズ



椰子ト「**ココナツツ**」

椰子栽培ハ丁字ト共ニ當國ノ主產業　圖ハココナツツ收獲ノ光景、耕作者ハ土人及「**アラビヤ**」人

「**アラビヤ**」式ノ「**ザンジバル**」市街

家屋ハ壯大ナルモ道路狹ク主要道ト雖モ僅ニ一臺ノ自動車ヲ通ズルニ過ギズ、圖ハ即チ其道路ニテ土產物店多シ

「ザンジバル」保護領事情

第一、位置及面積

「ザンジバル」保護領ハ「ザンジバル」及「ペムバ」兩島並ニ附近ノ小島嶼ヲ併モ稱スルモノニシテ、右ノ內「ザンジバル」島ハ南緯六度ニ位シ、「タンガニカ」ノ海岸ヲ去ル事二二哩半ノ海上ニ在リテ其ノ長サ五四哩、幅二四哩、面積六八〇平方哩ヲ有シ、「ペムバ」島ハ南緯五度ニ位シ、「ザンジバル」島ノ東北二五哩ノ處ニ在リテ其ノ長サ四二哩、幅五哩、面積三四〇平方哩ニ及ヒ、兩島ノ合計一〇二〇平方哩ニ達スルモ、他ノ諸島ニ至リテハ孰モ算フルニ足ラサル小島ノミニシテ其ノ面積ハ合計一平方哩ニ滿タス

尙右ノ外「ケニヤ」ノ海岸ニ於テ「ヴアンガ」ヨリ「キピニ」ニ至ル迄幅十哩ノ土地ハ「ザンジバル」ノ領土ニ屬スルモ、一八九五年英國ノ租借スル所ト成リ事實上英國ノ支配ニ屬セリ

第二、地勢

「ザンジバル」及「ペムバ」兩島ハ孰モ平旦ナル珊瑚島ニシテ至ル處ニ丁字及椰子樹繁茂シ恰モ

翠藍ノ滴ルカ如ク海岸ノ白砂ト相映シ書モ亦及バザルノ觀ヲ呈ス

第三、氣　候

(一)　一般狀況

本領ハ阿弗利加大陸ニ接近スルモ大陸ノ方面ヨリ風ヲ受ケサルニ依リ、其ノ氣候ハ全然海洋的ニシテ氣溫ノ變化極メテ尠ク、過去十四ケ年間ニ於ケル一ケ年ノ平均溫度ハ「ザンジバル」島ニ於テハ最高平均八四・八度、最低平均七六・五度、「ペムバ」島ニ於テハ最高平均八三・六度、最低平均七三・二度ニシテ、一九二六年ニ於ケル平均溫度ハ「ザンジバル」島ニ於テハ最高平均八五・八度最低平均七七・五度、「ペムバ」島ニ於テハ最高平均八六・八度最低平均七七・九度ナリトス、從ッテ氣候ハ熱帶的ナルモ比較的ニ凌キ易ク、健康地ト目セラル、但シ此ノ地方ニ於ケル夏季ハ十二月ヨリ三月ノ交ニシテ、此ノ間東北「モンスーン」アリ、又冬季ハ六月ヨリ九月ノ交ニシテ、此ノ間西南ノ「モンスーン」アリ

雨量ハ過去十五ケ年間ノ平均ニ依レハ、「ザンジバル」島ニ於テハ七四・六〇吋ニシテ、一九二六年ニ於テハ「ザンジバル」島四二・六三吋、「ペムバ」島五八・六

四吋ナリトス

降雨ノ最モ多キ時季ハ西南「モンスーン」ノ來ル前ノ四月及五月ニシテ是ヲ長雨ト稱シ、十一月及十二月ニ小雨アリ之ヲ短雨ト云フ、但シ七月ニモ多少ノ降雨ヲ見農業ノ爲メ其ノ便尠カラス

(二)　氣溫及雨量表

「ザンジバル」島ノ氣溫及雨量表

月	最低平均	最高平均	雨量	雨天ノ日
一月	八〇・六	八八・一	〇・三〇	二
二月	八一・三	八八・六	〇・〇八	一
三月	八一・一	八八・九	七・〇七	一四
四月	七九・四	八七・〇	八・五二	一四
五月	七六・七	八四・六	六・五四	一一
六月	七六・〇	八三・八	〇・三八	三
七月	七四・四	八二・九	〇・五〇	二
八月	七三・六	八二・八	〇・九六	六
九月	七五・〇	八四・三	一・七九	八

十一月 七六・一 七八・〇 八〇・〇 七七・八

十二月 八四・六 八六・七 八七・八 五八・八

一ヶ年 七七・九 八六・八 五八・六四 一四九

「ペンバ」島ノ氣溫及雨量表

月	最低平均	最高平均	雨量	雨天ノ日
一月	八〇・一	八九・三	一・〇八	九
二月	八〇・〇	九〇・六	〇・五八	三
三月	八〇・三	九〇・九	七・三九	一六
四月	七九・六	八一・五	一九・〇四	二五
五月	七七・五	八五・九	一四・三四	一八
六月	七七・二	八五・二	二・五一	一一
七月	七五・四	八三・九	一・三〇	一六
八月	七四・〇	八四・〇	一・四九	一四
九月	七五・六	八五・八	二・〇三	一〇
十月	七六・九	八七・一	〇・四七	六
十一月	七八・一	八七・九	五・二三	一三
十二月	七九・七	八九・二	三・一八	八

第四、衞生

(一) 一般狀況

當領ハ氣候ノ點ヨリ云フ時ハ前ニ述ヘシ如ク熱帶地ナルニ拘ハラス最モ海洋的ニシテ、阿弗利加ノ底地ニ於テハ最モ凌キ易シト雖モ、衞生ノ設備充分ナラス、土人ノ死亡率ハ出生率ニ優リ、人口減少ノ傾アリ

(二) 政府ノ施設

一九二五年及一九二六年ニ於ケル政府ノ衞生費ハ左ノ如シ

	(一九二五年)	(一九二六年)
普通	三五、五二三磅	四三、六〇七
特別費	五六二	八八七
合計	三六、〇八五	四四、四九四

歐洲人係

衞生局ノ吏員ハ左ノ如シ

衛生局長、醫員八名、衛生員三、細菌技師一、看護六名、合計一九名

東洋人係

係長、醫員七名、助手六名、衛生官二五名、種痘醫一名、其ノ他一〇二名、合計一四二名

病院ノ數ハ左ノ如シ

歐洲人病院　一（寢臺數一四）

土人病院　一（寢臺數六五）

「ザンジバル」島　九

外ニ診療所

「ペムバ」島「ウエチ」　一（寢臺數二四）

同　「チャケ」、「チャケ」　一（寢臺數二七）

外ニ診療所　三

右ノ外ニ「ザンジバル」島ニ精神病院一アリ

(三) 重ナル疾病

當領ニ於ケル疾病ノ重ナルモノハ「マラリヤ」、「デング」熱、肺結核、寄生蟲病、黴毒、皮膚病下痢等ナリトス

(イ)「マラリヤ」

「マラリヤ」ハ本領ニ於テ最モ普通ナル疾病ニシテ、衛生當局者ハ本病ノ撲滅ニ意ヲ注ク由ナルモ未タ效果ノ見ルヘキナシ

(ロ)「デング」熱

蚊ニ依リテ媒介セラルル傳染病ニシテ四、五、六月頃流行ス、但シ多ク田園地方ニ於テ發見セラルルモノニシテ、「ザンジバル」市ニハ尠シト云フ

(ハ)肺結核

本病患者可ナリ多シ、蓋シ土人ノ家屋ハ孰モ窓ノ設備ナキ爲メ、光線ノ射入ヲ欠キ且ツ通風不良ナルノミナラス、生活狀態非常ニ不潔ナルニ依リ本病ノ蔓延容易ナルニ依ル

(ニ)寄生蟲病

十二指腸蟲病多シト云フ

(ホ)黴毒

東阿弗利加ニ於テ土人ノ間ニ黴毒ノ盛ナル事ハ恰モ一種ノ風土病ノ如ク「ザンジバル」モ亦其ノ例ニ漏レス、蓋シ土人ノ人口ノ增加セサルハ其ノ原因多々アルヘキモ本病ノ蔓延ハ其ノ最大ナルモノナリトス

(ヘ)皮膚病

皮膚病モ亦東阿弗利加ニ於テ最モ盛ナル疾病ノ一ニシテ黴毒ト共ニ土人ノ最モ苦ム所ナリ

(ト)下痢病其ノ他諸種ノ疾病アルモ略ス

第五、人口及人種

一九二六年ノ青書ニ依レハ當領ノ人口ハ左ノ如シ

地方別	有色人	歐洲人	合計	一平方哩ノ人口
「ザンジバル」島	一三二、三四九	一	二七〇	二七〇
「ペムバ」島	八九、〇六一	一	二三四	二三四

右ノ內有色人ハ大部分「スワヒリ」種族ノ土人、其ノ他ハ「アラビヤ」人、印度人、「ゴア」人等ニシテ其ノ數ハ土人一八六、三一〇、「アラビヤ」人二〇、〇〇〇、印度人一五、〇〇〇、「ゴア」人其ノ他一〇〇ナリトス

第六、主要都市

(一)「ザンジバル」

「ザンジバル」ハ當領ノ首府並ニ東阿ノ要港ニシテ同名ノ島ノ西側ニ於テ大陸ノ方ニ向ッテ突出セル「シャンガニ」岬ノ北面ニ位シ、「ダレサラム」ヨリ北ノ方四八哩、「モンバサ」ヨリ南ノ方一五五哩、更ニ又「ダーバン」ヨリ一八二六哩ノ北方ニ在リ、港內水深ク大船巨舶ノ碇泊自由ナルモ埠頭ノ設備ナク、陸海ノ交通ニ不便ナリ

當港ハ中世以來東阿ニ於ケル最モ重要ナル中繼地トシテ印度「アラビヤ」方面トノ交通並ニ商業ノ要路ニ當リ、海外ヨリノ寄港船常ニ多ク、沿岸帆船ノ來往ノ中心地ナリ、殊ニ奴隷寶貿ノ盛ナリシ昔ノ時代ニハ東海岸ニ於ケル同貿易ノ中心地トシテ盛榮ヲ極メタルモ、同貿易ノ廢止ト共ニ俄然凋落ニ傾キ、最近「モンバサ」、「ダレサラム」ノ發達スルニ從ヒ、漸次中繼地タルノ必要ヲ減シ、出入貨物漸減ノ傾向ヲ呈スルニ至レリ

市街ハ「アラビヤ」式ニシテ、街路狹隘家屋櫛比シ甚タ不規則不潔ノ感ヲ免レサルモ流石ニ王朝時代ノ舊都丈アリテ家屋就モ雄大以テ當年ノ盛時ヲ偲バシムルニ足ル、目下商業ヲ營ム者ハ主トシテ印度人ニシテ通過客ヲ相手トスル土產品軒ヲ並ヘ東阿ニ於ケル一名所トナレリ、象牙細工絹物等ノ如キ日本雜貨ノ賣行可成良シト云フ

當港ニハ福岡縣人齒科醫堤久氏在リ開業高評ヲ博シ繁盛セリ

(二)

右ノ外「ザンジバル」島ニ「ムコトン」、「チヤケ・チヤケ」、「ムコアニ」、「ペンバ」島ニ「チヤケ・チヤケ」、「ムコアニ」、「ウエテ」等ノ小港アルモ地方的貨客ノ集散地タルニ過キス

第七、政治

(一) 沿革

太古ノ時代ニ於テ「フェニシア」人、波斯人、羅馬人等カ其ノ盛時ニ於テ孰モ東阿一帶ノ地ニ勢力ヲ及ホシ、其ノ後「サラセン」ノ時代ニ至リテ此ノ地方ハ專ラ「アラビヤ」人ニ依リテ左右セラレタルカ、葡萄牙人ノ侵入ト共ニ東阿ノ天地ハ是等ノ勢力ノ爭闘ノ巷ト成リタル事ハ曩ニ述ヘタル通リナリ、然ルニ十八世紀ノ末ニ至リ東阿沿岸ノ「アラビヤ」人ハ「マスカット」王ノ力ヲ藉リテ葡萄牙人ヲ擊滅シ、爾來同地方ハ「マスカット」ノ支配ニ屬スルニ至リタルカ、一八五六年同王「セイイド・サイド」カ居ヲ「ザンジバル」ニ移スニ及ヒ「ザンジバル」ハ東阿弗利加及「アラビヤ」兩地ノ國都ト成リ、「アラビヤ」人カ「ザンジバル」ニ於テ笛吹ケハ湖畔地方ニ於テ黑奴カ踊ルト云フ諺ヲ生スルニ至レリ、以テ「ザンジバル」及「ペムバ」ノ兩島及其ノ對岸ノ大陸ニ於テ「ロヲ占メタルヤヲ知ルニ足ルヘシ

然ルニ其ノ後時移リ物變ツテ東阿ハ歐洲強國ノ爭奪ノ場所ト成リ、一八八六年英佛獨三國協約ノ結果「ザンジバル」王ノ領土ハ「ザンジバル」王ニ對シ英國ヨリ年金一萬一千磅及別ニ右ノ租借料トシテ二十磅ノ年利六千磅ヲ交付スル事トセリ、斯クノ如クニシテ英國ハ「ザンジバル」ヲ以テ自國外務省ノ所管ニ屬セシメ駐在官ヲ派出シ之ヲ同政府ノ主席大臣トナシ以テ同領ノ政治ニ關與セシムル事ト爲シタルモ、一九〇六年右ノ組織ヲ改メテ一層英國ノ直接ノ支配ト爲シ、一九一三年ニ至リ之ヲ英國殖民省ノ所管ト爲セリ

(二) 現在ノ制度

當領ニハ「サルタン」ト稱スル「ザンジバル」王アリ名義上當領ノ主權者ナリト雖モ、實權ハ英國大守 Resident ニ依リテ握ラルルモノニシテ、「サルタン」ハ只名義上或程度迄從來ノ榮譽ヲ認メラルルニ過キス

當領ニハ從來議會ノ制度ナカリシモ、一九二六年改革ノ結果議會及行政會議ヲ設ケ孰モ左ノ通リ組織セリ

(イ) 議　會

議會ハ英國大守、總務長官、財務長官、司法長官及大守ノ指名セル官吏五名、(現在ハ「ザンジバル」島知事、「ペムバ」島知事、醫務長官、敎務長官、農務長官トス)及非官吏議員六名ニ依リテ組織セラレ大守ヲ議長トス

法律ハ議會ノ通過ト及「サルタン」ノ署名トヲ必要トスルモ、大守ノ副書アルニアラサレハ其ノ效力ヲ生セス

(ロ) 行政會議

行政會議ハ「サルタン」、英國大守、總務長官、財務長官、司法長官ヲ以テ組織セラレ、「サルタン」ヲ議長トス

第八、財　政

一九二六年ニ於ケル政府ノ歳入及歳出決算ハ左ノ如シ

歳入

關稅	一九九、〇五三磅
諸稅免許及手數料	一〇三、六一九
農業	四八、七五八
其ノ他	九一、五一二
合計	四四二、九四二
土地拂下代	六、〇九五
總計	四四九、〇三七

歳出

「サルタン」經費	八、二四二
總督及總務部費	一二、一五七
警務及監獄費	三一、八五七
衛生費	四四、四九四
敎育費	一五、八三四
土木費	二五一、九〇八
農務費	六五、〇八六
其ノ他	二二〇、二九八
合計	六四九、八七六

第九、司　法

司法ハ土人ノ裁判ト非土人ノ裁判トニ分カタレ土人ノ裁判ハ「キルタン」ノ裁判所及其ノ下級裁判所ニ於テ管轄シ、非土人ノ裁判ハ英國政府ノ高等裁判所及其ノ下級裁判所ニ依リテ管轄セラル、但シ高等裁判所ハ右ノ下級裁判所並ニ「サルタン」ノ裁判所ノ判決ニ對シ控訴管轄權ヲ有ス

第一〇、教　育

教育ハ他ノ東阿ニ於ケル如ク政府及教會ニ依リテ行ハレ、可ナリ克ク整頓セリ、卽チ政府ノ學校ニハ小學校ノ外ニ師範學校、商業學校、手工學校アリ、又教會ノ學校ニモ小學校ノ外ニ職業學校アリ政府ハ是等ノ或モノニ對シテ補助金ヲ支給セリ、又印度人間ニハ其ノ子弟ノ教育ノ爲メ印度人學校ヲ特設シ居リ其ノ數約十校アリ

一九二六年ノ青書ニ依レハ當領内ニ於ケル學校ノ數ハ左ノ如シ

		學生合計
官立學校		八九七
私立學校	小學校	三
	其他ノ學校	三
	學生合計	八三
	學生合計	二、四二七

第一一、産　業

當領ノ產業ハ殆ト丁字及「ココナッツ」ノ栽培ニ限ラルルモノニシテ、鑛業ニ關シテハ全然資源ヲ有セス、工業ニ就テハ石鹸製氷等ノ地方的小工場約三〇個ヲ存スルモ何等對外的價値ヲ有スルモノニアラス

(一)　丁　字

「ザンジバル」ハ世界ニ於ケル丁字ノ主產地ニシテ世界產額ノ約九割三分ヲ供給シ、其ノ他ハ「ペナン」、アムボイナ」、及或他ノ東印度諸島並ニ「マダガスカル」ヨリ產出ス、蓋シ「ザンジバル」ノ丁字ハ十八世紀ノ末葉ニ當リ「アラビヤ」人「ガレユニオン」島ヨリ移植シタリト云ヒ、又十九世紀ノ始ニ「モリシアス」島ヨリ輸入シタリトモ稱セラレ、其ノ何レカ正シキヤハ之ヲ知ルニ由ナキモ、「ザンジバル」王「セイイド・サイド」一八三二年ニ「マスカット」ヨリ都ヲ此ノ地

ニ移シタル時以來同王ノ非常ナル奬勵ニ依リ同地方ノ一大產業ト成ルニ至リタルモノニシテ、目下栽培面積四萬英加、樹數四百萬本其ノ內「ザンジバル」島ノ分四分ノ三ヲ占ムト稱セラル、而シテ其ノ輸出高ハ一定セサルモ多キ時ハ一四、〇〇〇噸少キ時ハ三、〇〇〇噸其ノ平均八、〇〇〇噸位ナリト云フ、但シ丁字ハ開花ノ直前其ノ蕾カ正ニ綠ヨリ桃色ニ轉セントスル頃摘ミ取リテ乾カシタルモノニシテ、主トシテ印度、英本國及米國ニ輸出セラレ、香料ト食料ニ供セラレ、又ハ丁字油製造ノ原料ニ供セラル

丁字樹ノ栽培ハ多クハ「アラビヤ」人及土人ニシテ土地ハ大抵其ノ所有ニ屬シ借地ハ殆ト無シト云フ、從ツテ樹園ノ値段ハ地價ト區別セラレス、其ノ地位、木ノ年齡並ニ狀態等ニ依リ異ナルモ、現今ニ於テハ一英反ニ付成長樹九十八本以內トシ七百留比乃至千三百留比位ナリト云フ、右ニ對シ政府ハ樹木ノ手入並ニ其ノ他ニ付鋭意改良ヲ計リツツアルモ、是等ノ栽培者ハ孰モ無智ニシテ注意ヲ怠ルノミナラス近來勞働者ノ供給舊時ノ如ク自由ナラス、且ツ資金モ亦豐ナラサルニ依リ樹木ノ保護及土地ノ手入充分ナラス年々衰微ノ傾向アリト云フ、但シ最近ニ至リ印度人カ本業ノ有利ナルニ着目シ資本ヲ投下シ土人ヲシテ栽培セシムル者漸次增加シ、其ノ結果頗ル良好ナルニ依リ政府ニ於テモ之ヲ奬勵シツツアリ、因ニ丁字樹ノ壽命ハ八〇乃至九〇年ニシテ「ザンジバル」ニ於ケル樹園ノ多クハ數十年前ノ栽培ニ係リ漸次老境ニ近ツキツツアルノミナラス、最近「マダガスカル」ニ於テ盛ニ栽培セラレ其ノ品質「ザンジバル」產ヲ凌駕スルニ依リ「ザンジバル」ハ之カ爲メ大ニ脅威ヲ感シ居レリ

本業ニ必要ナル勞働者ハ大抵季節的ニ大陸ヨリ渡來スルモノニシテ、相當ノ貯金ヲ爲シタル者ノ內ニハ小耕地ヲ買入レ其ノ儘土着スル者無キニアラサルモ、其ノ多クハ鄉里ニ歸還シ貯金ノ盡クルニ及ヒ再ヒ出稼ニ來ル者ナリト云フ、蓋シ奴隸制度ノ行ハレタル時代ニ於テハ本島ニ於ケル勞働ハ總テ奴隸ヲシテ爲サシメタルモノナルモ、奴隸解放以來「サルタン」及大耕主等ハ是等ノ勞働者ト契約シ彼等ヲ從來ノ儘其ノ耕地內ニ居住セシメ、之ニ一定ノ土地ヲ與ヘ、其ノ代リニ一週間ニ三日間宛勞働セシムル事トナシタルモ、是等勞働者並ニ其ノ子孫ハ漸次獨立的ト成リ賃銀ヲ得ルニアラサレハ勞働セス、然カモ耕主タル「アラビヤ」人ハ徒ニ衰時ノ關係ヲ夢ミ之ニ賃銀ヲ仕拂フ事ヲ肯セサリシ爲メ勞働者ハ次第ニ耕地ヲ棄テテ都市ニ集ルニ至リタル爲メ其ノ間自然ニ右ノ代ハリトシテ必要ノ時季ニ勞働者ヲ大陸側ヨリ求ムル事ト成リタルモノナルカ、今日ニテハ耕主等ヨリ別ニ募集セストモ勞働者側ニテ其ノ必要ヲ知リ大陸側ヨリ自由ニ渡來スルモノナリト云フ

賃銀仕拂ノ方法ハ除草其ノ他耕地的勞働ハ四本ノ丁字樹間ノ距離ヲ二一呎其ノ地積ヲ四四一平方呎トシ之ヲ「ペングル」ト云ヒ、政府ノ耕地ニ於テハ一人一日ノ勞働ヲ一〇「ペングル」卽チ四四一〇平方呎トシ一箇月二十六日間勞働セシメ十八留比トセリ、但シ熱帶地ノ常トシテ雜草繁茂シ易ク往々ニシテ勞働ヲ困難ナラシムル事ナキニアラス、斯ル場合ニハ其ノ難易ニ應シ一日ノ「ペングル」數ヲ減少ス此ノ賃銀仕拂方法ハ椰子樹耕地ニモ適用ス

又丁字香摘採仕事ニ對スル賃銀ハ普通其ノ分量ニ依ツテ支拂フモノニシテ、其ノ賃銀率ハ摘手需要ノ多寡ニ依リテ異ルモ普通ハ一日ノ仕事ヲ五丁字二五乃至三〇封度トシ、一「ピシ」(一「ピシ」ハ約四封度)毎ニ九「ピース」(六四「ピース」ヲ一留比トス)ヲ仕拂フニ依リ勞働者一日ノ勞銀ハ大凡一留比內外ト見做ス事ヲ得

(二) 椰子

椰子ノ栽培ハ比較的近年ノ事業ニシテ其ノ昔「アラビヤ」人カ食糧トシテ多少栽培シタル事アルモ之ヲ乾燥シテ「コプラ」ヲ製造スルニ至リシハ近年政府ノ奬勵ニ依リテ始リタルモノナリトス、從ツテ從來ハ椰子樹ノ栽培ハ極メテ限ラレタルモ今ヨリ大凡二十年位前ヨリ政府ニ於テ十五萬本ノ椰子樹ヲ植付ケ「アラビヤ」人及土人等モ之ニ做ヒ、今日ニテハ「コプラ」カ丁字ニ次クヘキ本島ノ重要產物ト成ルニ至リタルモノニシテ、其ノ二ケ年ノ產額ハ約七〇〇〇噸ヲ以テ算セラルルニ至レリ、因ニ一噸ノ「コプラ」ヲ得ルニハ果實六七〇〇個ヲ要スト云フ

(三) 日本人ノ適業

目下「ウガンダ」國「カムバラ」附近ニ農業ヲ營ム山邊義昭氏ハ元帝大農科ニ在學シタル處中途退學米國ニ渡リテ農業ヲ修メ、其ノ後南米ヨリ「ザンジバル」ニ渡リ同地ニ滯在農業事情ヲ研究シタル由ニテ、同地ニ於ケル丁字栽培業カ日本人ノ事業トシテ極メテ有望ナル旨ヲ語ラレ、更ニ參考トシテ其ノ報告書ヲ寄セラレタル處、右ハ極メテ有益ナルモノト認メラルルニ依リ左ニ大要ヲ摘錄シ大方ノ參考ニ供ス

「ザンジバル」ノ地勢ハ概ネ平坦ニテ山岳ヤ森林ヤ川カ無イカラ全面積ノ七割以上ハ耕地トナシ得ル

飮量水ハ井戶ヲ堀レハ何所カラデモ容易ニ良水ヲ得ラルルカラ乾期デモ水ニ不自由ハナイ

降雨ハ十二月及一月ヲ除クノ外ハ毎月多量ニアルカラ食用作物デモ灌水ノ必要カナイ、當港ニハ溫帶野菜等モ相當ニ栽培セラレツツアル

本島ニ丁字及椰子ヲ植付ケタノハ西曆一千八百三十年以後デ、其ノ後僅カ十年間ニ全耕地ノ面積七割ヲ栽培地トナシ全世界ニ其ノ名ヲナシタノデアルカ、本島カ英人ノ保護領トナルヤ彼等ハ第一ニ奴隸ノ賣買ヲ禁シタ爲メ直チニ其ノ勞力ニ困難ヲ生シ、其ノ結果トシテ勞賃カ暴騰シ目下デハ一人分月額十八留比(邦貨十二圓餘)デモ容易ニ苦力ヲ得ラヌト云フ狀態ニ成リ、丁子採取期(一月)ニハ其ノ二倍又ハ三倍ノ割增ヲナストモ其ノ全收穫ノ三分ノ一若シクハ半額位ハ每年

採取不能ニ終ルト云フ有様テアル、併シ英國政府ハ之レニ對シ何等ノ保護政策ヲ用ヒナイノミナラス園主（亞剌比亞人）モ亦私財ヲ投シテ他國ヨリ勞働者ヲ呼ヒ寄セル等ノ事ヲ爲サス、然カモ彼等ハ其ノ居住ヲ樹園ヨリ町ニ移シ其ノ栽培ハ勿論採取マテ一切ヲ土人任カセトナシ、之ヲ全然自然ノ儘ニ放任シテ居ル從ツテ栽培地ハ頗ル荒廢シ其ノ產額ハ年々減少シテ居ル、尤モ除草手入シテ結實ヲ多クシテモ採取不能ニ終ルノタカラ結局放任主義ヲ取ツテ居ルタロウ、然カモ丁字ハ採取期ヲ逸スレハ過熟シテ香氣ヲ失ヒ賣品トナラナイノテアル、斯クシテ同島ノ丁子樹ハ生理的ニ衰退シテ行クハカリテナイ經濟的ニモ衰退シツツアルノテアル

本島カ氣候風土ノ點ニ於テ丁子ノ栽培ニ適シテ居ルノハ勿論タカ其ノ開墾ニ長足ノ進捗ヲナシタノハ奴隷ノ利用ト世界ニ對シ丁字ノ供給ヲ獨占シタノトカ大ナル原因テアル、現今ニ於テハ世界ノ丁子相場ハ同島ノ採取率ニ依リテ左右セラレテ居ルノテアル、併シ本島ノ丁字樹モ最早老境ニ入ツテ居ル其ノ生命モ茲二十年カ又ハ三十年テアル、世界ニ丁子消費額ノ增シツツアル今日同島ノ丁子同復策ハ頗ル急務テアラネハナラヌ、併シ英人ノ手ニ於テ夫レヲ成シ能ハサル事ハ明瞭テアル

余ノ信スル所ニ依レハ丁字栽培業ハ極メテ日本人ノ作業ニ適當シテ居ル、南米「ブラジル」ヤ「メキシコ」ノ炎天ノ下ニ於テ作業スルヨリモ健康地テ且ツ生活シ易イ此ノ「ザンジバル」テ此ノ有利ナル林產物ニ着ツテ成功ヲ試ミル事カ日本人ノ爲メニ遙ニ有望テアル

新ニ丁字林ヲ造ルニハ植付後十年テナケレハ採取ハ出來ヌカ既成林ヲ借入ルナラハ其ノ年ヨリ採取ノ一部テ借林料ヲ支拂ヒ相當ノ利益ヲ得ラルルノテアルカラ資本トシテハ除草採取費位ノモノテ夫レモ邦人カ小作農的ニ經營スルトセハ自己テ成シ得ルカラ結局衣食費タケテ經營シ得ルノテアル借林料ハ收穫ノ時支拂フ

習慣テアル、生活費トシテハ一人ニ付二十五留比乃至三十留比位テ足リル

除草ハ一年二回ナセハ十分テ其ノ作業モ南米ノ如ク炎天下ノ仕事テハナク十五尺乃至二十尺モアル丁子林間ノ樹陰ニ於テスルノテアルカラ邦人ニ取リ極メテ容易ナモノテアル

丁子果ノ價格ハ一定シテオラヌカ七ケ年間ノ平均相場ハ英斤三十六磅（一「フラスラー」）ニ付二十四留比（邦貨二十圓餘）テアル

收穫ハ丁子樹一本ニ付（樹齡二十年前後ノモノ）英斤八磅テ一英町ニ百二十本トスレハ其ノ產額英斤九百六十磅取レル假リニ五英町ヲ借林スルトセハ年收丁子果四千八百磅（英斤）テ其ノ內カラ借林料一千二百磅ヲ引去ツテモ其ノ利益ハ三千六百磅殘ルカラ先ツ年々二千留比（一千六百圓餘）以上ノ利益カアル、內地人カ經營スルトセハ除草ヤ其ノ管理モ宜シキヲ得ルテアロウカラ收穫モ隨テ增加スル理由テアル

新ニ造林スルニハ一英町ノ開墾費百三十六留テアル、丁子苗ハ實生テ床蒔ニシテ二回移植シテ二ケ年目ニ園地ニ移スノテアル

結實ハ其レヨリ七八年後テアル、最初ノ結實ハ英斤二磅位テ二年目ハ四磅三年目ハ六磅ト云フ順序テ造林シテカラ栽培宜シキヲ得タナラ十五年目ニハ一本ニ付十五磅（英斤）ノ乾燥丁子果ヲ收穫スル事カ出來ル交通ハ內地ヨリ大阪商船ノ東「アフリカ」直航カアルカラ（月二回）別ニ不便ノ事ハナイ

第一二、交　通

(一)　鐵　道

島內狹小ナル爲メ特ニ交通機關ト稱スヘキ程ノモノナシト雖トモ、「ザンジバル」港ヨリ「ブブ

プ」ト稱スル處迄七哩ノ間ニ三呎巾ノ輕便鐵道アリ、本鐵道ハ元私立會社ノ經營ニ屬シタルモ後政府ノ買收スル所ト成ル

(二) 道　路

一九二六年ノ青書ニ依レハ「ザンジバル」島ニ於ケル自働車道路ノ延長ハ九九、一六哩ニシテ私人經營ノ乘合又ハ普通自働車通行ス

「ペンバ」島ニ於テモ目下自働車路建築中ナリト云フ

(三) 海　運

「ザンジバル」港ニ出入スル各國ノ定期船ハ左ノ如シ

「スエズ」廻リ	二週間ニ一回	「ユニオン、カッスル」船 同　上
「ケープ」廻リ	同　上	「クラン・ハリソン」船(貨物)
「リバプール」、「スエズ」、「ペイラ」廻リ	同　上	同　上　(貨物)
「ペイラ」、「スエズ」、「リバープール」廻リ	同　上	「ベイ・エム」船 同　上
「マルセーユ」、「スエズ」、「マダガスカル」廻リ	同　上	「マダガスカル」、「スエズ」、「マルセーユ」廻リ
「ザンジバル」、「キスマユ」間	同　上	「コアスジ」、「ザンショウ」船

「ザンジバル」政府船 「ザンジバル」、「ペムバ」間

「ザンジバル」政府船 「ザンジバル」、「ダレサラム」間

「ビー・アイ」船 同　上 「スエズ」廻歐洲行

同　上 同　上 「ポムベイ」ヨリ「ベイラ」行

同　上 同　上 「ダーバン」ヨリ「ポムベイ」行

同　上 同　上 「ケニヤ」、「タンガニカ」沿岸

和　蘭　船 同　上 「アムステルダム」ヨリ「スエズ」經由

伊太利船 同　上 「アムステルダム」ヨリ「ケープ」經由

同　上 同　上 「セノア」、「ザンジバル」往復

同　上 同　上 「セノア」、「ダーバン」往復

獨　逸　船 同　上 「マサワ」ヨリ往復

同　上 同　上 「ハンブルグ」ヨリ「スエズ」廻リ

大阪商船會社船 同　上 「ハンブルグ」ヨリ「ケープ」廻リ

同　上 (日本ヨリ「ダーバン」行)

(「ダーバン」ヨリ日本行)

第一三、金　融

(一)通　貨

一九〇八年ノ「サルタン」令ニ依リ官民聯合ノ通貨委員會ヲ組織シ印度留比銀貨ヲ以テ當領ニ於ケル法貨ト定メ之ヲ印度ヨリ輸入シ居レリ其ノ種類ハ左ノ如シ

印度留比銀貨		仕拂高制限ナシ
同　二分ノ一留比銀貨	仕拂高制限　五留比	
同　四分ノ一留比銀貨	同　上	

銅貨六四個ヲ以テ一留比ニ換算ス　仕拂制限高一留比

紙幣ハ五、一〇、二〇、五〇、一〇〇、五〇〇留比ノ六種アリ

「ケニヤ」、「ウガンダ」、「タンガニカ」カ互ニ同一ノ者ヲ使用スルニ對シ獨リ「ザンジバル」カ之ト異リタル貨幣ヲ用ユル事ハ一般取引上不便尠カラス、之カ改正ヲ主張スル者ナキニアラサルモ、元來當領内ニ於テ經濟上最モ勢力ヲ有スル者ハ印度人ニシテ、彼等ハ印度ト密接ナル關係ヲ有シ印度ト同一ノ法貨ヲ用ユル事ハ彼等ノ最モ好マシトスル所ナルノミナラス、彼等ハ銀相場ノ變動ヲ利用シ東阿各地トノ取引ニ奇利ヲ博スルニ深キ經驗ヲ有スルニ依リ、現在ノ制度ヲ變更スル事ヲ欲セスト云フ

(二)銀　行

當領内ニ於ケル銀行ハ左ノ二トス

The National Bank of India, Ltd.

資本金	二、〇〇〇、〇〇〇磅	
本店	倫敦	
支店	「ザンジバル」	

The Standard Bank of South Africa, Ltd.

資本金	二、二二九、一六五磅	
本店	倫敦	
支店	「ザンジバル」	

第一四、關稅制度

(一)輸　入　稅

(イ)輸入貨一具（酒及特種品ヲ除ク）

（一九二七年十月改正）

從價一割五分

(ロ) 酒精 一「ガロン」ニ付 二五留比

但シ酒精中ニハ酒精百分ノ三以上ヲ含ム香水、化粧品包含ス

(一九二六年改正)

(ハ) 無税品

地圖、海圖、旅客ノ手荷物(但シ此ノ内ニハ武器、酒、煙草、乘物食糧ヲ含マス)德利、瓶、石鹸製造用化學製品、藥品、石炭、「ガンニーバグ」、農具、荷造材料、醫療器具、電信電話用品、針金及金網、商品トシテ價値ナキ商品見本

(二) 輸出品

(イ) 丁字 現品ニ割五分

(ロ) 丁字莖 現金一割

(三) 入港稅

當港ニ入港スル各船舶ハ港及燈明稅トシテ登簿噸一噸ニ付二「アンナ」又ハ一二・五仙ヲ徵收セラル

第二五、度量衡

度量衡ハ總テ英本國ト同樣ノ制度ヲ採用シ、船積噸數ハ二〇 Cwt 及四〇 Cft ヲ用ユルモ、土人トノ取引ニハ左ノ單位ヲ用ユ

Fraeila 煙草ニ對シ	二〇封度
其他ノ物品ニ對シ	三五封度
Gisla 穀物ニ對シ	三六〇封度
鹽ニ對シ	六〇〇封度
皮付落花生ニ對シ	一八〇封度
皮ナシ落花生ニ對シ	二八五封度
Tola 金及銀ニ對シ一留比ノ重サ四〇「トラ」ハ	一封度
Pishi or Keila 純良水ノ重サニシテ	六・五封度
米ニ對シテハ	六封度
Kibaba 米ニ對シテハ	約一・五封度

第一六、移民規則

移民ノ入國ニ就テハ人種ニ依ル差別規定ヲ存セス、左記ノ一ニ該當スル者ハ入國禁止セリ

一、無資力者
二、白痴及瘋癲
三、傳染病患者
四、重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ
五、醜業婦及其ノ關係者
六、移民官ニ於テ好マシカラサル者ト認メタル者

當領ニ於テハ入國ノ許可ヲ得ル爲ニハ普通船客ハ三七磅一〇志、甲板客ハ一〇磅ノ所有金ヲ有スヘキモノト成リ居レリ

第一七、港灣事情

(一)　港ノ狀態及設備

當港ハ「シャンガニ」岬ノ北面ニ在リテ水面廣ク且ツ深ク其ノ前面ニ多數ノ島嶼アルニ依リ自然ニ安全ナル港ヲ成セリ

「シャンガニ」岬ノ東方ニ沿ヒタル海岸ニ稅關岸壁アリ五噸一臺、三噸一臺ノ電氣「クレーン」ヲ備フ、但シ總テ沖繫リニシテ荷物ノ揚卸ハ艀ニ依ルモ、目下同岸壁ノ北東方ニ約八〇〇呎ノ埠頭ヲ建築中ナルニ依リ完成セハ四五〇〇噸以下ノ汽船ヲ橫付セシムルニ足ルヘシ、岸壁ニ沿フテ稅關倉庫アリ其ノ面積四八、〇〇〇平方呎ニシテ其ノ中二五、〇〇〇平方呎ハ輸入貨用、二三、〇〇〇平方呎ハ輸出丁字及「コブラ」用トス、輕便鐵道アリ稅關倉庫ヨリ市外七哩ノ「ブブブ」ニ通シ丁字輸出ノ便ニ供ス

(二)　荷役

荷役ハ午前七時ヨリ午後一時迄、午後二時ヨリ午後五時迄ノ九時間ニシテ一日ノ取扱量ハ揚荷一艙八〇乃至一〇〇噸、積荷一〇〇乃至一四〇噸見當ナリ

荷役費ハ左ノ如シ

(イ)　揚　荷　（歐洲ヨリノ輸入品ハ運賃込ミ、日本ヨリノ輸入品ハ荷受人ノ負擔トナル習慣ナリ）

普通品	三噸迄	BL噸一噸ニ付 一留比二「アナ」
重量品	三噸以上	同 二留比八「アナ」
石炭	（バスケット」及「シュベル」使用賃ヲ含マス）	同 一留比八「アナ」

(ロ)「オバータイム」

歐洲人「フォーマン」	一日又ハ一夜	一時間
「ウィンチマン」	一五留比	二留比
人夫	一二「アナ」	八「アナ」
	一二「アナ」	六「アナ」

(ハ) 積揚併セテ一〇〇噸以下ノ場合ハ荷物噸數ニ依ラス左記特率ニ依リ人夫賃ヲ請求スルコトアルヘシ

歐洲人「フォーマン」	一日又ハ其一部	一夜又ハ其一部分
「ウィンチマン」	一五留比	二五留比
人夫	二留比二「アナ」	三留比
	二留比	二留比八「アナ」

(三) 解賃

揚解ハ普通運賃中ニ含マレ船會社ヨリ解會社ニ仕拂フモ積解ハ荷主ノ負擔トスル習慣アリ

揚解ハ左ノ如シ（解人夫、水切、倉入、荷渡迄ノ費用ヲ含ム）

普通品	二噸迄	BL噸一噸ニ付 一二志六片（「クレネージ」「ウォーフェージ」ヲ含ム）
重量品	二—三噸增賃	同 一二留比
	三—一〇噸同	同 一五留比一二「アナ」（「クレネージ」ヲ含マス）
	一〇以上噸同	同 一八留比一二「アナ」
接續	二四時間以內增賃	六留比八「アナ」
	超過一二時間又ハ端數毎ニ增賃	八「アナ」
	解登簿噸數一噸ニ付	

(四) 接續費

右ニ揭ケタル諸費ヲ基礎トシテ計上スレハ二十四時間以內ニ雜貨積替ノ爲メニ要スル費用ハ左ノ通リトナル

揚荷役賃

一留比二「アナ」

接續艀賃　六留比八「アナ」
同二十四時間增賃　一留比
B L 手數料　一留比
右合計　九留比一〇「アナ」

因ニ東阿ニ於ケル積替港ハ普通「モムバサ」港及「ザンジバル」港ナルモ「モムバサ」ノ積替費ニ比シ「ザンジバル」港ノ方安價ナリ、「ダレサラム」港及「タンガ」港ニテハ積替ヲ爲スコト極メテ稀ナリ

(五)港費

(イ)港稅

登簿總噸數（燈臺稅ヲ含ム）一噸ニ付（碇泊十日以內迄有效）ニ「アナ」

(ロ)水先案內		
水先案內ハ自由ナルモ其ノ料金ハ左ノ如シ		
汽船總噸數	一〇〇〇噸以下	三〇留比
同	一〇〇〇—一五〇〇噸	四〇同
同	一五〇〇—二〇〇〇噸	五〇同
同	二〇〇〇噸以上	六〇同

(六)雜項

(イ)水ハ東阿第一ノ良水ト稱セラル一噸二留比八「アナ」
(ロ)石炭ハ艀會社ニテ供給スルモ高價ナリト云フ
(ハ)「タリーマン」一日六留比、「オヴァータイム」一日八留比、一時間一留比、食料二留比
(ニ)當港ニハ政府ノ無線電信局アリ發信距離四〇〇—五〇〇哩、受信距離五〇〇—六〇〇哩ナリ

第一八、外國貿易

一九二七年及一二六年ニ於ケル「ザンジバル」ノ輸出入貿易總額ハ左ノ如シ

輸出入及年別	價格（留比）		數量（噸）	
	一九二七年	一九二六年	一九二七年	一九二六年
輸入	二三、六一四、九八六	二四、五〇三、二六九	八四、〇〇〇	七七、〇〇〇
輸出	二四、三七六、七七七	二三、七八八、二六四	四六、〇〇〇	四四、〇〇〇
合計	四七、九九一、七六三	四八、二九一、五三三	一三〇、〇〇〇	一二一、〇〇〇

即チ一九二七年ヲ以テ一九二六年ニ比較スルニ、金額ニ於テハ輸入ニ於テ約三分六厘ヲ減シ、輸出ニ於テハ輸入ニ於テ九分輸出ニ於テ四分五厘ヲ増加セリ

但シ「ザンジバル」ハ東阿ニ於ケル貿易ノ仲継地タル事ヲ其ノ特色トスルモノニシテ輸入ハ地方人ノ消費ヲ目的トスルニアラサルト共ニ輸出モ亦内地産ノ輸出ニアラズシテ多クハ輸入品ノ再輸出ナリトス、然カモ尚其ノ上積替ニ依ル外國品ノ通過貿易モ亦尠カラズ、是レ「ザンジバル」貿易ヲ研究スル者ノ知リ置カサルヘカラサル所ナリトス

(一) 輸入

今輸入金額ヲ普通商品、正貨及地金銀、輸出輸入品ノ三種ニ分チテ示セハ左ノ如シ（單位留比）

年別及種類	商業輸入	正貨及地金銀	政府輸入品	合計
一九二三年	二七、七七九、六七一	五四四、九一六	八二〇、一八〇	二九、一四四、七六七
一九二四年	二五、一一一、一八七	三、七八六、〇五三	七四六、二一七	二九、六四三、四五七
一九二五年	二五、九八〇、六〇五	六六四、九九三	八六四、六二五	二七、五一〇、二二三
一九二六年	二三、二二六、八二八	九八、七一七	一、一七七、七二四	二四、五〇三、二六九
一九二七年	二二、七一四、四一三	二三、三三四	八七七、二三九	二三、六一四、九八六

更ニ重要輸入品ノ輸入狀況ヲ示セハ左ノ如シ（單位留比）

品名及年別	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
綿布類	五、五六八、六一九	六、一七八、五九五	四、五一三、五八一	四、八三三、三八四
米穀	四、八二七、六二九	五、一七九、三七三	四、九〇一、六八三	五、六一〇、六二四
「コプラ」	一、七一八、三〇八	一、六〇二、〇八九	一、四一二、〇三五	一、二六八、四八〇
砂糖	一、四四六、〇六七	九九五、二五一	八九五、二七三	一、〇三三、八八九
鐵器	九三、〇三五	八四、〇六〇	四二、一八九	二九、四九九
象牙	一、一八二、六六七	五四九、七七一	六五七、五〇三	五九五、〇八四
胡麻	三七八、二七三	二六一、三〇七	二六七、九三三	二四二、〇七五

但シ是等ノ輸入品ハ大抵再輸出セラルルモノニシテ、國内ニ於ケル消費額ハ僅ニ其ノ一部ニ止マレリ

今一九二六年及一九二七年ニ於ケル輸入ノ商品ヲ種類ニ依リテ大別シ仕出國ニ依リテ表示スレハ左ノ如シ

仕出國／品種別	年別	飲食物煙草	原料及半製品	精製品	雜種	合計
英本國	一九二六年	六七九、九四四	四、三六五、四〇二	三、六二八、七二九	一	五、〇六九、九八八
	一九二七年	五九五、一一六	一四、〇五六	三、六二八、七二九	—	四、二五七、九二九
英領地	一九二六年	六、七六七、三〇九	三、二〇七、四二九	二、〇二二、二一三	二、〇〇七	一一、九八八、九五八
	一九二七年	七、六四五、一〇〇	二、五四五、二九八	二、三二六、九四四	二一〇	一三、五一七、五六二

日本	一九二六年	一、〇六九	—	七五〇、一九六	七五一、二六五
	一九二七年	一、二三六	—	一、二六七、一四七	一、二六七、三八三
和蘭	一九二六年	二四一、三五四	—	八九三、一八五	一、一三四、五三九
	一九二七年	二三〇、六一四	—	七一七、三六九	九三八、六一三
蘭領印度	一九二六年	六三八、八四八	—	五六〇、九九六	一、四八〇、三〇七
	一九二七年	九一九、三一一	七五	一、〇九八、八八二	一、二一〇、一五四
米國	一九二六年	二一、一九七	六、二〇五	六二三、五三八	六五二、五六八
	一九二七年	二二、八二五	六〇二、九二五	一、六九四、七八六	三、六九〇、八〇〇
其ノ他	一九二六年	一、三八六、五二九	四六八、二四五	一、一七〇、六三七	二、四九六、〇八三
	一九二七年	八五六、七五一	三五〇	一〇、八二四、六六四	二四、四〇四、五五二
合計	一九二六年	九、七三六、二五〇	八五七	一〇、二九四、三五九	二三、五九一、六五三
	一九二七年	一〇、二六二、一八九	五七〇	三、〇三四、五三四	二三、五九一、六五三

即チ一九二七年ノ輸入カ前年ニ比シ一般ニ減退ノ傾向ヲ示セルニ拘ハラス本邦カ印度、「ビルマ」及蘭領印度ト共ニ著シク増進シ、且前年優位ニ在リシ和蘭、米國ヲ拔クニ至リシハ吾人ノ意ヲ強フスル所ナリ、蓋シ大阪商船會社ノ東亞ニ直通航路ノ結果日本ヨリノ通商ニ便宜ト成リタルニ依ル

更ニ主要品ノ輸入概況ヲ左ニ示スヘシ

(イ) 綿布及綿製品

一九二六年及一九二七年ニ於ケル輸入ハ左ノ如シ

品種	數量(碼) 一九二六年	數量(碼) 一九二七年	價格(留比) 一九二六年	價格(留比) 一九二七年
染綿布	二、八一四、〇七〇	一、八五一、七三六	七五八、〇六五	一、〇〇八、二〇六
更紗	二、八四七、八四七	三、三七八、二一〇	一、六四八、七九二	一、二二二、一一六
未晒綿布	五、四一六、七〇〇	三、四九四、〇五六	一、〇三〇、七一三	一、四二〇、一一七
晒綿布	一、二八、一四七	一、二二二、九三三	四三三、二八六	三八五、二〇八
其ノ他	—	—	六四二、七二五	七九七、七三七
合計	一二、三〇六、七六四	九、九三六、九三五	四、五一三、五八一	四、八三三、三八四

即チ一九二七年ニハ更紗カ數量及價格ニ於テ又晒綿布カ價格ニ於テ減退セル外大體ニ於テ前年ヨリ數量二三、八五%價格七、〇八%ノ増進ヲ示セリ、之レ同年度ニ於テ輸入品安價ナリシ爲メ夫ニ刺戟セラレ需要ヲ喚起シタルニ依ル

更ニ之ヲ供給國別ニシテ示セハ左ノ如シ(單位留比)

品種	國	英本國	印度	日本	和蘭	米國	其他	合計
染綿布	一九二六年	三八九、五六九	四二三、二四一	一六、四五四	一四六、七〇七	四、一四二	二八、〇九三	一、〇〇八、二〇六

更紗	八二五、三八九	四二、〇七四		二、四五一	一、三二二、一一六	
未晒綿布	八、三六九	六八三、三〇一	六五八、五五五	四、九五八	一八、二五九	一、四二〇、一一七
晒綿布	二五七、六三五	二三、三四五	七、六六九	九四、二二四	六、一八	一、七二七
其ノ他	二四二、五一五	二一、四四一	二三一、九六八	七七、七三	二〇〇	一三三、八三九
合計	一、七三三、四七七	一、二八三、四〇三	九一八、九三〇	六七一、五七〇	五一、六三五	一八四、三六九

即チ主要供給國ハ英、印、日、蘭ノ四國ニシテ、就中本邦品ハ粗布及雜種品ニ於テ、英國品ハ更紗及晒綿布ニ於テ優リ、又染綿布ニ就テハ印度、英國、和蘭ノ順位ト成レリ

(ロ) 米

「ザンジバル」ハ東阿ニ於テ最モ重要ナル米ノ集散地ニシテ其ノ輸入額ハ年額四百留比ヲ下ラス、但シ輸入米ノ大部分ハ蘭貢米ニシテ一九二七年ニ於テハ輸入總額約五十萬 Cwt ノ內約四十二萬 Cwt ハ「ビルマ」ヨリ輸入ニ係レリ、但シ一袋(一六五封度入)當リ平均價額ハ前年ノ一五、八六留比ヨリ當年ハ一四、九八留比ニ低下セリ

今一九二七年ニ於ケル輸入額ヲ供給國別ニシテ表示スレハ左ノ如シ

産地	數量(Cwt)	金額(留比)
「ビルマ」	四一八、五六九	四、一八三、二七七

印度	一六、六〇三	二四一、五八五
海峽殖民地	一一、三〇	一一八、四九七
「マダガスカル」	三、三二八	二六、九四四
「タンガニカ」	二四二	二、五七九
合計	四四九、七七二	四、五七二、八八二

(ハ) 砂糖

砂糖ハ綿市及米ニ次クヘキ重要輸入品ニシテ一ケ年ノ輸入額ハ普通百萬留比ニ達ス、但シ輸入糖ノ大部分ハ爪哇糖ニシテ一九二七年ニハ全輸入額約百三萬留比ノ內約九十二萬留比ハ爪哇ヨリノ輸入ニ係リ、平均價格ハ一袋(二二四封度入)二四・七七留比ニシテ前年ノ二五・三一留比ニ比シ〇・五四留比低下セリ

今之ヲ供給國別ニシテ表示スレハ左ノ如シ

産地	數量(Cwt)	金額(留比)
爪哇	七四、六一五	九一九、三一一
海峽殖民地	三、四五七	三八、五一四
蒙領東阿	一、四九八	二〇、七九六
其ノ他	三、九一〇	五五、二六八
合計	八三、四八〇	一、〇三三、八八九

(二) 輸出

「ザンジバル」ノ輸出貿易ハ國産輸出ノ外輸入品ノ再輸出及積替ニ依ル通過貿易尠カラサルヲ其ノ特徴トス、之ヲ表示スレハ左ノ如シ（單位留比）

	一九二七年	一九二六年
國産輸出	一六、四九六、二〇九	一五、二〇三、四八六
再輸出	五、六〇三、三九五	六、〇一六、二一三
通過貿易	二、二七七、一七三	二、五六八、五六五
合計	二四、三七六、七七七	二三、七八八、二六四

右ノ如ク國産輸出ハ前年ヨリ增加セルモ、再輸出及通過貿易ハ反對ニ減退ヲ示セリ、蓋シ「ザンジバル」ノ中繼貿易カ漸次衰退ノ傾向ヲ示セルコトハ數年來ノ現象ニシテ、其ノ原因ハ「モンバサ」、「ダレサラム」、「タンガ」等大陸諸港ノ開發及之等諸港出入航路ノ發達セルニ依ルモノト認メラル

過去五ケ年間ニ於ケル重要輸出品（再輸出及積替ヲ含ム）ハ左ノ如シ（單位留比）

品名	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
綿布類	三、八八〇、一一五	二、七〇〇、七八七	二、八五七、五七八	三、一六七、七五二
丁字	一五、九二六、五九二	一三、二八二、七八二	八、五七三、三八四	一〇、九二八、九一三
丁字軸	九八二、三八七	四八三、九六三	六四三、二二〇	六、一六、八七三
「コプラ」	四、九〇四、九六四	五、二九七、八〇八	五、六二八、七三七	四、四五七、六七五
石油及「モーター」油	四三三、〇九七	四〇九、二七九	八二八、七六九	五〇七、九四二
米穀	二七六、九七四	四三三、五〇〇	六三八、〇〇四	六八七、〇三八
粟	九九二、五〇四	一一三五、一七〇八	六四一、〇二六	六二四、三八一
牙	八三、一四四	一一五、一五一	一二八、七六七	一六五、二五一
小麥粉	二四二、七三九	四〇七、四九九	三二六、九〇九	一九一、五九五
砂糖	四二〇、一五〇	三七九、五二〇	三八、〇八八	一二三、三二九
胡麻				

更ニ輸出總額ヲ仕向國別ニ依リ金額順ニ列記スレハ左ノ通リ（單位留比）

仕向國	一九二七年	一九二六年	增減	增減
「タンガニカ」	四、三二一、八八八	四、六九八、〇二八	減	三七六、一四〇
佛蘭西	三、七〇七、八二四	五、二六二、四〇五	減	一、五五四、五八一
印度「ビルマ」	三、四八〇、七二八	三、二三二、九四七	增	二四七、七八一
米國	二、〇五九、二四一	二、五七〇、二四七	減	五一一、〇〇六
英本國	一、六九六、六六〇	一、六二〇、八五三	增	七五、八〇七
蘭領印度	一、四六〇、〇七五	六九三、〇七八	增	七六六、九九七
伊太利	一、三八六、〇八〇	六一三、七二二	增	七七二、三五八

和蘭		九四五、二三五	
葡領東阿		九二一、七四三	
獨逸		八一八、七一九	
日本		九六、七一一	
其ノ他		三、四八一、八七三	
合計		二四、三七六、七七七	
右ノ如ク「タンガニカ」、佛、米、日ヲ除ク外ノ諸國向輸出一整ニ増進セリ、本邦トノ貿易カ輸入ニ於テ頗ル優勢ヲ示セルニ反シ輸出カ甚タ不振ナルハ「ザンジバル」ノ特産品タル丁子及「コプラ」ニ對シ本邦ノ需要大ナラサルニ因ルモノナリ			
今該特産品タル丁子及「コプラ」及本島唯一製造品タル石鹸ノ輸出狀況ヲ左ニ示スヘシ			
(イ) 丁字			
丁字ハ「ザンジバル」ノ特産品ナル事ハ前ニ說明シタル通リナルカ、近年價格下落ノ爲メ輸出金額ニ於テ非常ニ減退シタルモ、數量ニ於テハ一進一退アリテ一九二六年ニハ近年稀ナル不振ニ陷リタルモ一九二七年ニハ一躍其ノ三分ノ二ヲ增加セリ、今過去五ケ年間ノ輸出金額數量及其ノ値段ヲ示セハ左ノ如シ			

年度	數量(cwt)	金額(留比)	cwt當平均(留比)
一九二三年	二〇〇、六二三	一五、九二四、八八八	七九、三八
一九二四年	一六九、三〇九	一二、一五二、二一一	七一、七七
一九二五年	二一九、二一七	一三、二八二、七八二	六〇、五九
一九二六年	一五八、四二五	八、五七三、三八四	五四、一二
一九二七年	二五九、四五三	一〇、九二八、九一三	四二、一二

一九二七年ノ右ノ輸出額ハ二〇七、五六二俵ニシテ從來ニナキ輸出記錄ヲ造リタルモノナルカ、値段ニ於テモ亦破格ノ安値ヲ示シタルモノナリトス

更ニ右數量ヲ仕向國別ニシテ表示スレハ左ノ如シ(單位留比)

年	印度	米國	蘭領印度	和蘭	海峽殖民地	英國	其他	合計
一九二三年	六八、一九四	三二、一六八	—	七八七五	—	七八、七〇八	一三、七〇一	二〇〇、六四六
一九二四年	七七、三三三	三四、九二五	—	四、七〇九	一五六	二八、三二〇	二三、八六六	一六九、三〇九
一九二五年	九七、九〇六	四九、四五六	五、四二三	八、七二九	—	四一、九六六	一五、七三八	二一九、二一七
一九二六年	五〇、〇三二	四七、五六三	一一、〇六〇	六、四六二	九、九六一	四五、三九二	二三、八九五	一五八、四二五
一九二七年	八六、五五六	四五、三九二	三四、四九一	一九、九六七	一五、〇四一	二二、七三五	一五、二七一	二五九、四五三

右ノ蘭領印度及海峽殖民地向輸出ノ增加シタルハ大阪商船會社ノ阿弗利加直通航路開始ノ結果運送ノ便ヲ生シタルニ依ル

(ロ)「コ　プ　ラ」

「コプラ」ハ丁字ニ次ク輸出品ノ大宗ナリ今過去五ケ年間ニ於ケル内地産ノ輸出額ヲ示セハ左ノ如シ

年	内地産 数量(cwt)	内地産 金額(留比)	再輸出品 数量(cwt)	再輸出品 金額(留比)	合計 数量(cwt)	合計 金額(留比)
一九二三年	一八七、八四七	三、三八六、五二六	九五、九八七	一、五一八、四三八	二八三、八三四	四、九〇四、九六四
一九二四年	二〇四、五一七	三、五七九、五〇〇	一〇五、三七一	一、七一八、三〇八	三〇九、八八八	五、二九七、八〇八
一九二五年	二四九、六二六	四、一三八、六〇四	一〇〇、六四八	一、六〇二、〇八九	三五〇、二七四	五、七四〇、六九三
一九二六年	二五六、八〇三	四、二一六、七〇二	九一、二七七	一、四二二、〇三五	三四七、〇八〇	五、六二八、七三七
一九二七年	二〇一、〇四七	三、二二九、一九五	八二、七九二	一、二六八、四八〇	二八三、八三九	四、四九七、六七五

本品ノ輸出ハ一九二七年ハ前年ニ比シ不況ヲ呈セリ蓋シ内地産ハ不作ノ爲メ再輸出ハ採算不利ナリシニ依ル

(ハ)石　鹸

年	数量(cwt)	価格(留比)
一九二三年	一七、六一二	五一二、五二六
一九二四年	二〇、二一六	五一〇、一八二
一九二五年	六、六〇七	一六一、八六八
一九二六年	三、一九六	七二、九二〇
一九二七年	一、八七九	四四、二五七

即チ一九二四年ヲ頂上トシ石鹸製造業失敗ノ跡ヲ見ルニ足ルヘシ

(三)再輸出及通過貿易

「ザンジバル」カ東阿沿岸貿易ノ仲継地タル事ヲ其ノ特質トスルノハ前ニ述ヘタル通リナルカ、今左ニ過去五ケ年間ニ於ケル再輸出及積替高ヲ示サン（単位留比）

年	再輸出及積替總出高	備考
一九二三年	一一、六一一、〇六七	政府ノ報告ハ再輸出ト積替トヲ區別セス
一九二四年	一一、七三〇、六〇三	同上
一九二五年	一〇、三〇六、二〇五	同上
一九二六年	八、五八四、七七八	内(再輸出 六、〇一六、二一三 積替 二、五六八、五六五
一九二七年	七、八八〇、五六〇	内(再輸出 五、六〇三、三九五 積替 二、二七七、一七三

一九二七年ニ於ケル主ナル取扱商品ヲ擧クレハ左ノ如シ（単位留比）

	積替輸出	合計
綿布類	一、〇四四、四三四	三、一六七、七五二

「モーター」油、石油	五〇五、九二四	五〇七、九四二	二、〇一八
米	三三八、五三八	三三八、五三八	—
砂糖	一三七、一六七	一三七、一六七	—
麻袋	一八七、六三四	一八七、六三四	—
胡麻	八九、六九三	一二三、七八八	三四、〇九五
「サイザル」	—	一二九、三〇〇	一二九、三〇〇
黍	—	七三、一九〇	七三、一九〇
象牙	五七四、三六六	六〇八、五六六	三四二、〇〇
海底電線	—	一五、五七二	一七二、九八六
牛革	一四、四三四	四八、七四五	一、一三八
犀角	四八、七四五	三一、一五五	—
貝	三一、一五五	二四、九七九	六〇
陶器	二一、一八三	一二、九七七	三、七九六
硝子器	八、〇二三	一三、〇三七	四、九五四
亞鉛引鐵板	一二、九五七	一〇二、一〇三	八〇
鐵鍋製品	二九、一一六	一四、三一三	七二、九八七
「エナメル」器	九、二五三	一九、九〇九	五、〇六〇
電氣用品	一六、一六九		三、七四〇

家具	二三、九八六	二七、二三四	三、二四八
毛織物	一二、五五九	二二、三五八	九、七九九
麻繊維	七、〇五六	一九、四三四	一二、三七八
衣服	六、三五七	一一、七五七	五、四〇〇
靴	一、七八二	一五、三〇三	一三、五二一
繩	二八、〇九二	三五、二七一	七、一七九
莫大小	七、六五七	一四、五五三	六、八九七
藥品	一〇、一九五	一四、八三四	四、六三九
紙製品	一九、八六四	二三、四九九	三、六三五
文具品	六、四八八	一一、二六六	四、七七八
南京玉	九、三三五	一〇、八九〇	一、五五五
燐寸	一〇、六八二	一七、一五九	六、四七三
傘	六、六三〇	一三、四九八	六、八六八

右再輸出及積替輸出ノ主要仕向地ハ左ノ通リニシテ「ザンジバル」ノ地位カ主トシテ東阿沿岸諸地方ニ對スル配給ヲ掌レルコトヲ窺ウニ足ル

仕向國	金額(留比)	百分率
「タンガニカ」	四、二六四、三九〇	五四・一〇
葡領東阿	八九八、一三四	一一・四〇

「ケ　ニ　ヤ」	六二二、九五六	七、九五
印度「ビルマ」	三九五、五八〇	五、〇七
英　國	三八八、八七七	四、九二
伊太利領東阿	二四〇、一一九	三、〇四
其ノ他	一、〇七〇、五〇四	一三、五二
合　計	七、八八〇、五六〇	一〇〇、〇〇

右ノ内本邦ヨリノ輸出ニ最モ關係アル商品ニ付其ノ再輸出及積替ニ依ル仕向地ヲ數量及金額別ニシテ表示スレハ左ノ如シ

晒綿布

仕向地	再輸出 數量(碼)	再輸出 金額(留比)	積替 數量(碼)	積替 金額(留比)	合計 數量(碼)	合計 金額(留比)
印度	六、〇〇〇	一、三九三	—	—	六、〇〇〇	一、三九三
「タンガニカ」	四四八、七八五	一三六、〇一三	六五、七六〇	二四、〇六六	五一四、五四五	一六〇、〇七九
葡領東阿	一〇四、八八七	二八、〇五九	二四、四〇〇	四、五〇〇	一二九、二八七	三二、五五九
「ケ　ニ　ヤ」	六二、四三三	二四、三三五	三三、一一〇	七、三九〇	九五、五三三	三一、七二五
伊領東阿	一一、七九四	四、四六一	五〇〇	二五〇	一二、二九四	四、四六一
合　計	六三三、八八九	一九四、〇〇一	一一三、七七〇	三六、二一〇六	七五七、六五九	二三〇、二〇七

染綿布

仕向地	再輸出 數量(碼)	再輸出 金額(留比)	積替 數量(碼)	積替 金額(留比)	合計 數量(碼)	合計 金額(留比)
印度	二、〇〇〇	二七一	—	—	二、〇〇〇	二七一
伊領東阿	四四八、七八五	一三六、〇一三	六五、七六〇	二四、〇六六	五一四、五四五	一六〇、〇七九
「タンガニカ」	一〇四、八八七	二八、〇五九	二四、四〇〇	四、五〇〇	一二九、二八七	三二、五五九
「ケ　ニ　ヤ」	六二、四三三	二四、三三五	三三、一一〇	七、三九〇	九五、五三三	三一、七二五
葡領東阿	一一、七九四	四、二一一	五〇〇	二五〇	一二、二九四	四、四六一
合　計	六三三、八八九	一九四、〇〇一	一一三、七七〇	三六、二一〇六	七五七、六五九	二三〇、二〇七

更紗

仕向地	再輸出 數量(碼)	再輸出 金額(留比)	積替 數量(碼)	積替 金額(留比)	合計 數量(碼)	合計 金額(留比)
「タンガニカ」	七一七、五三〇	三四九、一〇四	一〇九、七三〇	九〇、七四〇	九二七、二六〇	四三九、八七四
「ケ　ニ　ヤ」	二一〇、七二六	五五、一九一	二〇、八七二	二〇、八〇六三	一六五、〇二六	七六、〇六三
葡領東阿	四九、六四七	二〇、五九四	五、八〇六	二、二一三	五五、四五三	二二、八〇七
「アラビヤ」	一三、〇〇〇	六、二九五	—	—	一三、〇〇〇	六、二九五
伊領東阿	六〇〇	二〇五	一、七八五	七〇〇	二、三八五	九〇五
合　計	九〇一、五〇三	四三一、三八九	一六一、六二一	一一四、五五五	一、〇六三、一二四	五四五、九四四

未晒綿布

仕向地	再輸出 数量(碼)	再輸出 金額(留比)	積替 数量(碼)	積替 金額(留比)	合計 数量(碼)	合計 金額(留比)
印度	一〇〇	六〇	—	—	一〇〇	六〇
「ソコトラ」	一五、三〇〇	四、二三八	—	—	一五、三〇〇	四、二三八
「アラビヤ」	一五、九〇〇	三、七三九	—	—	一五、九〇〇	三、七三九
「タンガニカ」	七九一、八二六	四五五、七八二	九八九、四二三	二五五、四五〇	一、七八一、二四九	七一一、二三二
「ケニヤ」	二三、四八〇	六、八五七	六〇〇	二五五	二三、〇八〇	七、〇八二
葡領東阿	六〇三、二六八	一五一、〇二九	一、一二、八二二	一七七、六九四	一、二一五、〇九〇	三三八、七二三
伊領東阿	六九、九〇〇	一七、六二四	一四、七〇〇	四二、七八	八四、六〇〇	二一、九〇二
合計	一、五二〇、四七四	六三〇、一二三	一、六、二六、五四五	四三七、六四七	三、一二七、〇一九	一、〇七七、七七〇

綿糸

仕向地	再輸出 数量(封度)	再輸出 價格(留比)	積替 数量(封度)	積替 数量(留比)	合計 数量(封度)	合計 價格(留比)
「タンガニカ」	一一〇、九〇	九、九九三	七、八一一	—	一八、九〇一	一六、九五五
伊領東阿	一一、六〇〇	七、九一九	—	—	一一、六〇〇	七、九一九
「アラビヤ」	四〇〇	六一七	—	—	四〇〇	六一七
「ソコトラ」	一、九五九	一、七〇〇	—	—	一、九五九	一、七〇〇
「ケニヤ」	五一四	八五八	一、一八〇	一、〇九〇	一、六九四	一、九四八
葡領東阿	六九三	一、一三九	八、九九一	八、〇五二	九、六八四	九、一九一
合計	一三、〇三九	一一、七三九	一〇、一〇四	九、一四二	二三、一四三	二〇、八八一

其他ノ綿製品

仕向地	再輸出 数量	再輸出 金額(留比)	積替 数量	積替 金額(留比)	合計 数量	合計 金額(留比)
日本	—	一、五〇〇	—	—	—	一、五〇〇
「アラビヤ」	—	二、六〇〇	—	—	—	二、六〇〇
伊領東阿	—	一、九三六	—	—	—	一、九三六
「ケニヤ」	—	一二四、九三三	—	—	—	一二四、九三三
「タンガニカ」	—	二一二、五二九	—	六九、二〇五	—	二八一、七三四
「マダガスカル」	—	一〇〇	—	—	—	一〇〇
「ケニヤ」	—	—	—	—	—	—
葡領東阿	—	六四、二六四	—	七五三九	—	七一、八〇三
船用	—	—	—	五〇	—	五〇
合計	—	四〇八、八六二	—	一二九、五四八	—	五三八、四一〇

衣服

仕向地	再輸出 数量	再輸出 金額(留比)	積替 数量	積替 金額(留比)	合計 数量	合計 金額(留比)
「ケニヤ」	—	二、〇〇〇	—	—	—	二、〇〇〇
伊領東阿	—	四〇	—	—	—	四〇
「タンガニカ」	—	四、一六七	—	五、四〇〇	—	九、五六七
「モリシアス」	—	一五〇	—	—	—	一五〇
合計	—	六、三五七	—	五、四〇〇	—	一一、七五七

莫大小

仕向地	再輸出 数量	再輸出 金額(留比)	積替 数量	積替 金額(留比)	合計 数量	合計 金額(留比)
葡領東阿	—	二、二三五	—	三五〇	—	二、五七五
「ケニヤ」	—	二、七九九	—	六、五四七	—	九、一八〇
「タンガニカ」	—	二、六三三	—	六、八九七	—	一四、五五四
合計	—	七、六五七	—	一三、七九四	—	二一、四五一

燐寸

仕向地	再輸出 数量(箱)	再輸出 金額(留比)	積替 数量(箱)	積替 金額(留比)	合計 数量(箱)	合計 金額(留比)
伊領東阿	一、三〇〇	六〇〇	—	—	一、三〇〇	六〇〇
「タンガニカ」	五、一三五	六、〇二一	—	—	五、一三五	六、〇二一
「ケニヤ」	二九	三七	—	—	二九	三七
「アデン」	三〇〇	四二五	—	—	三〇〇	四二五
葡領東阿	四、二五〇	三、六〇一	—	—	四、二五〇	三、六〇一
船用	四	八	—	—	四	八
合計	一〇、九一八	一〇、六八二	—	—	一〇、九一八	一〇、六八二

「セメント」

仕向地	再輸出 数量	再輸出 金額(留比)	積替 数量	積替 金額(留比)	合計 数量	合計 金額(留比)
「タンガニカ」	二八	一八一	一八	九一	四六	一八二
「アラビヤ」	一	五七	—	—	一	五七
合計	二九	一、九六八	一八	九一	四七	二、八七九

陶器

仕向地	再輸出 数量(cwt)	再輸出 金額(留比)	積替 数量(cwt)	積替 金額(留比)	合計 数量(cwt)	合計 金額(留比)
英國	一	二〇〇	—	—	一	二〇〇
「マダガスカル」	七	二三一	—	—	七	二三一
「ケニヤ」	一	五三	—	—	一	五三

陶領東阿	八〇	二八九六	五	三六〇	八五	三二五六					
「タンガニカ」	三六六	一三四七〇	七五	二五六五	四四一	一六〇三五					
「モリシアス」	二	四〇〇	—	—	二	四〇〇					
佛領東阿	九二	三九三三	三	四〇〇	九五	四三三三					
船用	—	—	七	四七一	七	四七一					
合計	五四九	二一、一八三	九〇	三、七九六	六三九	二四、九七九					

「エナメル」器

仕向地	再輸出		積替		合計	
	數量(cwt.)	金額	數量(cwt.)	金額	數量(cwt.)	金額(留比)
伊領東阿	一、一三	一、六八五	七五	一五〇	一、一九七	一、八三五
「タンガニカ」	六一	五五〇	—	—	六一	五五〇
葡領東阿	三五〇	一六三	—	—	三五〇	一六三
「ルアンダ」	一、七一二	三、一七〇	八〇	四二〇	一、七九二	三、五九〇
合計	三、二四六	五、五六八	一五五	五七〇	三、四〇一	六、一三八

(四) 市場在貨狀況

稅關ノ報告ニ依レハ一九二六年及一九二七年ノ兩年度ニ於ケル保稅倉庫在荷ハ左ノ通リナリ、以テ市場ノ消化ノ形勢ヲ察スルニ足ルヘシ

	一九二七年		一九二六年	
十二月末在荷高	三、八〇七噸	六一二、七一一留比	六、二三四噸	一、〇八八、三四八留比
各月平均在荷高	四、五五五	七〇九、八一六	六、四九九	一、四〇五、七七一

(五) 日本トノ貿易

一九二六年及一九二七年ノ兩年度ニ於テ貿易統計面ニ現レタル日本品輸入及日本向輸出品ノ內容ヲ揭記スレハ左ノ如シ

(イ) 輸入日本品 (單位留比)

品目	一九二七年	一九二六年	增減
「プレザーブトフルーツ」	一六〇	—	增 一六〇
飮食料品	一、〇七六	一、〇六九	增 七
「セメント」	二四三	二二二	增 二二一
陶器	三〇、八八五	一一、八四九	增 一九、〇二六
硝子器	一二、〇三七	六、六四五	增 五、三九二
鐵製品	一四九	—	增 一四九
其他金屬品	三、八一八	三、〇七五	增 七四三
「アルミニューム」器	二五四	—	增 二五四

又物				
「エナメル」器	一六、一四六	減	二三八	九二
鐵器類	一六、一五七	増	九、九一九	六、二三五
電氣器具	三九	—	—	三九
家具	一、三八〇	減	三三五	一五一
晒木綿布	七、六六九	増	五四八	八三二
染木綿布	一六、四五四	増	六、九七四	六九五
更紗	四、二八四	減	二二、一五〇	五、六九六
未晒綿布	六五八、五五五	増	一、六六四	二、六二〇
綿糸	一、〇五五	増	三八一、三七〇	二七七、三八五
其他綿製品	二三一、九六八	増	七七八	二七
絹製品	一三、九九九	増	一四九、九四六	八二、〇二二
絹反物	六二、二七三	減	一七、一七八	三、一七九
衣類	一二、〇八六	増	四〇、〇一九	二二、二五四
靴	一、七一九	増	二、一二五	九、九七一
小間物類	三六、八六八	増	九六	一、六二三
帽子	六一九	増	一三、三八九	二三、四七九
莫大小	二三、三二八	増	一七五	四四四
		増	七、八八八	一五、四四〇

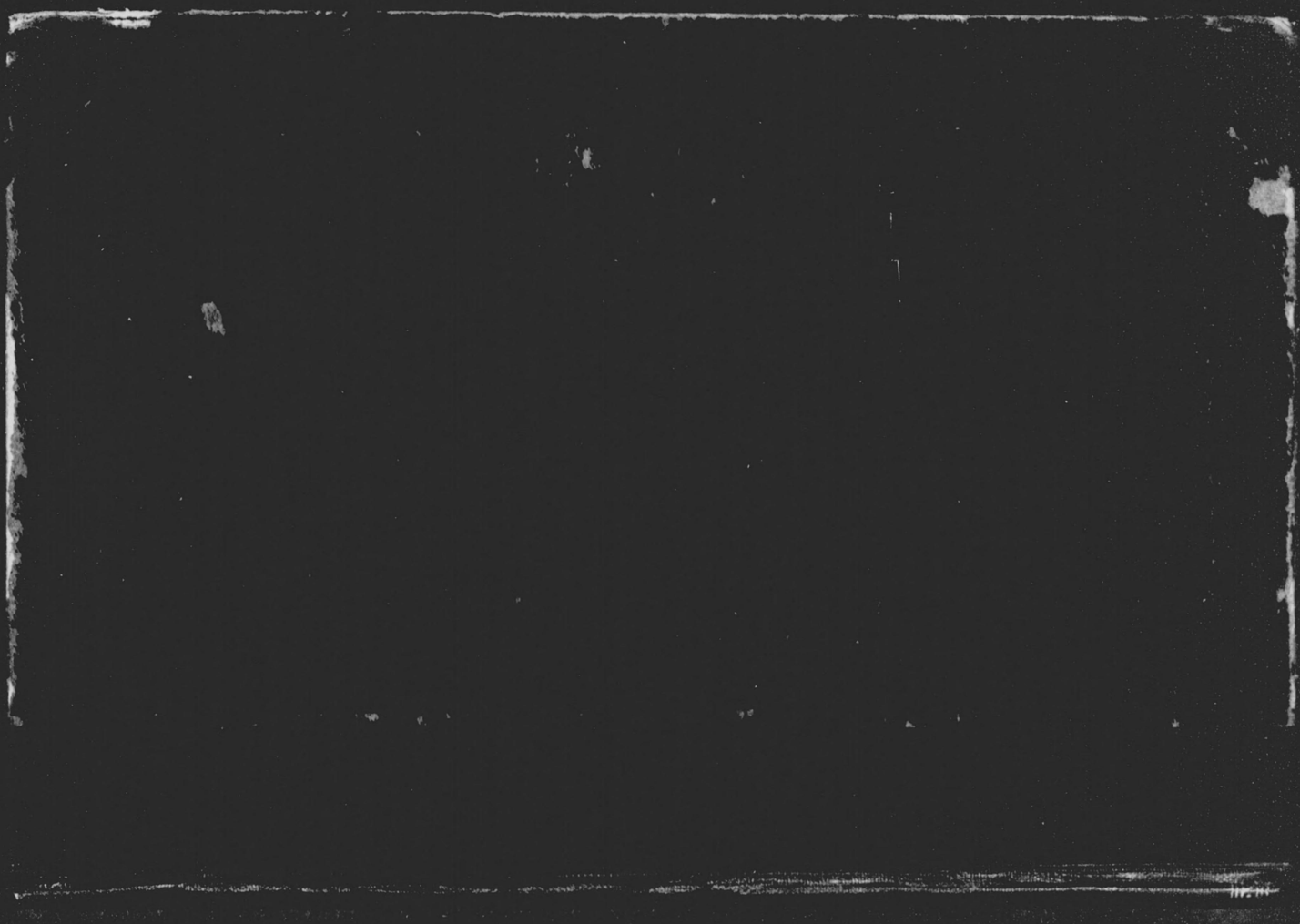
化學製品	一、二一四	増	一、二一四	一六
消毒劑	五三	減	三七	四〇八
其他薬劑	！	—	—	一〇
石鹸	八一	減	一〇	八一
紙	一、九七九	—	—	一、九七九
紙製品	一、六〇七	増	四七〇	一、一三七
紙製文房具	—	減	三〇二	三〇二
車輛	一、八二九	減	二、四二二	五九三
「ビーズ」	二〇	—	—	二〇
書籍	五一、〇三八	増	三九、二〇〇	一一、八三八
其他製品	六六、一八一	増	二六、〇八五	四〇、〇九六
燐寸	七九九	増	一八七	六一二
紙以外ノ文房具	五三六	—	—	五三六
薬製品	一、六七五	減	一、八一九	一四四
薬「マット」	二、七三九	増	二、二六二	四七七
玩具	三三〇	減	四五九	一二九
傘	—	減	三五三	三五三
其他	一、二六七、三八三	増	七五一、二六五	五一六、一一八
合計				

上掲輸入日本品四十四種ノ内前年ニ比シ減シタルモノハ染綿布、絹製品ノ兩種ヲ主トシ十一種ニ止ルモ、増加セルモノハ三十三種ニ登リ、就中陶器、硝子器、「エナメル」器、更紗、粗布其ノ他綿製品、絹反物、小間物類、莫大小、燐寸、其ノ他雜種製品等ハ何レモ前年ニ比シ激増ノ跡ヲ示セリ、以テ直航々路開通ニ依ル對日通商進展ノ狀ヲ見ルニ足ルヘシ

(ロ) 日本向輸出品 (單位留比)

品目	一九二七年度	一九二七年度	増減
丁子	四七、四三四	二九、五八五	増 一七、八四九
丁子莖	三〇〇	—	増 三〇〇
蜂蠟	一、六八八	—	増 一、六八八
「ゴム」	三二〇	—	増 三二〇
「コロンボルート」	一、六九六	三、一七〇	減 一、四七四
河馬牙	一六八	三、六四三	減 三、四七五
象牙	三九、〇一八	七八、九〇七	減 三九、八八九
其他原料品	六〇〇	—	増 六〇〇
犀牙	二、〇〇〇	—	増 二、〇〇〇
雜種綿製品	二、五〇〇	—	増 二、五〇〇
紙製品	九三七	—	増 九三七
箒及刷子	五〇	—	増 五〇
合計	九六、七一一	一一五、三〇五	減 一八、五九四

右輸出品十二種ノ内前年ニ比シ減少セルハ象牙、河馬牙、「コロンボルート」ノ三種、増加セルハ丁子其ノ他ノ八品ニシテ「ザンジバル」ノ特産品タル丁子ノ外ハ孰レモ再輸出ナルノミナラス、其ノ總計ニ於テハ前年ニ比シ一八、五九四留比ノ輸出減トナレリ

北ノ海ニ於テ一八七五年（明治八年）ニ出没シタル大日本帝国ノ軍艦雲揚ノ艦長井上良馨ハ、
ペテロパウロスク及ビ函館ニ於ケルロシア官吏ニ対シ、
本艦ハ測量ノ為メ朝鮮ノ江華島ニ至リ、
同島ノ近海ニ於テ朝鮮ノ砲台ヨリ発砲セラレタルヲ以テ、
之ニ応戦シ、
其砲台ヲ占領シタル旨ヲ報告シタリ。

594
38